

2023年度

授業科目履修心得

(2020年度入学生用)

関西学院大学理工学部

各項目上をクリックすると
該当ページが開きます。

目次

I. 授業スケジュール・履修登録スケジュール	4
1. 全学編	4
2. 学部個別編	7
II. 理念・目的	9
1. 関西学院大学の理念・目的	9
2. Kwansei コンピテンシー	9
3. 理工学部の理念・目的・教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー	10
4. チャペルアワー	30
III. 大学諸制度（授業関連基本ルール）①	31
1. 年度、学期（セメスター）、クォーターについて	31
2. 授業時間帯	31
3. 授業時間と単位の関係	32
4. 授業外学修時間	32
5. 授業形態	33
6. 各授業形態のシステム上の設定	34
7. 卒業に必要な単位として算入できるオンライン授業の単位数の上限	35
8. キャンパス間の移動を伴う履修	37
9. シラバス	38
10. 科目ナンバリング（科目ナンバー）	38
11. 履修基準年度	38
12. 履修・学習スタートガイドの紹介	39
13. 履修・学習スタートガイド、LUNA、ポートフォリオ	40
14. ポータルサイト kwic、学生向けチャットボット KG ChatBot	42
15. ダブルチャレンジ制度について	44
IV. 履修登録	45
1. 履修登録手順（予備登録科目、申込制科目の申請、本登録、履修中止 等）	45
2. 授業科目について	47
3. 履修単位数制限	48
4. 履修単位数制限緩和	49
5. ペア科目の履修	49
6. クラス指定科目	49
7. 先修条件	50
8. 他学部履修	51
9. 同一名称科目・履修制限	52
10. 入門英語	54
11. 再履修	55
12. デジタル版授業時間割	55
13. 「海外理工学プログラム」・「理工学特別プログラム」の履修について	55
V. 学部カリキュラム	56
1. 概要説明	56
2. 卒業に必要な単位	57
3. 履修モデル	71

VI. 卒業	73
1. 早期卒業制度	73
VII. 試験・成績・論文	74
1. 成績評価・試験	74
2. 成績評価・試験規程（抜粋）	75
3. GPA 制度	77
4. 成績評価基準	78
5. 成績発表	78
6. 成績調査	78
7. 単位認定	78
8. 試験	79
9. リポート	79
10. 剽窃について	80
VIII. 資格取得	81
1. 資格取得科目	81
IX. 教職課程等	82
1. 教職課程等について	
—教職課程、学校図書館司書教諭、博物館学芸員課程、国際バカロレア教員養成プログラム—	82
2. 教職課程における「教科に関する専門的事項」の科目について	82
X. 大学諸制度（授業関連基本ルール）②	83
1. オフィス・アワー	83
2. 本学主催の留学プログラムと試験が重複した際の取り扱い	83
3. 暴風警報・暴風雪警報・特別警報発令、交通機関運行遅延など不測の場合の措置	83
4. 授業の録音・撮影、授業の資料等の使用	85
5. 授業に関する調査	85
6. 複数分野専攻制〔Multidisciplinary Studies（略称：MS）〕	85
7. マルチプル・ディグリー制度（略称：MD）	85
XI. 一般注意事項	87
1. 学生証	87
2. 学部事務室開室時間	87
3. 各種変更手続き	87
4. パソコンの利用	87
5. 証明書等	88
6. 授業の欠席	89
7. 授業の長期欠席	89
8. 休学、復学、退学、除籍	90
9. 卒業延期制度	90
10. 学費	91
11. 各種相談	91
12. 海外渡航する場合には大学に届け出が必要です	92
13. 関西学院大学研究倫理について	93
14. 臨時バスの案内	94
15. 自動車通学【許可制】	94
16. 大学学部の授業・試験実施に関する警報発令時の下校方法（バス）	94

各項目上をクリックすると該当ページが開きます。

XII. その他	95
1. 学部内規	95
2. その他	100
XIII. 教育課程表	102
1. 理工学部学則別表（教育課程表）	102
2. 卒業可否の確認方法について 〈教育課程表を用いた例〉	112

I. 授業スケジュール・履修登録スケジュール

I

I. 全学編

■2023年度 授業・履修・行事予定スケジュール

【春学期（2023年4月1日～2023年9月19日）】

年・月	日・曜日・時間	カテゴリ	行 事
2023年 3月	23日(木) 9:00～24日(金) 16:50	履修	春学期優先申込制科目（スポーツ科学・健康科学科目） 申込期間
	28日(火) 9:00～	履修	春学期優先申込制科目（スポーツ科学・健康科学科目） 結果発表
	29日(水)～31日(金)	イベント	定期健康診断（上ヶ原）在校生対象 ※詳細は、kwicを確認すること
4月	1日(土)、3日(月)	イベント	春学期入学式
	1日(土) 9:00～4日(火) 16:50	履修	春学期申込制科目 申込期間
	3日(月)、4日(火)	イベント	定期健康診断（聖和）全学年対象 ※詳細は、kwicを確認すること
	4日(火)～7日(金)	履修	履修指導
	6日(木) 9:00～	履修	春学期申込制科目（学部開講科目） 結果発表
	7日(金) 9:00～	履修	春学期申込制科目（センター開講科目） 結果発表
	7日(金) 9:00～11:30	履修	春学期申込制科目 追加申込期間
	7日(金) 17:00	履修	春学期申込制科目 追加申込結果発表
	7日(金)、10日(月)～22日(土)	イベント	定期健康診断（上ヶ原）全学年対象 ※日曜日を除く。詳細は、kwicを確認すること
	10日(月)	授業	春学期・第1クォーター授業開始
	10日(月) 9:00～12日(水) 16:50	履修	春学期履修登録 本登録（1回目）期間（通年科目、クォーター科目、集中講義含む）
	10日(月)～14日(金)	イベント	定期健康診断（神戸三田）全学年対象 ※詳細は、kwicを確認すること
	17日(月) 9:00～18日(火) 16:50	履修	春学期履修登録 本登録（2回目※履修修正）期間
22日(土)	履修	（最終）春学期履修登録確認	
5月	23日(火)、24日(水)	授業・イベント	春季大学合同チャペル【授業短縮】 上ヶ原：第1時限終了 午前10時15分 第2時限開始 午前11時15分 三田：第1時限終了 午前10時25分 第2時限開始 午前11時25分
	25日(木) 9:00～31日(水) 16:50	履修	春学期履修中止申請期間
	26日(金)～6月5日(月)	イベント	TOEIC® L&R IP テスト（オンライン）受験期間 【対象者】以下の学部の1年生および国際学部の3年生 （神・文・社会・法・経済・商・人間福祉・教育・国際・理・工・生命環境・建築）
	29日(月)	授業	第2クォーター授業開始 ※水曜日授業は6月7日、木曜日授業は6月8日、金曜日授業は6月9日に開始
6月	2日(金)	授業	第1クォーター授業終了 ※月曜日授業は5月22日、火曜日授業は5月23日に終了
7月	17日(月・祝)	授業・試験	授業実施日 春学期補講・試験日（月曜日分）
	18日(火)	授業・試験	春学期補講・試験日（火曜日分）
	21日(金)	授業	春学期・第2クォーター授業終了 ※月曜日授業は7月10日、火曜日授業は7月11日に終了
	22日(土)	授業・試験	春学期補講・試験日（水曜日分）
	24日(月)	授業・試験	春学期補講・試験日（木曜日分）
	25日(火)	授業・試験	春学期補講・試験日（金曜日分）
	26日(水)～8月2日(水)	試験	春学期定期試験・中間試験
8月	3日(木)	試験	春学期定期試験・中間試験予備日
	7日(月)、8日(火)	試験	春学期追試験
	9日(水)～9月19日(火)	休み	夏季休業
	10日(木)	成績	春学期成績発表 4年生：9:00～、1年生：11:00～、2年生：13:00～、3年生：15:00～
9月	6日(水) 9:00	成績	春学期卒業生発表
	16日(土)	イベント	春学期卒業式

【秋学期（2023年9月20日～2024年3月31日）】

年・月	日・曜日・時間	カテゴリ	行事
2023年 9月	4日(月) 9:00～5日(火) 16:00	履修	秋学期優先申込制科目(スポーツ科学・健康科学科目)、教職実践演習(中・高) 申込期間
	7日(木) 9:00～	履修	秋学期優先申込制科目(スポーツ科学・健康科学科目)、教職実践演習(中・高) 結果発表
	7日(木) 9:00～8日(金) 16:00	履修	秋学期申込制科目 申込期間
	12日(火) 9:00～	履修	秋学期申込制科目(学部開講科目) 結果発表
	13日(水) 9:00～	履修	秋学期申込制科目(センター開講科目) 結果発表
	13日(水) 9:00～11:30	履修	秋学期申込制科目 追加申込期間
	14日(木) 9:00	履修	秋学期申込制科目 追加申込結果発表
	19日(火)	イベント	秋学期入学式
	20日(水)	授業	秋学期・第3クォーター授業開始
	20日(水) 9:00～22日(金) 16:50	履修	秋学期履修登録 本登録(1回目)期間(クォーター科目、集中講義含む)
	28日(木・創立記念日)	授業	授業実施日
	28日(木) 9:00～29日(金) 16:50	履修	秋学期履修登録 本登録(2回目※履修修正)期間
10月	4日(水)	履修	(最終) 秋学期履修登録確認
	9日(月・祝)	授業	授業実施日
	19日(木)、20日(金)	授業・イベント	秋季大学合同チャペル【授業短縮】 上ヶ原・聖和：第1時限終了 午前10時15分 第2時限開始 午前11時15分 三田：第1時限終了 午前10時25分 第2時限開始 午前11時25分
	21日(土)、22日(日)	イベント	大学祭(神戸三田キャンパス)
11月	3日(金・祝)	授業	授業実施日
	4日(土)、5日(日)	イベント	大学祭(西宮上ヶ原キャンパス)
	7日(火)	授業	第3クォーター授業終了
	8日(水)	授業	第4クォーター授業開始
	11日(土)、12日(日)	イベント	大学祭(西宮聖和キャンパス)
	15日(水) 9:00～21日(火) 16:50	履修	秋学期履修中止申請期間
12月	1日(金)～11日(月)	イベント	TOEIC® L&R IPテスト(オンライン)受験期間 【対象者】以下の学部の2年生 (神・文・社会・法・経済・商・人間福祉・教育・理・工・生命環境・建築)
	11日(月)	授業・イベント	大学合同アドベントチャペル【授業短縮】 上ヶ原・聖和：第1時限終了 午前10時15分 第2時限開始 午前11時15分 三田：第1時限終了 午前10時25分 第2時限開始 午前11時25分
	23日(土)	授業	冬季休業前授業終了
	24日(日)～1月5日(金)	休み	冬季休業
2024年 1月	6日(土)	授業	冬季休業明け授業開始
	9日(火)	授業	授業実施なし ※1月8日に遠方で行われる成人の日式典出席者に配慮し授業実施なし
	10日(水)	授業・試験	秋学期補講・試験日(水曜日分)
	12日(金)	授業・試験	秋学期補講・試験日(金曜日分)
	16日(火)	授業	秋学期・第4クォーター授業終了 ※水曜日授業は12月20日、金曜日授業は12月22日に終了
	17日(水)	授業・試験	秋学期補講・試験日(月曜日分)
	18日(木)	授業・試験	秋学期補講・試験日(木曜日分)
	19日(金)	授業・試験	秋学期補講・試験日(火曜日分)
	20日(土)～27日(土)	試験	秋学期定期試験
	29日(月)	試験	秋学期定期試験予備日
2月	13日(火)、14日(水)、15日(木)	試験	秋学期追試験(予備日含む)
	16日(金)～3月31日(日)	休み	春季休業
	19日(月)	成績	秋学期成績発表 4年生：9:00～、1年生：11:00～、2年生：13:00～、3年生：15:00～
3月	7日(木) 9:00	成績	秋学期卒業生発表 ※理工学部を除く。理工学部の卒業生発表日は別途通知。
	18日(月)、19日(火)	イベント	秋学期卒業式
	20日(水)	イベント	秋学期卒業式予備日

※表のカテゴリ(イベント、履修、授業、試験、成績、休み)のうち、「履修」「成績」について行を色付けています。
 ※学部によって、全学編スケジュールに追加して、行事を設定している場合があります。学部からのお知らせに注意してください。
 ※TOEICはエデュケーション・テスト・サービス(ETS)の登録商標です。この媒体はETSの検討を受けまたその承認を得たものではありません。

2023年度授業日程一覧

I

【春学期】

	日	月	火	水	木	金	土						
4月	春季休業：2023年2月15日～3月31日							1					
	2	3	4	5	6	7	8						
	9	10	①	11	①	12	①	13	①	14	①	15	
	16	17	②	18	②	19	②	20	②	21	②	22	
	23	24	③	25	③	26	③	27	③	28	③	29	昭和の日
	30	1	④	2	④	3	憲法記念日	4	みどりの日	5	こどもの日	6	
5月	7	8	⑤	9	⑤	10	④	11	④	12	④	13	
	14	15	⑥	16	⑥	17	⑤	18	⑤	19	⑤	20	
	21	22	⑦	23	⑦	24	⑥	25	⑥	26	⑥	27	
	28	29	⑧	30	⑧	31	⑦	1	⑦	2	⑦	3	
6月	4	5	⑨	6	⑨	7	⑧	8	⑧	9	⑧	10	
	11	12	⑩	13	⑩	14	⑨	15	⑨	16	⑨	17	
	18	19	⑪	20	⑪	21	⑩	22	⑩	23	⑩	24	
	25	26	⑫	27	⑫	28	⑪	29	⑪	30	⑪	1	
7月	2	3	⑬	4	⑬	5	⑫	6	⑫	7	⑫	8	
	9	10	⑭	11	⑭	12	⑬	13	⑬	14	⑬	15	
	16	17	海の日/補講・試験日 (月曜日分)	18	補講・試験日 (火曜日分)	19	⑭	20	⑭	21	⑭	22	補講・試験日 (水曜日分)
	23	24	補講・試験日 (木曜日分)	25	補講・試験日 (金曜日分)	26	定期試験・中間試験	27	定期試験・中間試験	28	定期試験・中間試験	29	定期試験・中間試験
	30	31	定期試験・中間試験	1	定期試験・中間試験	2	定期試験・中間試験	3	定期試験・中間試験 予備日	4		5	
8月	6	7	追試験	8	追試験	夏季休業：2023年8月9日～9月19日							

【秋学期】

	日	月	火	水	木	金	土						
9月	夏季休業：2023年8月9日～9月19日				20	①	21	①	22	①	23	秋分の日	
	24	25	①	26	①	27	②	28	②・創立記念日	29	②	30	
10月	1	2	②	3	②	4	③	5	③	6	③	7	
	8	9	③・スポーツの日	10	③	11	④	12	④	13	④	14	
	15	16	④	17	④	18	⑤	19	⑤	20	⑤	21	
	22	23	⑤	24	⑤	25	⑥	26	⑥	27	⑥	28	
	29	30	⑥	31	⑥	1	⑦	2	⑦	3	⑦・文化の日	4	
11月	5	6	⑦	7	⑦	8	⑧	9	⑧	10	⑧	11	
	12	13	⑧	14	⑧	15	⑨	16	⑨	17	⑨	18	
	19	20	⑨	21	⑨	22	⑩	23	⑩・勤労感謝の日	24	⑩	25	
	26	27	⑩	28	⑩	29	⑪	30	⑪	1	⑪	2	
12月	3	4	⑪	5	⑪	6	⑫	7	⑫	8	⑫	9	
	10	11	⑫	12	⑫	13	⑬	14	⑬	15	⑬	16	
	17	18	⑬	19	⑬	20	⑭	21	⑭	22	⑭	23	
	冬季休業：2023年12月24日～2024年1月5日							1/6					
1月	7	8	成人の日	9	《授業無し》	10	補講・試験日 (水曜日分)	11	⑭	12	補講・試験日 (金曜日分)	13	
	14	15	⑭	16	⑭	17	補講・試験日 (月曜日分)	18	補講・試験日 (木曜日分)	19	補講・試験日 (火曜日分)	20	定期試験
	21	22	定期試験	23	定期試験	24	定期試験	25	定期試験	26	定期試験	27	定期試験
	28	29	定期試験予備日	30		31		1		2		3	
2月	4	5		6		7		8		9		10	
	11	12	建国記念の日/振替	13	追試験	14	追試験	15	追試験	春季休業：2024年2月16日～3月31日			

備考

- ・○で囲まれた数字は春学期・秋学期の各曜日の授業回数を示しています。(各学期の授業回数は、各曜日14回です。)
- ・「補講・試験日」は授業回数14回には含まれません。
- ・各学期末の「補講・試験日」は、曜日ごとに1日設定されており、補講や授業中試験、定期試験が実施される場合があります。なお、補講や試験が実施される場合は、授業担当者やLUNA、kwic等を通じてお知らせします。

2. 学部個別編

〈春学期履修登録〉

履修登録該当授業科目

- ① 予備登録で許可された授業科目および事前申込科目（一部の再履修科目含む）
- ② 春学期開講の授業科目
- ③ 通年開講および通年開講扱いの授業科目（集中講義・卒研科目など）

通年科目および通年扱い科目を履修する場合、該当する曜日・時限の秋学期の時間割もよく確かめておくこと。履修した通年科目を秋学期に他の科目に変更することはできない。

履修登録スケジュール	
本登録（1回目）期間	
履修登録	4月10日(月) 9:00～4月12日(水) 16:50 ※期間中は追加・削除が可能。
本登録（2回目 ※履修修正）期間	
修正手続	4月17日(月) 9:00～4月18日(火) 16:50 ※期間中は追加・削除が可能。
(最終) 履修登録確認 (Web)	4月22日(土) 各自 Web 上で最終の登録内容を必ず確認すること。
履修の中止	5月25日(木) 9:00～5月31日(水) 16:50 ※履修中止できない科目については、kwicで確認すること。

〈秋学期履修登録〉

履修登録該当授業科目

- ① 予備登録で許可された授業科目および事前申込科目（一部の再履修科目含む）
- ② 秋学期開講の授業科目

履修登録スケジュール	
本登録（1回目）期間	
履修登録	9月20日(水) 9:00～9月22日(金) 16:50 ※期間中は追加・削除が可能。
本登録（2回目 ※履修修正）期間	
修正手続	9月28日(木) 9:00～9月29日(金) 16:50 ※期間中は追加・削除が可能。
(最終) 履修登録確認	10月4日(水) 各自 Web 上で最終の登録内容を必ず確認すること。
履修の中止	11月15日(水) 9:00～11月21日(火) 16:50 ※履修中止できない科目については、kwicで確認すること。

授業開始までに事前の手続きを要する科目（一部の再履修科目含む）

授業科目によっては、授業開始前の準備や収容人数の制限等の事情によって、授業開始前に事前の手続を完了しておかなければ履修できないものがある。kwic 掲載の「履修登録スケジュール」をよく読んで誤りのないよう手続を行うとともに、予備登録した科目は必ず履修すること。

Web 上であらかじめ科目が表示されている場合は、その内容に間違いがないかどうか各自の責任で確認すること。

履修上の優先順位について

理工学部のカリキュラムでは、できるだけ自主的な履修計画を尊重しているが、演習科目および実験・実習科目は設備上の制約があるので、履修希望者が定員を超過した場合は、次のような原則で履修上の優先順位を設けている。ただし、特段の事情がある場合はこの限りではない。

- 優先順位 1 当該科目を必修科目とする当該履修基準年度の学生。
- 優先順位 2 当該科目を必修科目とする当該履修基準年度以外の学生。
- 優先順位 3 当該科目を教職免許種（※）の必修科目とする教職免許取得希望者。
- 優先順位 4 当該科目を必修科目としない当該履修基準年度の学生。
- 優先順位 5 当該科目を必修科目としない当該履修基準年度以外の学生。

※ただし、各所属学科に設置された教職免許種のみとする。

II. 理念・目的

1. 関西学院大学の理念・目的

関西学院大学はその理念とするキリスト教主義に基づき、教育基本法および学校教育法の規定するところに従い、広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究し、人格を陶冶することを目的とする。

本学初代学長（第4代院長）C. J. L. ベーツが提唱したスクールモットー“Mastery for Service（奉仕のための練達）”は、関西学院の建学の精神を簡潔に表現するものであり、「社会貢献のためにこそ実力を身につけよ」と解されている。本学は、知性を、そして自らが持つすべての豊かさを、隣人のために用いることを強調するとともに、創立当初から培われてきた国際性と社会貢献への使命感を身につけた世界市民の育成を重視する。

本学は、教育においては、全人的教養および専門的知識・技能を修得させるとともに、広く創造力、課題発見能力、課題解決能力そして実行力を培うことをめざす。また、研究においては、本学として特色ある基礎研究を強化しつつ、応用研究および先端的研究を発展充実させるとともに、研究成果を社会に還元して、社会貢献することをめざす。

2. Kwansei コンピテンシー

関西学院は、キリスト教主義に基づく全人教育によって“Mastery for Service”を体現する世界市民」を育成することを使命としています。その実現に向けて、すべての学生が卒業時に学部の特徴なく共通に身に付けるべき知識・能力・資質を「Kwansei コンピテンシー」と定め、これを大学の教育に通底するものとして位置づけます。

「Kwansei コンピテンシー」は、各学部の教育課程やそれを補完する全学科目等の「正課教育」だけでなく、クラブでのスポーツ・文化・芸術活動、ボランティア活動、寮生活等の「正課外教育」、さらには友人関係、教員・職員との交流、キャンパスの豊かな自然も含めた大学の多様な「環境」によっても育まれます。

（知識）

- 幅広い知識・深い専門性
- 多様性への理解

（資質）

- 困難を乗り越える粘り強さ
- よりよい社会に変革する情熱
- 誠実さと品位

（能力）

- 論理的な思考力
- 主体的に行動する力
- 生涯にわたって学び続ける力
- 豊かな人間関係を築く力
- 対立する価値を調整する力

Kwansei
コンピテンシー



関西学院は、幼稚園から大学・大学院までの教育を通じて、この学院に学ぶすべての者がこれらのコンピテンシーを段階的に身に付け、高めていくことをめざします。

3. 理工学部理念・目的・教育目標、 ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

3.1 理工学部理念・目的・教育目標

理工学部の基礎になっている理学部は、1961年の創設以来、物理学科、化学科の2学科で活動を行い、自然科学の基礎的分野の教育と研究を行ってきた。21世紀に大きな発展が予見される情報科学と生命科学の分野を充実し、工学的な領域にまで教育と研究の拡充をはかり、社会との繋がりをより一層強めていくために、2002年4月に情報科学科と生命科学科を新設し、理学部を理工学部へ改組した。さらに2009年4月に数理科学科と人間システム工学科を新設し、6学科体制となり、2015年4月には先進エネルギーナノ工学科、環境・応用化学科、生命医化学科を新設し、9学科体制となった。

理工学部は、「自然科学の基本原則とその応用について教育と研究を行い、自然科学・科学技術と建学の精神であるキリスト教主義を基盤において人類の進歩に貢献する。」ことを理念としてその教育・研究活動を行っている。

この理念のもとに、理工学部は次の目的を掲げる。

- 1) 自然科学・科学技術の幅広い分野にわたり、基礎的研究を中心におきながら応用も視野に入れ、それぞれの分野が相互に緊密な連携を保ちながら常に先端的でレベルの高い研究を行う。
- 2) しっかりとした自然科学の基礎知識と能力を身につけ、基礎を応用に繋げていくことが出来る柔軟な思考力を養い、未知の問題を発見していく能力と、その未知の問題に果敢に挑戦し、解決していくことが出来る能力に優れた、創造性に溢れた人材を育成する。
- 3) 自然科学・科学技術の知識と能力とともに、幅広い教養を養い、キリスト教主義教育で培われた豊かな人間性と倫理観を備えた人材を育てる。
- 4) 社会との強い繋がりを絶えず念頭に置き、自然科学を通して社会に大きなインパクトを与え、また、その技術的応用を通して、人類の進歩に寄与することが出来る教育と研究ならびに人材の育成を行う。

この目的を実現するために、次の教育目標を設ける。

- 1) 自然科学・科学技術の幅広い分野にわたって基礎知識と能力を修得し、多様な教養教育により人格形成に努めるとともに広い視野を養い、社会のいろいろな分野で活躍することができる人材を育成する。
- 2) 実験科目、演習科目、卒業研究を重視し、これらの科目を通して、自然科学・科学技術の最新の研究に携わる機会を持ち、自然科学の真理を探究していくことの楽しさと感動を身近に体験するとともに、自然科学の知識や能力を社会に活かしていくための応用的能力を養う。
- 3) 英語の能力は、自然科学・科学技術を学ぶ上で必須の要件であり、研究の成果を世界に向けて発信していくためにも不可欠である。英語に強い理系の人材育成を目指し、英語教育に力を入れる。

3.2 理工学部の人材育成目標

【理工学部】

自然科学・科学技術の幅広い分野にわたり、基礎から応用まで相互に連携しつつ、常に先進的でレベルの高い研究を行う。また、確固とした専門的知識と研究技法を身につけ、基礎知識を課題解決に繋げる柔軟な思考力を養うとともに、未知の問題を発見し挑戦していく創造力あふれる科学者・技術者を育てる。さらに、専門的能力に加えて幅広い教養教育およびキリスト教主義教育で培われた豊かな人間性と倫理観を備え、国際的に活躍し社会貢献できる世界市民を育成する。

〈数理科学科〉

自然科学を学ぶ上で不可欠であり、自然科学のどの分野においても極めて重要な役割を果たしている数

学を、理論と応用の両面から教育・研究し、柔軟で論理的な思考能力を持つ人材を育成する。数学の基礎理論を身につけ、数学的能力、コンピュータを思考の道具として駆使していく能力、数学の応用能力を養い、理系はもとより文系の分野も含めて幅広い分野でその能力を発揮できる人材を育てる。

〈物理学科〉

物理学の理解に必要な数学の基礎知識と応用力を習得し、力学・電磁気・熱現象等のマクロな物理学から量子力学、相対性理論、統計力学等の現代物理学までの物理法則の深いレベルでの理解をはかる。実験や演習を通して基礎と応用の両面で論理的思考能力と専門性を必要とする職業に対応できる能力を培うと同時に、視野を広め、既成の概念や常識に挑戦し、他の学問領域に進出していくことができるだけのチャレンジ精神と創造性を有する人材の育成をはかる。

〈先進エネルギーナノ工学科〉

グリーンイノベーションの基盤となる、エネルギーを「創る」、「蓄える」、「運ぶ」、「有効に使う」の4つの分野において、基礎から応用までの幅広い知識を学生に獲得させる。物理学・化学・数学の学習をベースに、次世代のエネルギー創生、蓄積、輸送、変換をナノテクノロジーを駆使して実現する創造力（イノベーション力）を養い、我が国が抱えるエネルギー問題に新たな視点から取り組むことのできる人材を育成する。

〈化学科〉

化学の基礎である物質の構造・物性・反応について、とくに物質の構造や機能の分子レベルでの解明法、既知・新規機能物質の合理的な合成法等を教授し、将来、研究・開発に携わることのできる優れた人材を育成する。さらに、現代社会のニーズに応じた明瞭な社会貢献を目指し、既存の化学から新領域へ挑戦できる人材を養成する。

〈環境・応用化学科〉

地球環境問題に関連するさまざまな課題に対して化学を基軸としたアプローチによって柔軟に取り組み、国際的に活躍できる個性豊かな人材の育成を目指す。具体的には、原子・分子の世界から地球レベルの問題まで幅広い知識と深い専門性を有し、多角的な視点を身につけることによって、環境・応用化学分野に深い関心を抱き、新しい課題に挑戦する情熱と知恵を持った人材の養成をはかる。

〈生命科学科〉

環境、食糧、エネルギー、医療など、21世紀の重要課題の解決および環境との調和を保つ社会構築に貢献する研究、教育および社会連携を目標とする。広い視野にたった倫理観を有し、生命現象を分子レベルから理解する基礎能力を修得し、応用できる人材を養成する。

〈生命医化学科〉

先端医療や製薬など、ヒトの疾病治療や健康維持に貢献するために、医化学を共通の基盤として生命科学や情報学を基礎医学系分野に応用できる人材の養成を目指す。ヒトの細胞やマウスなどの哺乳動物モデルを用い、生命科学や情報学の知識および生命に対する健全な倫理観を有する人材を育てる。

〈情報科学科〉

健全な情報化社会をリードし、新たな情報技術を創造できる人材の育成を目指す。特に高度情報化社会に必要なソフトウェアと情報ネットワークを中心とした技術の開発・研究に従事する技術者の養成を行う。また、情報科学以外の自然科学・社会科学の分野とも繋がりを強め、情報通信産業、ソフトウェア産業及びコンテンツ産業に高度な知識を持った人材を供給し、新しい科学・技術・文化の領域において社会貢献を果たす。

〈人間システム工学科〉

人間をトータルシステムとして探求する工学的視点を中心に据え、メディアやロボティクス等の魅力ある動機付けのもとに、その基礎となる数理科学を確実に身につけさせる。演習を重視したカリキュラムにより、感性・脳科学、信号処理、制御、センサなど現実に即した課題の学習・研究を通して論理的思考力・問題解決力・自己管理能力・リーダーシップ等を兼ね備えた学生を輩出し、新しい文化の形成において社会貢献を果たす。

3.3 理工学部数理科学科のディプロマ・ポリシー

関西学院は、キリスト教主義に基づく全人教育によって「“Mastery for Service”を体現する世界市民」を育成することを使命としており、その実現に向けて、すべての学生が卒業時に学部の区別なく共通に身につけるべき知識・能力・資質を「Kwansei コンピテンシー」と定め、これを大学教育に通底するものとして位置づける。

そして自然科学の基本原則とその応用について教育と研究を行い、自然科学・科学技術と建学の精神であるキリスト教主義を基盤において人類の進歩に貢献する理工学部の理念の下、理工学部数理科学科の学生が卒業時に身につけておくべき知識・能力を次のとおり定める。

1. [関心・意欲・態度] 自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢

- (1) 自らを律する強さと高い倫理観を持ち、他者と協力してよりよい人間関係や社会を築くための基本的な態度を身につけている。
- (2) 自然科学・科学技術と社会、文化、人間との関係に深い関心を抱き、自然科学・科学技術の発展を通じて、人類の進歩に貢献しようとする意欲を持っている。

2. [知識・理解] 幅広い知識と深い専門性

- (1) 社会、文化、人間、自然科学・科学技術についての幅広い知識と、多角的な視点を身につけている。
- (2) 数理科学分野における基礎知識を体系的・構造的に理解している。
- (3) 数理科学分野における基礎的な技能を修得している。
- (4) 基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識、および柔軟な思考力を有している。
- (5) 社会、文化、人間等との様々な関係において、専門分野の学問的・技術的発展が持つ意義を理解している。

3. [技能・表現] 実践的な学習技能とコミュニケーション力

- (1) 論理的思考力、情報収集力、データ分析力、表現力及びコンピュータとネットワークを活用する能力を身につけている。
- (2) 日本語および英語によって、コミュニケーションできる力を身につけている。

4. [思考・判断] 課題解決のための総合的思考・判断力

現代社会における問題に取り組むための、課題発見力、創造的思考力および課題解決能力を身につけている。

3.4 理工学部数理科学科のカリキュラム・ポリシー

理工学部数理科学科における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目にて構成し、専門教育科目は必修科目、基礎科目、コンピュータ科目、発展科目)、専門選択科目にて構成する。各科目群については理工学部数理科学科ディプロマ・ポリシーに沿う形で以下の方針をもって実施する。

〔総合教育科目〕

「キリスト教科目」

初年次に担当し、本学の建学の精神であるキリスト教主義にもとづく人間形成によって、自らを律する強さ、倫理観、他者との協調性などの基本的な態度を身につけさせる。

「英語教育科目」

自然科学・科学技術分野における共通言語である英語を低学年次に担当する。自ら情報発信できるよう、総合的な英語コミュニケーション能力を修得させる。

「総合選択科目」

社会、文化、人間、自然科学・科学技術について、幅広い教養と視野を身につけさせる。

〔専門教育科目〕

「基礎科目」

主に低学年次に担当し、各専攻分野における基礎知識を講義等を通じて修得させる。

「コンピュータ科目」

各専攻分野における基礎的な技能、コンピュータを活用する技能、および基礎知識を体系的・構造的に理解し論理的に思考する力を実験・演習・実習を通じて修得させる。

「発展科目」

主に高学年次に担当し、基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識を講義等を通じて修得させる。

「専門選択科目」

主に専攻分野以外の自然科学・科学技術などについて、幅広い教養と視野を養成し、各専攻分野の伸展となる知識を修得させる。

理工学部数理科学科 カリキュラム・マップ（概要）
（ディプロマ・ポリシーの項目とカリキュラム・ポリシーの科目群の主たる方針との対応表）

ディプロマ・ポリシーの項目 カリキュラム・ポリシーの科目群		1		2					3		4
		(1)	(2)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	
総合教育科目	キリスト教科目	○									
	英語教育科目									○	
	総合選択科目			○							
専門教育科目	必修科目				○						
	基礎科目				○						
	コンピュータ科目					○			○		
	発展科目						○	○			○
	専門選択科目		○	○							

3.5 理工学部物理学科のディプロマ・ポリシー

関西学院は、キリスト教主義に基づく全人教育によって「“Mastery for Service”を体現する世界市民」を育成することを使命としており、その実現に向けて、すべての学生が卒業時に学部の区別なく共通に身につけるべき知識・能力・資質を「Kwansei コンピテンシー」と定め、これを大学教育に通底するものとして位置づける。

物理学科では理工学部の教育理念の下で、物理学の分野において、自然科学・科学技術と建学の精神であるキリスト教主義を基盤とした教育研究を行ない、人類の進歩に資する人材を輩出する。ここに、物理学科は学生が卒業時に身につけておくべき知識・能力を次のとおり定める。

1. [関心・意欲・態度] 自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢

- (1) 自らを律する強さと高い倫理観を持ち、他者と協力してよりよい人間関係や社会を築くための基本的な態度を身につけている。
- (2) 自然科学・科学技術と社会、文化、人間との関係に深い関心を抱き、自然科学・科学技術の発展を通じて、人類の進歩に貢献しようとする意欲を持っている。

2. [知識・理解] 幅広い知識と深い専門性

- (1) 社会、文化、人間、自然科学・科学技術についての幅広い知識と、多角的な視点を身につけている。
- (2) 物理学分野における基礎知識を体系的・構造的に理解している。
- (3) 物理学分野における基礎的な技能を修得している。
- (4) 基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識、および柔軟な思考力を有している。
- (5) 社会、文化、人間等との様々な関係において、専門分野の学問的・技術的発展が持つ意義を理解している。

3. [技能・表現] 実践的な学習技能とコミュニケーション力

- (1) 論理的思考力、情報収集力、データ分析力、表現力及びコンピュータとネットワークを活用する能力を身につけている。
- (2) 日本語および英語によって、コミュニケーションできる力を身につけている。

4. [思考・判断] 課題解決のための総合的思考・判断力

現代社会における問題に取り組むための、課題発見力、創造的思考力および課題解決能力を身につけている。

3.6 理工学部物理学科のカリキュラム・ポリシー

理工学部物理学科における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目にて構成し、専門教育科目は物理系科目（卒業研究科目、コア科目、実験科目、選択科目）、数学系科目、専門選択科目にて構成する。各科目群については理工学部物理学科ディプロマ・ポリシーに沿う形で以下の方針をもって実施する。

[総合教育科目]

「キリスト教科目」

初年次に配当し、本学の建学の精神であるキリスト教主義にもとづく人間形成によって、自らを律する強さ、倫理観、他者との協調性などの基本的な態度を身につけさせる。

「英語教育科目」

自然科学・科学技術分野における共通言語である英語を低学年次に配当する。自ら情報発信できるよう、総合的な英語コミュニケーション能力を修得させる。

「総合選択科目」

社会、文化、人間、自然科学・科学技術について、幅広い教養と視野を身につけさせる。

[専門教育科目]

「物理系科目」

「卒業研究科目」

4年次に配当し、各専攻分野の学問的・技術的発展が社会、文化、人間等との様々な関連において持つ意味を理解させた上で、取り組むための課題を発見させ、これまでに培ったコミュニケーション力・知識・技能を用いて課題解決に向けて意欲的に取り組ませることにより、現代社会における問題解決力を修得させる。

「コア科目」

各専攻分野における基礎知識を講義等を通じて修得させる。

「実験科目」

各専攻分野における基礎的な技能、コンピュータを活用する技能、および基礎知識を体系的・構造的に理解し論理的に思考する力を実験・演習・実習を通じて修得させる。

「数学系科目」

基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識を講義等を通じて修得させる。

「専門選択科目」

主に専攻分野以外の自然科学・科学技術などについて、幅広い教養と視野を養成し、各専攻分野の伸展となる知識を修得させる。

理工学部物理学科 カリキュラム・マップ (概要)

(ディプロマ・ポリシーの項目とカリキュラム・ポリシーの科目群の主たる方針との対応表)

ディプロマ・ポリシーの項目 カリキュラム・ポリシーの科目群		1		2					3		4	
		(1)	(2)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)		
総合教育科目	キリスト教科目	○										
	英語教育科目									○		
	総合選択科目			○								
専門教育科目	物理系科目	卒業研究科目	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		コア科目				○						
		実験科目				○	○	○		○	○	
	数学系科目				○							
	専門選択科目				○	○	○		○	○		

3.7 理工学部先進エネルギーナノ工学科のディプロマ・ポリシー

関西学院は、キリスト教主義に基づく全人教育によって「“Mastery for Service”を体現する世界市民」を育成することを使命としており、その実現に向けて、すべての学生が卒業時に学部の区別なく共通に身につけるべき知識・能力・資質を「Kwansei コンピテンシー」と定め、これを大学教育に通底するものとして位置づける。

そして自然科学の基本原則とその応用について教育と研究を行い、自然科学・科学技術と建学の精神であるキリスト教主義を基盤において人類の進歩に貢献する理工学部の理念の下、理工学部先進エネルギーナノ工学科の学生が卒業時に身につけておくべき知識・能力を次のとおり定める。

1. [関心・意欲・態度] 自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢

- (1) 自らを律する強さと高い倫理観を持ち、他者と協力してよりよい人間関係や社会を築くための基本的な態度を身につけている。
- (2) 自然科学・科学技術と社会、文化、人間との関係に深い関心を抱き、自然科学・科学技術の発展を通じて、人類の進歩に貢献しようとする意欲を持っている。

2. [知識・理解] 幅広い知識と深い専門性

- (1) 社会、文化、人間、自然科学・科学技術についての幅広い知識と、多角的な視点を身につけている。
- (2) 先進エネルギーナノ工学分野における基礎知識を体系的・構造的に理解している。
- (3) 先進エネルギーナノ工学分野における基礎的な技能を修得している。
- (4) 基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識、および柔軟な思考力を有している。
- (5) 社会、文化、人間等との様々な関係において、専門分野の学問的・技術的発展が持つ意義を理解している。

3. [技能・表現] 実践的な学習技能とコミュニケーション力

- (1) 論理的思考力、情報収集力、データ分析力、表現力及びコンピュータとネットワークを活用する能力を身につけている。
- (2) 日本語および英語によって、コミュニケーションできる力を身につけている。

4. [思考・判断] 課題解決のための総合的思考・判断力

現代社会における問題に取り組むための、課題発見力、創造的思考力および課題解決能力を身につけている。

3.8 理工学部先進エネルギーナノ工学科のカリキュラム・ポリシー

理工学部先進エネルギーナノ工学科における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目にて構成し、専門教育科目は必修科目、選択必修科目（基礎科目〈数学系、物理系、化学系〉、実験科目、発展科目、先端科目）、専門選択科目にて構成する。各科目群については理工学部先進エネルギーナノ工学科ディプロマ・ポリシーに沿う形で以下の方針をもって実施する。

〔総合教育科目〕

「キリスト教科目」

初年次に配当し、本学の建学の精神であるキリスト教主義にもとづく人間形成によって、自らを律する強さ、倫理観、他者との協調性などの基本的な態度を身につけさせる。

「英語教育科目」

自然科学・科学技術分野における共通言語である英語を低学年次に配当する。自ら情報発信できるよう、総合的な英語コミュニケーション能力を修得させる。

「総合選択科目」

社会、文化、人間、自然科学・科学技術について、幅広い教養と視野を身につけさせる。

〔専門教育科目〕

「卒業研究科目」

4年次に配当し、各専攻分野の学問的・技術的発展が社会、文化、人間等との様々な関連において持つ意味を理解させた上で、取り組むための課題を発見させ、これまでに培ったコミュニケーション力・知識・技能を用いて課題解決に向けて意欲的に取り組ませることにより、現代社会における問題解決力を修得させる。

「基礎科目」

主に低学年次に配当し、各専攻分野における基礎知識を講義等を通じて修得させる。

「実験科目」

各専攻分野における基礎的な技能、コンピュータを活用する技能、および基礎知識を体系的・構造的に理解し論理的に思考する力を実験・演習・実習を通じて修得させる。

「発展科目」

主に高学年次に配当し、基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識を講義等を通じて修得させる。

「先端科目」

主に高学年次に配当し、基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識を講義等を通じて修得させる。

「専門選択科目」

主に専攻分野以外の自然科学・科学技術などについて、幅広い教養と視野を養成し、各専攻分野の伸展となる知識を修得させる。

理工学部先進エネルギーナノ工学科 カリキュラム・マップ（概要）
（ディプロマ・ポリシーの項目とカリキュラム・ポリシーの科目群の主たる方針との対応表）

ディプロマ・ポリシーの項目 カリキュラム・ポリシーの科目群		1		2					3		4
		(1)	(2)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	
総合教育科目	キリスト教科目	○									
	英語教育科目									○	
	総合選択科目			○							
専門教育科目	卒業研究科目		○					○	○		○
	基礎科目				○						
	実験科目				○	○			○		
	発展科目						○				
	先端科目							○			
	専門選択科目			○							

3.9 理工学部化学科のディプロマ・ポリシー

関西学院は、キリスト教主義に基づく全人教育によって「“Mastery for Service”を体現する世界市民」を育成することを使命としており、その実現に向けて、すべての学生が卒業時に学部の区別なく共通に身につけるべき知識・能力・資質を「Kwansei コンピテンシー」と定め、これを大学教育に通底するものとして位置づける。

そして自然科学の基本原則とその応用について教育と研究を行い、自然科学・科学技術と建学の精神であるキリスト教主義を基盤において人類の進歩に貢献する理工学部の理念の下、理工学部化学科の学生が卒業時に身につけておくべき知識・能力を次のとおり定める。

1. [関心・意欲・態度] 自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢

- (1) 自らを律する強さと高い倫理観を持ち、他者と協力してよりよい人間関係や社会を築くための基本的な態度を身につけている。
- (2) 自然科学・科学技術と社会、文化、人間との関係に深い関心を抱き、自然科学・科学技術の発展を通じて、人類の進歩に貢献しようとする意欲を持っている。

2. [知識・理解] 幅広い知識と深い専門性

- (1) 社会、文化、人間、自然科学・科学技術についての幅広い知識と、多角的な視点を身につけている。
- (2) 化学における基礎知識を体系的・構造的に理解している。
- (3) 化学における基礎的な技能を修得している。
- (4) 基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識、および柔軟な思考力を有している。
- (5) 社会、文化、人間等との様々な関係において、専門分野の学問的・技術的発展が持つ意義を理解している。

3. [技能・表現] 実践的な学習技能とコミュニケーション力

- (1) 論理的思考力、情報収集力、データ分析力、表現力及びコンピュータとネットワークを活用する能力を身につけている。
- (2) 日本語および英語によって、コミュニケーションできる力を身につけている。

4. [思考・判断] 課題解決のための総合的思考・判断力

現代社会における問題に取り組むための、課題発見力、創造的思考力および課題解決能力を身につけている。

3.10 理工学部化学科のカリキュラム・ポリシー

理工学部化学科における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目にて構成し、専門教育科目は必修科目、選択必修科目（基礎科目、物理分析化学科目、有機無機化学科目）、専門選択科目にて構成する。各科目群については理工学部化学科ディプロマ・ポリシーに沿う形で以下の方針をもって実施する。

[総合教育科目]

「キリスト教科目」

初年次に配当し、本学の建学の精神であるキリスト教主義にもとづく人間形成によって、自らを律する強さ、倫理観、他者との協調性などの基本的な態度を身につけさせる。

「英語教育科目」

自然科学・科学技術分野における共通言語である英語を低学年次に配当する。自ら情報発信できるよう、総合的な英語コミュニケーション能力を修得させる。

「総合選択科目」

社会、文化、人間、自然科学・科学技術について、幅広い教養と視野を身につけさせる。

[専門教育科目]

「卒業研究科目」

4年次に配当し、各専攻分野の学問的・技術的発展が社会、文化、人間等との様々な関連において持つ意味を理解させた上で、取り組むための課題を発見させ、これまでに培ったコミュニケーション力・知識・技能を用いて課題解決に向けて意欲的に取り組ませることにより、現代社会における問題解決力を修得させる。

「実験科目」

化学における基礎的な技能、コンピュータを活用する技能、および基礎知識を体系的・構造的に理解し論理的に思考する力を実験・演習・実習を通じて修得させる。

「基礎科目」

主に低学年次に配当し、各専攻分野における基礎知識を講義等を通じて修得させる。

「物理分析化学科目」

主に高学年次に配当し、基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識を講義等を通じて修得させる。

「有機無機化学科目」

主に高学年次に配当し、基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識を講義等を通じて修得させる。

「専門選択科目」

主に専攻分野以外の自然科学・科学技術などについて、幅広い教養と視野を養成し、各専攻分野の伸展となる知識を修得させる。

理工学部化学科 カリキュラム・マップ (概要)

(ディプロマ・ポリシーの項目とカリキュラム・ポリシーの科目群の主たる方針との対応表)

ディプロマ・ポリシーの項目 カリキュラム・ポリシーの科目群		1		2					3		4
		(1)	(2)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	
総合教育科目	キリスト教科目	○									
	英語教育科目								○		
	総合選択科目			○							
専門教育科目	卒業研究科目		○					○			○
	実験科目				○	○			○		
	基礎科目				○						
	物理分析化学科目						○	○			
	有機無機化学科目						○	○			
	専門選択科目			○							

3.11 理工学部環境・応用化学科のディプロマ・ポリシー

関西学院は、キリスト教主義に基づく全人教育によって「“Mastery for Service”を体現する世界市民」を育成することを使命としており、その実現に向けて、すべての学生が卒業時に学部の区別なく共通に身につけるべき知識・能力・資質を「Kwansei コンピテンシー」と定め、これを大学教育に通底するものとして位置づける。

そして自然科学の基本原則とその応用について教育と研究を行い、自然科学・科学技術と建学の精神であるキリスト教主義を基盤において人類の進歩に貢献する理工学部の理念の下、理工学部環境・応用化学科の学生が卒業時に身につけておくべき知識・能力を次のとおり定める。

1. [関心・意欲・態度] 自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢

- (1) 自らを律する強さと高い倫理観を持ち、他者と協力してよりよい人間関係や社会を築くための基本的な態度を身につけている。
- (2) 自然科学・科学技術と社会、文化、人間との関係に深い関心を抱き、自然科学・科学技術の発展を通じて、人類の進歩に貢献しようとする意欲を持っている。

2. [知識・理解] 幅広い知識と深い専門性

- (1) 社会、文化、人間、自然科学・科学技術についての幅広い知識と、多角的な視点を身につけている。
- (2) 環境・応用化学分野における基礎知識を体系的・構造的に理解している。
- (3) 環境・応用化学分野における基礎的な技能を修得している。
- (4) 基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識、および柔軟な思考力を有している。
- (5) 社会、文化、人間等との様々な関係において、専門分野の学問的・技術的発展が持つ意義を理解している。

3. [技能・表現] 実践的な学習技能とコミュニケーション力

- (1) 論理的思考力、情報収集力、データ分析力、表現力及びコンピュータとネットワークを活用する能力を身につけている。
- (2) 日本語および英語によって、コミュニケーションできる力を身につけている。

4. [思考・判断] 課題解決のための総合的思考・判断力

現代社会における問題に取り組むための、課題発見力、創造的思考力および課題解決能力を身につけている。

3.12 理工学部環境・応用化学科のカリキュラム・ポリシー

理工学部環境・応用化学科における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目にて構成し、専門教育科目は必修科目、選択必修科目(数学・物理科目、地学・生命・情報科目、基礎科目、発展科目)、専門選択科目にて構成する。各科目群については理工学部環境・応用化学科ディプロマ・ポリシーに沿う形で以下の方針をもって実施する。

〔総合教育科目〕

「キリスト教科目」

初年次に担当し、本学の建学の精神であるキリスト教主義にもとづく人間形成によって、自らを律する強さ、倫理観、他者との協調性などの基本的な態度を身につけさせる。

「英語教育科目」

自然科学・科学技術分野における共通言語である英語を低学年次に担当する。自ら情報発信できるよう、総合的な英語コミュニケーション能力を修得させる。

「総合選択科目」

社会、文化、人間、自然科学・科学技術について、幅広い教養と視野を身につけさせる。

〔専門教育科目〕

「卒業研究科目」

4年次に担当し、各専攻分野の学問的・技術的発展が社会、文化、人間等との様々な関連において持つ意味を理解させた上で、取り組むための課題を発見させ、これまでに培ったコミュニケーション力・知識・技能を用いて課題解決に向けて意欲的に取り組ませることにより、現代社会における問題解決力を修得させる。

「数学・物理科目」

主に低学年次に担当し、各専攻分野における基礎知識を講義等を通じて修得させる。

「地学・生命・情報科目」

主に低学年次に担当し、各専攻分野における基礎知識を講義等を通じて修得させる。

「基礎科目」

主に低学年次に担当し、各専攻分野における基礎知識を講義等を通じて修得させる。

「発展科目」

主に高学年次に担当し、基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識を講義等を通じて修得させる。

「専門選択科目」

主に専攻分野以外の自然科学・科学技術などについて、幅広い教養と視野を養成し、各専攻分野の伸展となる知識を修得させる。

理工学部環境・応用化学科 カリキュラム・マップ (概要)
(ディプロマ・ポリシーの項目とカリキュラム・ポリシーの科目群の主たる方針との対応表)

ディプロマ・ポリシーの項目 カリキュラム・ポリシーの科目群		1		2					3		4
		(1)	(2)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	
総合教育科目	キリスト教科目	○									
	英語教育科目									○	
	総合選択科目			○							
専門教育科目	卒業研究科目		○					○			○
	数学・物理科目				○	○					
	地学・生命・情報科目				○	○					
	基礎科目				○						
	発展科目						○	○	○		
	専門選択科目			○							

3.13 理工学部生命科学科のディプロマ・ポリシー

関西学院は、キリスト教主義に基づく全人教育によって「“Mastery for Service”を体現する世界市民」を育成することを使命としており、その実現に向けて、すべての学生が卒業時に学部の区別なく共通に身につけるべき知識・能力・資質を「Kwansei コンピテンシー」と定め、これを大学教育に通底するものとして位置づける。

そして自然科学の基本原則とその応用について教育と研究を行い、自然科学・科学技術と建学の精神であるキリスト教主義を基盤において人類の進歩に貢献する理工学部の理念の下、理工学部生命科学科の学生が卒業時に身につけておくべき知識・能力を次のとおり定める。

1. [関心・意欲・態度] 自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢

- (1) 自らを律する強さと高い倫理観を持ち、他者と協力してよりよい人間関係や社会を築くための基本的な態度を身につけている。
- (2) 自然科学・科学技術と社会、文化、人間との関係に深い関心を抱き、自然科学・科学技術の発展を通じて、人類の進歩に貢献しようとする意欲を持っている。

2. [知識・理解] 幅広い知識と深い専門性

- (1) 社会、文化、人間、自然科学・科学技術についての幅広い知識と、多角的な視点を身につけている。
- (2) 生命科学分野における基礎知識を体系的・構造的に理解している。
- (3) 生命科学分野における基礎的な技能を修得している。
- (4) 基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識、および柔軟な思考力を有している。
- (5) 社会、文化、人間等との様々な関係において、専門分野の学問的・技術的発展が持つ意義を理解している。

3. [技能・表現] 実践的な学習技能とコミュニケーション力

- (1) 論理的思考力、情報収集力、データ分析力、表現力及びコンピュータとネットワークを活用する能力を身につけている。
- (2) 日本語および英語によって、コミュニケーションできる力を身につけている。

4. [思考・判断] 課題解決のための総合的思考・判断力

現代社会における問題に取り組むための、課題発見力、創造的思考力および課題解決能力を身につけている。

3.14 理工学部生命科学科のカリキュラム・ポリシー

理工学部生命科学科における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目にて構成し、専門教育科目は必修科目、選択必修科目（基礎科目、発展科目、先端科目）、専門選択科目にて構成する。各科目群については理工学部生命科学科ディプロマ・ポリシーに沿う形で以下の方針をもって実施する。

〔総合教育科目〕

「キリスト教科目」

初年次に担当し、本学の建学の精神であるキリスト教主義にもとづく人間形成によって、自らを律する強さ、倫理観、他者との協調性などの基本的な態度を身につけさせる。

「英語教育科目」

自然科学・科学技術分野における共通言語である英語を低学年次に担当する。自ら情報発信できるよう、総合的な英語コミュニケーション能力を修得させる。

「総合選択科目」

社会、文化、人間、自然科学・科学技術について、幅広い教養と視野を身につけさせる。

〔専門教育科目〕

「卒業研究科目」

4年次に担当し、各専攻分野の学問的・技術的発展が社会、文化、人間等との様々な関連において持つ意味を理解させた上で、取り組むための課題を発見させ、これまでに培ったコミュニケーション力・知識・技能を用いて課題解決に向けて意欲的に取り組ませることにより、現代社会における問題解決力を修得させる。

「基礎科目」

主に1学年次に担当し、各専攻分野における基礎知識を講義等を通じて修得させる。

「発展科目」

主に2学年次に担当し、基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識を講義等を通じて修得させる。

「先端科目」

主に3学年次に担当し、基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識を講義等を通じて修得させる。

「専門選択科目」

主に専攻分野以外の自然科学・科学技術などについて、幅広い教養と視野を養成し、各専攻分野の伸展となる知識を修得させる。

理工学部生命科学科 カリキュラム・マップ（概要）
（ディプロマ・ポリシーの項目とカリキュラム・ポリシーの科目群の主たる方針との対応表）

ディプロマ・ポリシーの項目 カリキュラム・ポリシーの科目群		1		2					3		4
		(1)	(2)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	
総合教育科目	キリスト教科目	○									
	英語教育科目								○		
	総合選択科目			○							
専門教育科目	卒業研究科目		○					○	○	○	○
	基礎科目				○	○					
	発展科目						○	○			
	先端科目						○	○			
	専門選択科目			○							

3.15 理工学部生命医化学科のディプロマ・ポリシー

関西学院は、キリスト教主義に基づく全人教育によって「“Mastery for Service”を体現する世界市民」を育成することを使命としており、その実現に向けて、すべての学生が卒業時に学部の区別なく共通に身につけるべき知識・能力・資質を「Kwansei コンピテンシー」と定め、これを大学教育に通底するものとして位置づける。

そして自然科学の基本原則とその応用について教育と研究を行い、自然科学・科学技術と建学の精神であるキリスト教主義を基盤において人類の進歩に貢献する理工学部の理念の下、理工学部生命医化学科の学生が卒業時に身につけておくべき知識・能力を次のとおり定める。

1. [関心・意欲・態度] 自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢

- (1) 自らを律する強さと高い倫理観を持ち、他者と協力してよりよい人間関係や社会を築くための基本的な態度を身につけている。
- (2) 自然科学・科学技術と社会、文化、人間との関係に深い関心を抱き、自然科学・科学技術の発展を通じて、人類の進歩に貢献しようとする意欲を持っている。

2. [知識・理解] 幅広い知識と深い専門性

- (1) 社会、文化、人間、自然科学・科学技術についての幅広い知識と、多角的な視点を身につけている。
- (2) 生命医化学分野における基礎知識を体系的・構造的に理解している。
- (3) 生命医化学分野における基礎的な技能を修得している。
- (4) 基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識、および柔軟な思考力を有している。
- (5) 社会、文化、人間等との様々な関係において、専門分野の学問的・技術的発展が持つ意義を理解している。

3. [技能・表現] 実践的な学習技能とコミュニケーション力

- (1) 論理的思考力、情報収集力、データ分析力、表現力及びコンピュータとネットワークを活用する能力を身につけている。
- (2) 日本語および英語によって、コミュニケーションできる力を身につけている。

4. [思考・判断] 課題解決のための総合的思考・判断力

現代社会における問題に取り組むための、課題発見力、創造的思考力および課題解決能力を身につけている。

3.16 理工学部生命医化学科のカリキュラム・ポリシー

理工学部生命医化学科における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目にて構成し、専門教育科目は必修科目、選択必修科目（基礎科目、発展科目、先端科目、生命科学科目）、専門選択科目にて構成する。各科目群については理工学部生命医化学科ディプロマ・ポリシーに沿う形で以下の方針をもって実施する。

〔総合教育科目〕

「キリスト教科目」

初年次に担当し、本学の建学の精神であるキリスト教主義にもとづく人間形成によって、自らを律する強さ、倫理観、他者との協調性などの基本的な態度を身につけさせる。

「英語教育科目」

自然科学・科学技術分野における共通言語である英語を低学年次に担当する。自ら情報発信できるよう、総合的な英語コミュニケーション能力を修得させる。

「総合選択科目」

社会、文化、人間、自然科学・科学技術について、幅広い教養と視野を身につけさせる。

〔専門教育科目〕

「卒業研究科目」

4年次に担当し、各専攻分野の学問的・技術的発展が社会、文化、人間等との様々な関連において持つ意味を理解させた上で、取り組むための課題を発見させ、これまでに培ったコミュニケーション力・知識・技能を用いて課題解決に向けて意欲的に取り組ませることにより、現代社会における問題解決力を修得させる。

「基礎科目」

主に低学年次に担当し、各専攻分野における基礎知識を講義等を通じて修得させる。

「発展科目」

主に高学年次に担当し、基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識を講義等を通じて修得させる。

「先端科目」

主に高学年次に担当し、基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識を講義等を通じて修得させる。

「専門選択科目」

主に専攻分野以外の自然科学・科学技術などについて、幅広い教養と視野を養成し、各専攻分野の伸展となる知識を修得させる。

理工学部生命医化学科 カリキュラム・マップ（概要）
（ディプロマ・ポリシーの項目とカリキュラム・ポリシーの科目群の主たる方針との対応表）

ディプロマ・ポリシーの項目 カリキュラム・ポリシーの科目群		1		2					3		4
		(1)	(2)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	
総合教育科目	キリスト教科目	○									
	英語教育科目								○		
	総合選択科目			○							
専門教育科目	卒業研究科目		○					○		○	○
	基礎科目			○					○		
	発展科目				○				○		
	先端科目					○	○				
	専門選択科目			○							

3.17 理工学部情報科学科のディプロマ・ポリシー

関西学院は、キリスト教主義に基づく全人教育によって「“Mastery for Service”を体現する世界市民」を育成することを使命としており、その実現に向けて、すべての学生が卒業時に学部の区別なく共通に身につけるべき知識・能力・資質を「Kwansei コンピテンシー」と定め、これを大学教育に通底するものとして位置づける。

そして自然科学の基本原則とその応用について教育と研究を行い、自然科学・科学技術と建学の精神であるキリスト教主義を基盤において人類の進歩に貢献する理工学部の理念の下、理工学部情報科学科の学生が卒業時に身につけておくべき知識・能力を次のとおり定める。

1. [関心・意欲・態度] 自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢

- (1) 自らを律する強さと高い倫理観を持ち、他者と協力してよりよい人間関係や社会を築くための基本的な態度を身につけている。
- (2) 自然科学・科学技術と社会、文化、人間との関係に深い関心を抱き、自然科学・科学技術の発展を通じて、人類の進歩に貢献しようとする意欲を持っている。

2. [知識・理解] 幅広い知識と深い専門性

- (1) 社会、文化、人間、自然科学・科学技術についての幅広い知識と、多角的な視点を身につけている。
- (2) 情報科学分野における基礎知識を体系的・構造的に理解している。
- (3) 情報科学分野における基礎的な技能を修得している。
- (4) 基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識、および柔軟な思考力を有している。
- (5) 社会、文化、人間等との様々な関係において、専門分野の学問的・技術的発展が持つ意義を理解している。

3. [技能・表現] 実践的な学習技能とコミュニケーション力

- (1) 論理的思考力、情報収集力、データ分析力、表現力及びコンピュータとネットワークを活用する能力を身につけている。
- (2) 日本語および英語によって、コミュニケーションできる力を身につけている。

4. [思考・判断] 課題解決のための総合的思考・判断力

現代社会における問題に取り組むための、課題発見力、創造的思考力および課題解決能力を身につけている。

3.18 理工学部情報科学科のカリキュラム・ポリシー

理工学部情報科学科における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目にて構成し、専門教育科目は必修科目、選択必修科目（情報科学実習科目、人間システム工学実習・実験科目、基礎科目、発展科目、人間システム工学系科目）、専門選択科目にて構成する。各科目群については理工学部情報科学科ディプロマ・ポリシーに沿う形で以下の方針をもって実施する。

〔総合教育科目〕

「キリスト教科目」

初年次に配当し、本学の建学の精神であるキリスト教主義にもとづく人間形成によって、自らを律する強さ、倫理観、他者との協調性などの基本的な態度を身につけさせる。

「英語教育科目」

自然科学・科学技術分野における共通言語である英語を低学年次に配当する。自ら情報発信できるよう、総合的な英語コミュニケーション能力を修得させる。

「総合選択科目」

社会、文化、人間、自然科学・科学技術について、幅広い教養と視野を身につけさせる。

〔専門教育科目〕

「必修科目（卒業研究科目を除く）」

低学年時に配当し、専攻分野において必須の基礎的な知識と技能を講義・実習を通じて習得させる。

「卒業研究科目」

4年次に配当し、各専攻分野の学問的・技術的発展が社会、文化、人間等との様々な関連において持つ意味を理解させた上で、取り組むための課題を発見させ、これまでに培ったコミュニケーション力・知識・技能を用いて課題解決に向けて意欲的に取り組ませることにより、現代社会における問題解決力を修得させる。

「情報科学実習科目」

情報科学分野における基礎的な技能、コンピュータを活用する技能、および基礎知識を体系的・構造的に理解し論理的に思考する力を実験・演習・実習を通じて修得させる。

「人間システム工学実習・実験科目」

人間システム工学分野における基礎的な技能、コンピュータを活用する技能、および基礎知識を体系的・構造的に理解し論理的に思考する力を実験・演習・実習を通じて修得させる。

「基礎科目」

主に低学年次に配当し、専攻分野における基礎知識を講義等を通じて修得させる。

「発展科目・人間システム工学系科目」

主に高学年次に配当し、基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識を講義等を通じて修得させる。

「専門選択科目」

主に専攻分野以外の自然科学・科学技術などについて、幅広い教養と視野を養成し、専攻分野の伸展となる知識を修得させる。

理工学部情報科学科 カリキュラム・マップ（概要）
（ディプロマ・ポリシーの項目とカリキュラム・ポリシーの科目群の主たる方針との対応表）

ディプロマ・ポリシーの項目 カリキュラム・ポリシーの科目群		1		2					3		4
		(1)	(2)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	
総合教育科目	キリスト教科目	○									
	英語教育科目									○	
	総合選択科目			○							
専門教育科目	必修科目（卒業研究科目を除く）				○	○				○	
	卒業研究科目		○						○		○
	情報科学実習科目				○	○			○		
	人間システム工学実習・実験科目						○				
	基礎科目				○						
	発展科目・人間システム工学系科目						○	○			
	専門選択科目			○							

3.19 理工学部人間システム工学科のディプロマ・ポリシー

関西学院は、キリスト教主義に基づく全人教育によって「“Mastery for Service”を体現する世界市民」を育成することを使命としており、その実現に向けて、すべての学生が卒業時に学部の区別なく共通に身につけるべき知識・能力・資質を「Kwansei コンピテンシー」と定め、これを大学教育に通底するものとして位置づける。

そして自然科学の基本原則とその応用について教育と研究を行い、自然科学・科学技術と建学の精神であるキリスト教主義を基盤において人類の進歩に貢献する理工学部の理念の下、理工学部人間システム工学科の学生が卒業時に身につけておくべき知識・能力を次のとおり定める。

1. [関心・意欲・態度] 自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢

- (1) 自らを律する強さと高い倫理観を持ち、他者と協力してよりよい人間関係や社会を築くための基本的な態度を身につけている。
- (2) 自然科学・科学技術と社会、文化、人間との関係に深い関心を抱き、自然科学・科学技術の発展を通じて、人類の進歩に貢献しようとする意欲を持っている。

2. [知識・理解] 幅広い知識と深い専門性

- (1) 社会、文化、人間、自然科学・科学技術についての幅広い知識と、多角的な視点を身につけている。
- (2) 人間システム工学分野における基礎知識を体系的・構造的に理解している。
- (3) 人間システム工学分野における基礎的な技能を修得している。
- (4) 基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識、および柔軟な思考力を有している。
- (5) 社会、文化、人間等との様々な関係において、専門分野の学問的・技術的発展が持つ意義を理解している。

3. [技能・表現] 実践的な学習技能とコミュニケーション力

- (1) 論理的思考力、情報収集力、データ分析力、表現力及びコンピュータとネットワークを活用する能力を身につけている。
- (2) 日本語および英語によって、コミュニケーションできる力を身につけている。

4. [思考・判断] 課題解決のための総合的思考・判断力

現代社会における問題に取り組むための、課題発見力、創造的思考力および課題解決能力を身につけている。

3.20 理工学部人間システム工学科のカリキュラム・ポリシー

理工学部人間システム工学科における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目にて構成し、専門教育科目は必修科目、選択必修科目（人間システム工学実習・実験科目、情報科学実習科目、基礎科目、発展科目、情報科学系科目）、専門選択科目にて構成する。各科目群については理工学部人間システム工学科ディプロマ・ポリシーに沿う形で以下の方針をもって実施する。

〔総合教育科目〕

「キリスト教科目」

初年次に配当し、本学の建学の精神であるキリスト教主義にもとづく人間形成によって、自らを律する強さ、倫理観、他者との協調性などの基本的な態度を身につけさせる。

「英語教育科目」

自然科学・科学技術分野における共通言語である英語を低学年次に配当する。自ら情報発信できるよう、総合的な英語コミュニケーション能力を修得させる。

「総合選択科目」

社会、文化、人間、自然科学・科学技術について、幅広い教養と視野を身につけさせる。

〔専門教育科目〕

「必修科目（卒業研究科目を除く）」

低学年時に配当し、専攻分野において必須の基礎的な知識と技能を講義・実習を通じて習得させる。

「卒業研究科目」

4年次に配当し、各専攻分野の学問的・技術的発展が社会、文化、人間等との様々な関連において持つ意味を理解させた上で、取り組むための課題を発見させ、これまでに培ったコミュニケーション力・知識・技能を用いて課題解決に向けて意欲的に取り組ませることにより、現代社会における問題解決力を修得させる。

「人間システム工学実習・実験科目」

人間システム工学分野における基礎的な技能、コンピュータを活用する技能、および基礎知識を体系的・構造的に理解し論理的に思考する力を実験・演習・実習を通じて修得させる。

「情報科学実習科目」

情報科学分野における基礎的な技能、コンピュータを活用する技能、および基礎知識を体系的・構造的に理解し論理的に思考する力を実験・演習・実習を通じて修得させる。

「基礎科目」

主に低学年次に配当し、専攻分野における基礎知識を講義等を通じて修得させる。

「発展科目・情報科学系科目」

主に高学年次に配当し、基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識を講義等を通じて修得させる。

「専門選択科目」

主に専攻分野以外の自然科学・科学技術などについて、幅広い教養と視野を養成し、専攻分野の伸展となる知識を修得させる。

理工学部人間システム工学科 カリキュラム・マップ（概要）
（ディプロマ・ポリシーの項目とカリキュラム・ポリシーの科目群の主たる方針との対応表）

ディプロマ・ポリシーの項目 カリキュラム・ポリシーの科目群		1		2					3		4
		(1)	(2)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	
総合教育科目	キリスト教科目	○									
	英語教育科目									○	
	総合選択科目			○							
専門教育科目	必修科目（卒業研究科目を除く）				○	○			○		
	卒業研究科目		○					○			○
	人間システム工学実習・実験科目				○	○			○		
	情報科学実習科目						○				
	基礎科目				○						
	発展科目・情報科学系科目						○	○			
	専門選択科目			○							

4. チャペルアワー

理学部／工学部／生命環境学部／理工学部では、毎週火曜日、水曜日、金曜日のチャペルアワー（10：40～11：10）にチャペル（礼拝）が行われている。キリスト教の信仰に限らず、広く心の糧や生きる指針を与えてくれる場でもあるので、出席するよう勧める。

Ⅲ. 大学諸制度（授業関連基本ルール）①

1. 年度、学期（セメスター）、クォーターについて

本学では、大学学則に基づいて、下表のとおり春学期と秋学期の2学期（セメスター）制を採用しています。また、一部の科目においては、学期を2分割したクォーターごとに授業期間を設定しています。

年度（4月1日～翌年3月31日まで）			
春学期（4月1日～9月19日）		秋学期（9月20日～翌年3月31日）	
第1クォーター	第2クォーター	第3クォーター	第4クォーター

年度によって授業実施日、および各クォーター開始日・終了日は異なります。「I. 授業スケジュール・履修登録スケジュール」を参照してください。

2. 授業時間帯

本学における授業は1時限（1コマ）100分とし、授業・試験等の時間帯は次のとおりです。

（1）通常授業、定期試験・中間試験、補講、授業期間中の集中講義

	西宮上ヶ原キャンパス 西宮聖和キャンパス	神戸三田キャンパス
第1時限	8:50～10:30	9:00～10:40
チャペルアワー	10:30～11:00	10:40～11:10
第2時限	11:00～12:40	11:10～12:50
昼休み	12:40～13:20	12:50～13:30
第3時限	13:20～15:00	13:30～15:10
第4時限	15:10～16:50	15:20～17:00*
第5時限	17:00～18:40	17:05*～18:45

* 神戸三田キャンパスにおける第4時限目と第5時限目の間の休み時間は5分となります。

（2）夏季・冬季・春季休業期間中の集中講義

	西宮上ヶ原キャンパス 西宮聖和キャンパス 神戸三田キャンパス
第1時限	9:00～10:40
チャペルアワー	—
第2時限	10:50～12:30
昼休み	12:30～13:10
第3時限	13:10～14:50
第4時限	15:00～16:40
第5時限	16:50～18:30

（3）追試験

	西宮上ヶ原キャンパス 西宮聖和キャンパス 神戸三田キャンパス
第1時限	9:00～10:00
チャペルアワー	—
第2時限	10:20～11:20
昼休み	11:20～12:00
第3時限	12:00～13:00
第4時限	13:20～14:20
第5時限	14:40～15:40

3. 授業時間と単位の関係

(1) 授業時間について

本学では1時限（1コマ）の授業時間を100分（実時間）と定めます。また、各学期につき14週に渡り授業を実施します。そのため、例えば週1時限（コマ）開講の授業科目の場合、各学期における合計授業時間数は、100分×14週＝1,400分（実時間）となります。

(2) 授業の単位数について

本学では、単位制がとられています。なお、単位数については、大学設置基準において「一単位の授業科目を四十五時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準」とする旨、定められています。

上記の大学設置基準に従い、本学では、学則第18条において次のとおり定めています。

「各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間^{※1}の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、原則として次の基準によって計算する。

- 1 講義科目及び演習科目については15時間^{※1} ^{※2}の授業をもって1単位とする。
- 2 言語教育科目、実験科目、実習科目及び実技科目については、30時間^{※1} ^{※2}の授業をもって1単位とする。」

※1 日本の大学では、慣習的に「実時間45分の学修時間」を「1時間の学修時間」とみなしています。この慣行に従い、上述の学則上の時間数を実際の時間数（実時間）に置き換えると、次のようになります。

学則上の時間数		実際の時間数（実時間）
45時間	→	2,025分：45（時間）×45（分）
15時間	→	675分：15（時間）×45（分）
30時間	→	1,350分：30（時間）×45（分）

※ 学則上の1時間を45分とみなして、実際の時間数（実時間）を算出

※2 本学では、各学期が14週から成っていますので、週1時限（コマ）開講の授業科目の各学期における合計授業時間数は1,400分（実時間）です。上表から、この1,400分（実時間）という授業時間が、概ね30時間という学則上での時間数に相当することが分かります。これにより「15時間の授業をもって1単位とする」講義科目及び演習科目は、週1時限（コマ）開講の場合2単位となり、「30時間の授業をもって1単位とする」言語教育科目、実験科目、実習科目及び実技科目は、週1時限（コマ）開講の場合1単位となることが分かります。

4. 授業外学修時間

(1) 必要な学修時間について

前項の「1単位の授業科目を45時間（実時間で2,025分）の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし」との記載から、1単位の授業科目に必要な学修時間は、2,025分（実時間）であり、2単位の授業科目に必要な学修時間は、4,050分（実時間：2,025分×2単位）であることが分かります。

また、いずれの授業科目も、必要な学修時間を1,400分（実時間）の授業時間だけで満たすことはできませんので、本学の学生は、授業への出席（授業時間）のみならず、授業時間外に予習・復習等を行うこと（授業外学修）によって、各授業科目の「必要な学修時間」を確保しなければなりません。

(2) 授業外学修時間について

前項・本項の説明および下表のとおり、授業科目ごとに「必要な学修時間」が定められ、結果として授業科目ごとに必要な「授業外学修時間」が決まります。なお、各授業科目において求められる授業外学修の内容は、シラバス（後述「9. シラバス」を参照）の「授業外学修」欄に記載されていますので、必ずシラバスを参照のうえ、各自で学修を進めてください。

〈授業科目ごとの授業外学修時間例〉

授業科目の種類	必要な学修時間	授業時間	授業外学修時間
週1回開講1単位の言語教育科目	1単位×45時間=45時間 (実時間で2,025分)	100分×14週=1,400分 (実時間)	2,025分-1,400分=625分(実時間) → 約45分/週の授業外学修が必要 (625分÷14週=44.64…分)
週1回開講2単位の講義科目	2単位×45時間=90時間 (実時間で4,050分)		4,050分-1,400分=2,650分(実時間) → 約190分/週の授業外学修が必要 (2,650分÷14週=189.28…分)

※ 本学には、4単位の授業科目や週2回開講の授業科目等、この章で挙げた例以外にも、多様な授業科目が開講されています。

5. 授業形態

授業の形態は、次のとおり、「対面授業」と、「オンライン授業」3種類の計4種類があります。なお、2023年度の授業は基本的に対面授業で実施されますが、一部の授業科目においてはオンライン授業で実施されることがあります。また、各授業科目の授業形態は、シラバス（後述「9. シラバス」を参照）の「授業形態」欄に明記しています。

(1) 対面授業

対面授業とは、対面で実施された授業時数が総授業時間数の半数以上の授業を指します。

例) 全14回の授業の内、7回を対面授業で実施し、7回をオンライン授業で実施する場合
・指定された学期の指定された曜日・時限に、指定された教室、指定されたキャンパスにおいて、授業担当者と履修者が対面する形式で行われる授業。

(2) オンライン授業

オンライン授業とは、オンラインで実施された授業時数が総授業時間数の半数を超える授業を指します。

例) 全14回の授業の内、6回を対面授業で実施し、8回をオンライン授業で実施する場合

オンライン授業では授業終了後に、設問解答、添削指導、質疑応答、学生同士の意見交換の場などによる十分な指導やサポートの機会が設定されます。

※ 同時双方向型オンライン授業においては、授業中に上述の指導やサポートが行われる場合があります。

- ① 同時双方向型オンライン授業 ※ 以下、同時双方向型と表記
- ・オンライン授業の一形態。指定された学期の指定された曜日・時限に授業がオンライン上でライブ配信され、履修者は配信された授業に参加（出席）する。ライブ配信であるため、双方向（授業担当者⇄履修者）のコミュニケーションが可能。
 - ・対面授業と同様に、曜日・時限、教室、キャンパスの設定があるため、授業の一部を対面授業で実施することがある。
- ② オンデマンドA型オンライン授業（時間割設定あり）※ 以下、オンデマンドA型と表記
- ・オンライン授業の一形態。指定された学期の指定された曜日・時限までに、予め収録された授業が配信され、履修者は配信後の任意の時間に授業を視聴する。
 - ・対面授業と同様に、曜日・時限、教室、キャンパスの設定があるため、授業の一部を対面授業で実施することがある。
- ③ オンデマンドB型オンライン授業（時間割設定なし）※ 以下、オンデマンドB型と表記
- ・オンライン授業の一形態。シラバスで明記された時期までに、予め収録された授業が配信され、履修者は任意の時間に授業を視聴する。

6. 各授業形態のシステム上の設定

システム上の授業形態ごとの設定は下表のとおりとなります。シラバス（後述「9. シラバス」を参照）上や履修申請時において、画面上ではこの設定に従い、下表の括弧（ ）内の例のように表示がされます。

〈システム上の設定一覧（括弧内は画面上の表示例）〉

授業形態	学 期	曜日・時限	教 室	キャンパス
対面授業	指定あり (春学期)	指定あり (月曜1時限)	指定あり (B-101)	指定あり (西宮上ヶ原キャンパス)
オンライン 授業	同時 双方向型	指定あり (春学期) (月曜1時限)	指定あり (B-101)	指定あり (西宮上ヶ原キャンパス)
	オンデマンドA型	指定あり (春学期) (月曜1時限)	指定あり (B-101)	指定あり (西宮上ヶ原キャンパス)
	オンデマンドB型	指定あり (春学期)	指定なし (集中・その他)	指定なし (オンライン)

※ 同時双方向型およびオンデマンドA型は共にオンライン授業ですが、曜日・時限、教室、キャンパスの設定があり、一部の授業では指定された曜日・時限に、指定された教室、キャンパスで対面授業が実施されることもあります。

※ オンデマンドB型は、曜日・時限の設定をせず、教室、キャンパスはいずれもオンライン教室、オンラインキャンパスとします。シラバス上や履修申請時における画面上では、一律、上表の括弧内のような表示となります。

7. 卒業に必要な単位として算入できるオンライン授業の単位数の上限

(1) 概要

本学には、同時双方向型オンライン授業、オンデマンドA型オンライン授業（時間割設定あり）、オンデマンドB型オンライン授業（時間割設定なし）の3種類のオンライン授業があります（詳細は前述「5. 授業形態」参照）。これらオンライン授業の単位を修得した場合は、対面授業と同様に卒業に必要な単位として算入することができます。ただし、対面授業については上限がない一方で、オンライン授業には卒業に必要な単位として算入できる単位数に「60単位まで」という上限が設けられています。これは、文部科学省の定める「大学設置基準」第32条および大学学則第17条において定められているものであり、卒業に必要な単位数およびそこに含まれるオンライン授業の単位数は、学生自身が自らの責任において自己管理すべきものです。

具体的には、「60単位まで」の上限をしっかりと意識したうえで、修得済みのオンライン授業の単位数、履修予定または履修中のオンライン授業の単位数等を正確に把握し、特に上限の60単位に近づいてきた際には、意図せず上限を超えないように慎重に単位数の計算をすることが必要となります。万が一、計算間違いの結果、卒業に必要な単位数を満たさなかった場合は、当然ながら卒業ができなくなりますので十分に注意してください。

なお、「60単位まで」の上限は、あくまで卒業に必要な単位として算入できるオンライン授業の単位数の上限ですので、60単位を超えてオンライン授業の履修をすること自体は可能です。

また、オンライン授業であっても、卒業に必要な単位として算入されない授業科目については、「60単位まで」の上限には含まれません。上述のとおり、あくまで卒業に必要な単位として算入できる単位数に対してのみ、「60単位まで」の上限が設けられています。加えて、特例的な措置の下、2021年度以前に修得したオンライン授業の単位は、一部の科目を除き、すべて「60単位まで」の上限に含まれません（詳細は後述の「(4) 2021年度以前のオンライン授業の取り扱い」参照）。

(2) オンライン授業（上限60単位）に係る具体的な事例

例1) 卒業に必要な124単位を修得したと思っていたが、その内62単位が対面授業で修得した単位、残りの62単位がオンライン授業で修得した単位であった場合：

→ オンライン授業は、「60単位まで」しか卒業に必要な単位として算入できませんので、この場合、卒業に必要な単位として算入できるのは、対面授業で修得した62単位と、オンライン授業で修得した60単位のみとなります。結果として、合計122単位となり、卒業に必要な124単位に2単位足りず卒業不可となります。

例2) すでにオンライン授業を50単位修得済みの学生Aが、卒業に必要な単位として算入されない「〇〇演習」というオンライン授業の2単位を修得した場合：

→ 卒業に必要な単位として算入されない「〇〇演習」は、「60単位まで」という上限には含まれませんので、学生Aが修得済みの卒業に必要な単位として算入できるオンライン授業の単位数は50単位のまま、かつ上限の「60単位まで」は残り10単位のままとなります。

例3) すでにオンライン授業を60単位修得済みの学生Bが、「〇〇学」というオンライン授業を履修した場合：

→ 学生Bが「〇〇学」の単位を修得した場合、「60単位まで」という卒業に必要な単位として算入できる上限は超えることにはなりますが、履修自体に制限はありません。ただし、仮に「〇〇学」の単位を修得しても、卒業に必要な単位として算入できるオンライン授業の単位数は「60単位まで」であることに注意してください。

(3) 対象となる授業科目の確認方法

卒業に必要な単位として「60単位まで」を上限として算入できる授業科目であるかどうかは、シラバス（後述「9. シラバス」を参照）の「特記事項」欄で確認できます。また、過年度を含め、これまで開講されたすべての対象科目を kwic に掲載の「オンライン授業60単位制限対象科目一覧」で確認することができます。

『キャビネット』→『教務機構』→『授業関連』→『オンライン授業60単位制限対象科目一覧（学部生のみ）』
(<https://kwic.kwansei.ac.jp/cabinet/area/detail?areaId=2062&directLink=1>)

(4) 2021年度以前のオンライン授業の取り扱い

オンライン授業は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、キャンパスでの対面授業の実施が困難になったことで、2020年度以降、盛んに実施されてきました。上述(1)、(2)および(3)のとおり、オンライン授業には、卒業に必要な単位として算入できる単位数に「60単位まで」という上限がありますが、文部科学省による特例的な措置の下、2020年度、2021年度に開講されたオンライン授業のうち、本来は対面授業の予定であった授業科目については、この「60単位まで」の上限へ含める必要はありません。

ただし、元々の授業計画においてオンラインでの実施が予定されていた授業科目はこの限りではなく、2020年度、2021年度に開講されたオンライン授業であっても、「60単位まで」の上限へ含まれます。なお、2021年度以前に開講された授業科目の内、卒業に必要な単位に「60単位まで」を上限として算入することができる授業科目は、下表のとおりです。

開講年度	授業開講部局名	授業科目名	クラス	科目コード
2020以前	(該当なし)			
2021	共通教育センター	AI 活用入門	1・2	429501
		AI 活用アプリケーションデザイン入門	1・2	429512
		AI 活用データサイエンス入門	1・2	429531

8. キャンパス間の移動を伴う履修

西宮上ケ原・西宮聖和・神戸三田およびオンラインの各キャンパス間の移動を伴う履修に関し、以下のとおり取り扱います。

まず、同時双方向型およびオンデマンドA型で実施される授業科目については、曜日・時限、開講キャンパスおよび教室の設定があるため、下表の取り扱いの対象となります。

〈対面授業・同時双方向型・オンデマンドA型の取り扱い〉

キャンパス	履修の取り扱い
西宮上ケ原・西宮聖和 ⇔ 神戸三田	連続した授業の履修は不可。
西宮上ケ原 ⇔ 西宮聖和	連続した授業の履修は不可。ただし、チャペルアワーを挟んだ1時限目と2時限目、および昼休みを挟んだ2時限目と3時限目の連続履修は可能。

次に、オンデマンドB型で実施される授業科目は、曜日・時限の設定はなく、開講キャンパスおよび教室がいずれも「オンライン」となるため、下表のとおりすべての授業科目と連続しての履修が可能です。

〈オンデマンドB型の取り扱い〉

キャンパス	履修の取り扱い
オンライン ⇔ 西宮上ケ原・西宮聖和・神戸三田・オンライン	連続した授業であっても履修は可。

※ オンラインキャンパスとなるのは、オンデマンドB型のみです。

《ご参考》キャンパス間の移動を伴う履修の一例

時 限	受講キャンパス	授業形態	
1時限目	神戸三田	対面授業	×履修不可
チャペルアワー			
2時限目	西宮上ケ原	同時双方向型	○履修可
昼休み			
3時限目	西宮聖和	オンデマンドA型	○履修可
4時限目	オンライン	オンデマンドB型	
5時限目	神戸三田	対面授業	○履修可

9. シラバス

シラバスとは「各授業科目の詳細な授業計画」を指します。本学のシラバスは kwic から検索・閲覧ができ、授業目的、到達目標、授業計画、授業外学修、教科書、成績評価方法等の基礎的な情報をはじめ、次の事項を含む様々な授業に関連する情報が集約されているため、履修計画を立てる際に参照してください。

- ・「授業形態」欄：授業形態（詳細は前述「5. 授業形態」参照）を確認してください。
- ・「授業方法」欄：授業形態がオンライン授業の場合、オンライン授業の配信方法を確認してください。
- ・「授業計画」欄：どの回がどの授業形態で実施されているかは、各回の授業計画を確認してください。
- ・「特記事項」欄：授業形態がオンライン授業の場合、卒業に必要な単位として算入できるオンライン授業の単位数の上限に含まれるかどうかを確認してください。

10. 科目ナンバリング（科目ナンバー）

科目ナンバリングとは授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組みです。対象とするレベルが示されているので、適切な授業科目を選択する助けとなります。また、国内外の他大学で行われているナンバリングとの照合によって、単位互換の促進、提携校とのカリキュラムの対照作業にも役立てることができます。

なお、本学のナンバリング体系は以下のとおりとなり、各授業科目の科目ナンバーはシラバスや各学部の教育課程表で確認ができます。科目ナンバリングの詳細については、各学部・センターのカリキュラム説明を参照してください。

ナンバー	位置づけ	位置づけ詳細
100	学士課程において基礎的な内容を取り扱う科目	・初年次の入門的、基礎的な知識を修得する専門教育科目 ・初年次の必修科目、基礎的な総合教育科目・全学科目
200	学士課程において基盤となる科目	・各専門分野の基本的な内容を扱う専門教育科目 ・学際的、発展的内容を扱う総合教育科目・全学科目
300	学士課程において応用的要素の強い科目	・各専門分野の実践的・応用的要素が強い内容を扱う専門教育科目 ・特定のテーマ、分野に関する実践的・応用的要素が強い内容を扱う総合教育科目・全学科目
400	学士課程において最も専門性の高い科目	・各専門分野で学部学生が学修する最終段階の水準科目（卒業研究、卒業論文など） ・大学院開設科目と連携して開講している科目

11. 履修基準年度

各授業科目には、単位とともに履修基準年度が定められています。履修基準年度とはその授業科目を履修できる最低学年度を表すものであり、シラバスや各学部の教育課程表で確認ができます。

履修基準年度1年……第1・2・3・4学年度生が履修できます。

履修基準年度2年……第2・3・4学年度生が履修できます（1学年度生は履修不可）。

履修基準年度3年……第3・4学年度生が履修できます（1・2学年度生は履修不可）。

履修基準年度4年……第4学年度生が履修できます（1・2・3学年度生は履修不可）。

12. 履修・学習スタートガイドの紹介

本学では、大学での学びに関する基本的な事項をまとめた「履修・学習スタートガイド」を提供しており、次の内容等が掲載されています。科目を履修するにあたって最低限の情報が掲載されているので、必ず目を通しておいてください。

【履修・学習スタートガイド掲載場所】

下記 URL または QR コードからアクセスできます。

kwic → 『キャビネット』 → 『教務機構』 → 『履修・学習スタートガイド』

(<https://kwic.kwansei.ac.jp/cabinet/area/detail?areaId=3538&directLink=1>)



- 大学、学部理念・目的・教育目標
- 『Kwansei コンピテンシー』および DP（学位授与の方針）・CP（教育課程編成・実施の方針）
- 関西学院大学 学則

学則とは大学の構成、カリキュラム、卒業、休学、編入学、学生心得など関西学院大学での学生生活の大もととなる規則です。本学の学生は必ず目を通しておいてください。また、その他の諸規程（学費、成績評価・試験、警報発令時の授業等の取扱、奨学金、諸施設利用、留学に関する規程等）も本サイトに掲載しています。

■ 全学科目の紹介

全学科目とは、学部以外のセンター等が提供している科目で、基本的に全ての学部の学生が履修することができます。学部を超えて、他の学部の学生と一緒に学ぶことができるなど、学部提供の科目とは異なった魅力があります。

- 各学业内規
- シラバス（授業実施要綱）

前述「9. シラバス」を参照してください。

■ 教員等紹介（2023年8月まで）

教員等の教育研究内容等を2023年8月まで閲覧することができます。なお、2023年8月以降は、研究者データベースにて教員情報を確認することができます。

研究者データベース URL：

<http://researchers.kwansei.ac.jp/search?m=home&l=ja>



■ オフィス・アワー

専任教員は、オフィス・アワーとして設けられた時間帯に、特別の所用がない限り個人研究室など所定の場所にいます。各教員のオフィス・アワー時間帯の掲載場所を本スタートガイドに示しています。

オフィス・アワーについては、本冊子「X. 大学諸制度（授業関連基本ルール）② 1. オフィス・アワー」も参照してください。

13. 履修・学習スタートガイド、LUNA、ポートフォリオ

履修・学習スタートガイド

<https://kwic.kwansei.ac.jp/cabinet/area/detail?areaId=3538&directLink=1>

履修・学習スタートガイドは、関西学院大学の学部在生に対して、履修・学習に関する基本的な事項を掲載しています。
kwic のキャビネットから確認することができます。



■主な掲載内容

- 大学学則、授業スケジュール、シラバス（授業実施要綱）
- 暴風警報発令時の授業等取扱
- 全学科目の紹介／各学部内規
- 講義担当教員／オフィス・アワー
- 諸規程（成績評価・試験、学費、学位、留学、奨学金、各種施設使用など）

LUNA（教授者-学習者支援システム）

<https://luna.kwansei.ac.jp/> (https→sが必要) ※kwic のリンクボタン「LUNA」からも利用できます。
※2023年8月中旬に新システムへ移行を予定しております。
アクセス方法等、詳細は kwic でお知らせします。

LUNA は、みなさんの日々の学習を支援するシステムです。履修科目や所属のコミュニティにおいて、教員からののお知らせを確認したり、教材を閲覧したり、レポートを提出したり、テストを受けたり、教員や他の履修者とコミュニケーションしたりするなど、様々な学習活動に利用できます。さらには全学共通コンテンツに掲載の教材で自習したり、K.G. ポートフォリオで学びの記録を蓄積することもできます。
インターネットにつながった環境があれば、いつでもどこでも利用できます。

■アクセス方法
上記アドレスからログイン、もしくは kwic からアクセスしてください。
また、ポートフォリオ機能を利用する場合は、スマートフォン専用アプリをダウンロードすると、プッシュ通知等の機能を拡充できます。（アプリの利用料は無料ですが、ダウンロードや利用時にかかる通信料は利用者負担になります）

PC からアクセスする場合

kwic トップ画面左下の「LUNA」をクリックします。

K.G. ポートフォリオアプリをダウンロードする

iOS

Android™

※「Android」 「Google Play」は、Google Inc. の商標または登録商標です。
※「Apple」は、米国およびその他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。
※「App Store」は Apple Inc. のサービスマークです。
※「iOS」は、米国 Cisco のライセンスに基づき使用されています。
※QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

The screenshot shows the LUNA website with several callout boxes:

- ① トップページ
- ② 科目
- ③ コミュニティ
- ④ 全学共通コンテンツ
- ⑤ ポートフォリオ
- ⑥ LUNAサポート
- ⑦ 授業に関する調査

Callout boxes provide additional information:

- 「学修行動と授業に関する調査」について
- 操作方法を知りたい場合や操作で困ったときはこちらを参照
- 利用における注意点やお知らせをトップページに掲載
- 各履修科目のページへ

●**主な機能** (以下の①から④は、前ページの①から④に対応)

<p>①科目やコミュニティを利用する (PCのみ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員からのお知らせを確認する ・教材を閲覧する ・課題レポートを提出する ・テストに解答する ・課題レポートおよびテストの点数や提出状況を確認する ・掲示板や科目メッセージを利用して教員や履修者とコミュニケーションをとる 	<p>②全学共通コンテンツを利用する (PCのみ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報倫理 自習教材 ・留学定例報告書・協定校 FactSheet 閲覧サイト ・社会学部キーワード集 ・『いつでも中国語』付属 CD
<p>③ポートフォリオを利用する (PC、モバイル)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートに回答する ・自分のことを知る ・目標を立てる ・学生生活や取り組んだことを記録し振り返る ・海外渡航情報の登録 ・蓄積された情報をダウンロードする 	<p>④「学修行動と授業に関する調査」の回答について (PC、モバイル)</p> <p>本調査は学生のみなさんの学修行動・成果の振り返り、授業の改善、教育内容・環境の整備を目的として実施し、学期ごとに実施期間が設けられます。学生のみなさんの学修行動の振り返りのための記録になるものですので、責任ある真摯な態度で調査に協力してください。</p> <p>2023年度以降の調査は新システムで実施されます。詳細は kwic 等に掲載されますので適宜確認してください。</p>

※利用する機能によっては、モバイル端末（スマートフォン、タブレット等）では正しく動作しません。

■**K.G. ポートフォリオについて**

ポートフォリオでは、PC やスマートフォンを利用することで、GPA 等のスコア伸長、自身の強みチェック、目標設定とその振り返り、学修行動や成果の把握なども直感的に活用できるようになります。さらに各部署や授業担当者が上記活動記録の一部をみなさんのポートフォリオに登録するなど、バックアップやサポート体制があるのでいつでも気軽に始められます。

日々の活動をより実りあるものにでき、将来の就職活動や大学院進学など、自分のこれからのキャリアを考える時に、強気にサポートしてくれる頼もしいツールです。皆さんのよりよい未来のために、是非、ポートフォリオを役立ててください。

●**トップページ**

ポートフォリオにログインすると、PC やスマートフォンなどの機器によって適切な表示に自動的に切り替わります。以下は PC での画面になります。スマートフォンの場合は左右別の画面構成となり、トップページが表示されます。



⚠
掲載している機能やデータ連携は2023年4月現在のものです。

機能やデータ連携を予告なく追加・停止する可能性があります。

とくに8月中旬以降は LUNA からの連携が変更になる可能性がありますので、kwic に掲載されるお知らせを適宜確認してください。

学修状況機能のスコアタブにある GPA や履修・修得単位数については、連携が反映されない時期があります。そのため、正式な成績は kwic から確認してください。

進級や卒業に必要な単位数や科目等については、「履修心得」や「成績通知書」等を参考に各自で確認してください。

●**ポートフォリオの記入内容について**

ポートフォリオには、GPA のスコアなど大学がポートフォリオにデータを提供している情報と、キャリアシート、目標など学生のみなさんが新しく入力する情報の2種類があります。

どちらの情報も個人の情報が他の学生に開示されることはありません。ポートフォリオの情報は大学と共有され、みなさんの取り組みを支援するため、権限が与えられた教職員が厳格な管理の下、メニューの各機能の情報を参照することがあります。

14. ポータルサイト kwic、学生向けチャットボット KG ChatBot

ポータルサイト クイック kwic

kwansei web information concourse

ポータルサイト kwic (クイック) は、すべての情報の玄関口です。授業やイベント等のお知らせや各種システムへのリンクなど、すべての情報が集約されています。

スマートフォンにもインストールして簡単に利用することができますので、毎日アクセスして確認するようにしてください。

他学部開講科目および全学科目等の情報も、kwic に配信されますので、十分に注意してください。



QRコードを読み込んで、役立つ情報を確認しましょう



<https://kwic.kwansei.ac.jp>

1 カレンダー

授業開始や試験期間などのスケジュールが登録されています。自分だけの個人スケジュールも登録できるため、予定の管理にも使えます。

2 緊急お知らせ

警報や災害時などの緊急なお知らせはここに掲載されます。台風が接近しているときなどは、ここにお知らせがないかを確認してください。

3 注目コンテンツ

時期に合わせて“履修登録”や“成績確認”などのリンクが表示されます。

4 カテゴリー別サブポータル

目的別に9つのカテゴリー (タグ) があります。カテゴリーをクリックすると、目的別の「お知らせ」「リンク」が確認できます。

5 お知らせ

大学からのすべてのお知らせが掲載されます。重要なお知らせを見落とさないよう必ずチェックしてください。

A 呼び出し・重要なお知らせ

必ず確認し、アクションが必要なお知らせです。

B 学部・研究科からののお知らせ

所属している学部・研究科からのお知らせが集約されています。

C 授業のお知らせ

休講・補講、授業情報の変更、LUNAを通じた授業担当教員からののお知らせ、レポート題目はここから確認してください。

D その他

履修登録申請時の通知は「その他」に掲載されます。登録申請時のプッシュ通知 (メール・LINE) はありません。

6 リンクボタン (小アイコン)

E キャビネット

授業スケジュールや規程、履修の手引きや各部署のパンフレット等を閲覧することができます。

-  で、kwicからのプッシュ通知の受け取り先を“LINE”か“メール”、もしくは“両方”と選択できます。
 - 履修登録、時間割照会、本人情報変更等のシステムは、何も操作をしなければ、最後の操作から「60分」(接続時間) 過ぎると自動的にログアウトされます。
- ただし、抽選科目申込期間から履修修正期間までと、成績発表日は、接続時間が「10分」になります。

学生向けチャットボット KG ChatBot

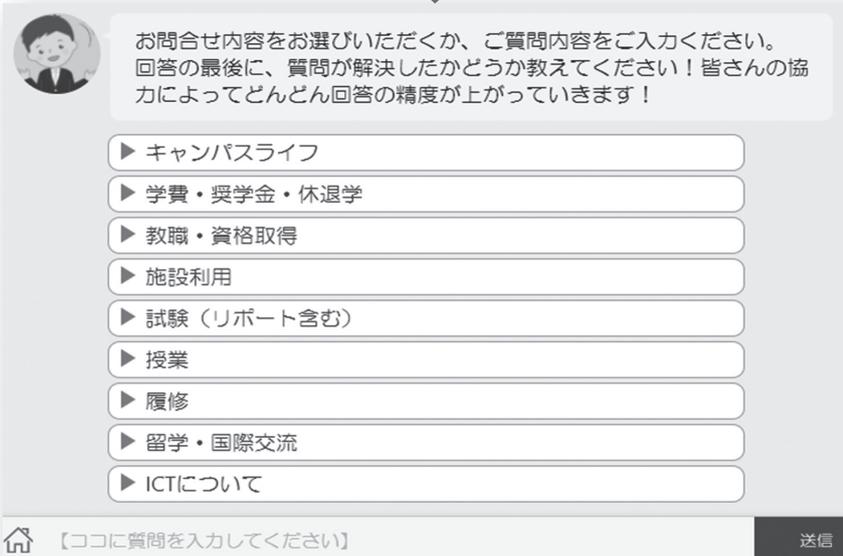
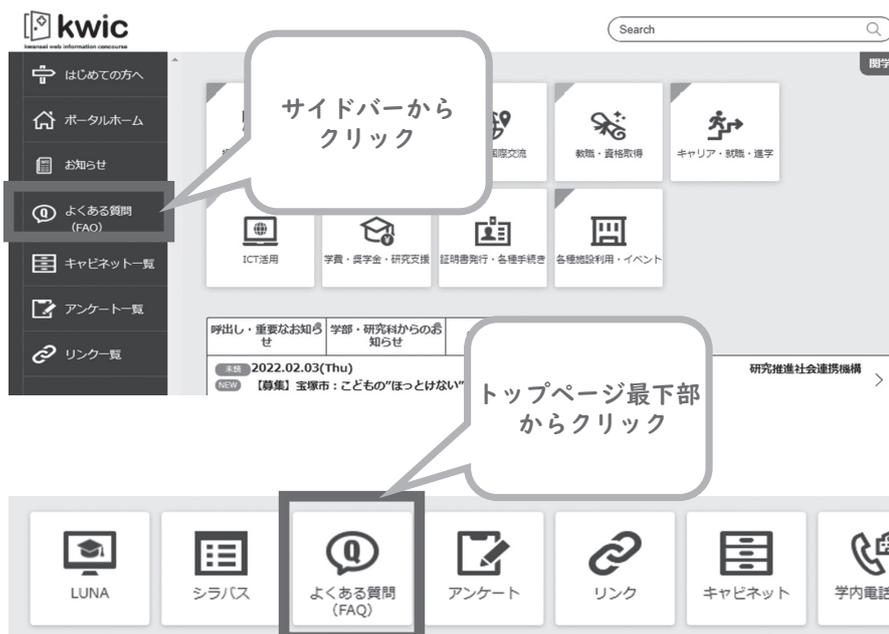
履修・留学・キャンパスライフ等、よくある質問への回答を載せています。
チャットボットは皆さんの質問にいつでも、どこでも回答します。
回答できなかった質問を学習し、回答の精度が上がっていきます。

アクセス方法は、以下の通りです。

「ポータルサイト kwic→よくある質問 (FAQ)」
<https://kwic.kwansei.ac.jp/portal/faq/top>



～ kwic のホーム画面 ～



15. ダブルチャレンジ制度について

【2018年度以降入学生対象・新入生（1年生）は秋学期から登録開始】

「ダブルチャレンジ制度」は、変化の激しいグローバル社会を生き抜くために欠かせない「主体性」「タフネス」「多様性への理解」「チャレンジ精神」等を育むための本学オリジナル制度で、本制度を利用した多様なチャレンジを強く推奨しています。大学における学びをより有意義なものとするために、制度詳細を確認した上で、取り組んでください。

本学ホームページ（下記 URL または QR コード）より、制度詳細・「ダブルチャレンジ対象科目一覧」を確認できます。

(https://gap.kwansei.ac.jp/gap_009718.html)



2018年度入学生より、各学期の履修登録の際に、今後の大学生活で挑戦したいプログラム・科目を申請する必要があります（ダブルチャレンジ申請が完了しないと履修登録ができません）。

※新入生（1年生）は秋学期から登録開始となります。

【申請にあたっての注意事項】

- 申請時点で、「最も挑戦したい」と考えるプログラム・科目を1つ（複数不可）選択して申請してください。
※申請後も kwic より随時申請内容を変更することができます。
- この申請を行ったことで当該プログラム・科目の履修登録が完了する訳ではありません。
実際の科目の履修登録は、定められた期間に適宜申込・登録手続きを行ってください。
- この登録は目標となりますので、申請内容に変更がある場合は随時変更が可能です。また変更の有無にかかわらず毎学期、履修登録の際に申請内容を確認する必要があります。
- インターナショナルプログラムのうち、国際教育・協力センター（CIEC）が提供するプログラムは「国際教育・協カプログラム募集要項2023」を参照してください。

〈申請手順（kwic）〉

初回のダブルチャレンジ申請（1年生秋学期の履修登録時）

- ① kwic にログイン。トップ画面にて、『履修登録はこちらから』を押下して、「履修登録・確認 学生情報登録申請（学生情報登録申請）」の画面に推移。
- ② 「ダブルチャレンジ申請情報」欄にて『プログラム』を選択（プルダウンメニューより選択）。
- ③ 「ダブルチャレンジ申請情報」欄にて『科目』を選択（プルダウンメニューより選択）。
- ④ 申請内容に誤りがないことを確認し、右下の『申請』ボタンを押下。
登録完了画面で登録が完了したことを確認する。
※上記手順以降は、随時申請内容の変更が可能です。
kwic ログイン → 『授業・履修・成績』 → 『リンク』欄右下の『一覧画面へ』 → 『ダブルチャレンジ申請』を押下すると、申請画面に推移します。

2回目以降の申請・確認方法（毎学期確認が必要です）

- ①履修登録時の「履修登録・確認 学生情報登録申請（学生情報登録申請）」にて、登録内容を確認。
- ②登録内容に変更がない場合は『確認』ボタンを押下。
登録内容を変更する場合は、修正の上、『申請』ボタンを押下。

IV. 履修登録

1. 履修登録手順 (予備登録科目、申込制科目の申請、本登録、履修中止 等)

(1) 履修登録とは

履修登録とは、授業を受講するために必要な手続きです。履修登録をしなければ、成績評価をされることはなく、単位の修得もできませんので、以下(2)~(4)をよく読み、各自の責任において、所定の期間内に履修登録を完了させてください。

※ 履修登録に関しては、所属学部をはじめ、各授業科目を開講している他学部・センター等からのお知らせにも注意してください。

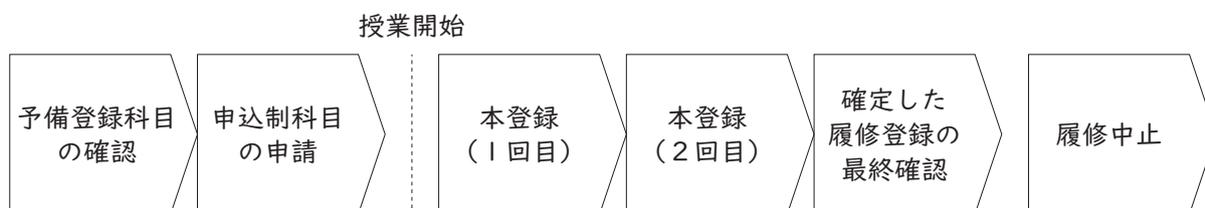
(2) 履修登録の種類

履修登録には、主に下表のとおり5種類あります。各履修登録がどういった内容であるかをしっかりと把握してください。なお、履修するための資格や先修条件の確認、ガイダンスへの参加等を必須とする授業科目も一部あります。

履修登録の種類	履修登録を行う者	説明・注意事項
①予備登録	事務室	予備登録とは、あらかじめ事務室が行う履修登録を指します(学生自身による履修登録は不要)。主に必修科目が対象となります。 ※ 予備登録科目は履修中止ができません。 ※ 再履修生(一度履修した科目を修得できず、次学期以降に、再度同じ科目を履修する学生)は各自で申込制科目の申請や本登録をしなければならない授業科目もあります。 ※ 事前に所定の手続き(例:研究演習Ⅰのゼミ選択)が必要な授業科目もあります。
②申込制科目の申請	学生	申込制科目の申請とは、各学期の授業開始前に設定された事前申込期間中に kwic で行う履修登録を指します。主に履修者数に定員(上限)が設定されている授業科目(申込制科目)が対象となり、定員を超える申込があった場合は、抽選等によって履修者が決まります(落選者は履修不可)。 ※ 申込制科目は当選後の履修中止ができません。申込に際しては、当該科目が開講される曜日・時限に他に履修すべき授業科目がないか、開講されるキャンパスはどこか等を十分に確認してください。
③本登録	学生	本登録とは、kwic で行う履修登録を指し、①・②・④に該当しないすべての授業科目が対象となります。期間は、各学期の授業開始後、2回に分けて設定されています。授業開始後の履修登録であるため、学生は実際の授業に出席してから、正式に履修登録をするか判断することができます。
④その他	学生	例外的に、事務室窓口での履修申請等、①・②・③以外の方法による履修登録が必要な授業科目があります。その他に該当する授業科目については、履修心得や各種冊子への記載、各学部・センター等からのお知らせを確認してください。
⑤履修中止	学生	履修中止とは、各学期の授業開始から約2か月後に設定された履修中止期間中に kwic で履修を取りやめる授業科目を申請することです。あらかじめ履修中止が認められている授業科目のみが対象となります。 ※ 履修中止をした授業科目は、GPA に算入されません。

(3) 履修スケジュール

履修登録に関するおおまかなスケジュールは次のとおりです（詳細なスケジュールは「I. 授業スケジュール・履修登録スケジュール」を確認）。なお、所定の期間以外の履修登録は一切認められません。また、春学期の履修登録期間には、春学期開講科目（クォーター科目を含みます）、通年科目、および集中講義科目を、秋学期の履修登録期間には、秋学期開講科目（クォーター科目を含みます）、集中講義科目を登録してください。



(4) 履修登録（確認）方法

履修登録を行うにあたり必要な手順は下表のとおりです。なお、いずれも kwic へログインして行います。

項目	履修登録（確認）方法
予備登録科目の確認	<ul style="list-style-type: none"> 『授業・履修・成績』→『履修登録・確認』→『申請状況画面』で確認。
申込制科目の申請	<ul style="list-style-type: none"> 『授業・履修・成績』→『申込（抽選）制科目登録』より申請。 ※ 開講学部・センターが kwic 以外の申込方法を指定している場合は、その指示に従ってください。 ※ 申込制科目の一覧は、『キャビネット』→『教務機構』→『授業関連』→『申込制科目について』で確認できます。 <div style="text-align: right;">  </div> <p style="text-align: center;">(https://kwic.kwansei.ac.jp/cabinet/area/detail?areaId=3650&directLink=1)</p>
本登録 (1回目・2回目)	<ul style="list-style-type: none"> 『授業・履修・成績』→『履修登録・確認』→『申請状況画面』を表示。 時間割画面内の『+』のアイコンをクリックし、履修可能科目の中から履修する授業科目を選択。 画面下部の『申請』ボタンをクリック。 ※ エラーメッセージが表示された場合は速やかに修正すること。 ※ 履修登録が完了した場合はお知らせが配信されるので、履修登録完了後は必ず kwic 「その他」タブのお知らせより、登録内容を確認すること（お知らせが来ていない場合、履修登録が正しくできていません）。 ※ 2回目の本登録期間終了後、追加・修正を行うことは一切できません。
確定した履修登録の最終確認	<ul style="list-style-type: none"> 『授業・履修・成績』→『履修登録・確認』→『履修登録確認表出力』で確認。
履修中止	<ul style="list-style-type: none"> 『授業・履修・成績』→『履修中止』より申請。 ※ 履修中止期間後は、いかなる事情があっても履修中止した授業科目の履修を復活させることができません。進級や卒業等に必要な授業科目を誤って履修中止しないよう十分に注意すること。 ※ 履修中止後の履修登録内容を『履修登録確認表』で確認すること。 ※ 中止後のお知らせが配信されるので、kwic 「その他」タブのお知らせより、確認すること。 ※ 通年科目の履修中止は春学期にのみ申請することができます。 ※ 履修中止できない授業科目の一覧は、次より確認できます。 <p style="text-align: center;">『キャビネット』→『教務機構』→『授業関連』 →『履修中止できない科目一覧』</p> <div style="text-align: right;">  </div> <p style="text-align: center;">(https://kwic.kwansei.ac.jp/cabinet/area/detail?areaId=961&directLink=1)</p>

〈参考〉

履修登録時の kwic 上での操作の詳細は、『キャビネット』→『情報化推進機構』→『マニュアル』→『kwic 操作マニュアル（履修登録、時間割照会、本人情報変更等）』を参照してください。



(<https://kwic.kwansei.ac.jp/cabinet/area/detail?areaId=880&directLink=1>)

2. 授業科目について

授業科目は各学部やセンター等により開講されており、おおまかに下表のとおり分けることができます。

<p>自学部開講科目</p>	<p>所属学部が開講する授業科目。 卒業に必要な単位の大多数を占め、必修科目や選択必修科目が含まれます。また、自学部の学生のみが履修できる授業科目があり、十字科目と呼ばれています。</p>
<p>他学部開講科目</p>	<p>所属学部以外の学部（他学部）が開講する授業科目。 十字科目を除き、他学部開講科目であっても履修は可能です。</p>
<p>教職等資格関連科目</p>	<p>教育職員免許状や博物館学芸員等の資格取得に必要な授業科目。 教職等資格関連科目の履修に際しては、教職課程等履修要項、本冊子「IX. 教職課程等」の項目、および教職教育研究センターからのお知らせを確認してください。</p>
<p>全学科目</p>	<p>教職教育研究センターを除く各センター等（例：言語教育研究センター、ハンズオン・ラーニングセンター、国際教育・協力センター）が提供する授業科目。 基本的に全ての学生が履修することができ、各センター等の専門性が活かされた言語教育科目、スポーツ科学・健康科学科目、情報科学科目、AI 活用人材育成科目、グローバルスタディーズ科目、ライフデザイン科目、基盤・学際科目といった科目群があります。</p> <p>【全学科目の詳細 掲載場所】本学ホームページ (https://www.kwansei.ac.jp/education/wide_programs/)</p> <p>【全学科目の履修・申込に関する諸注意】 kwic → 『キャビネット』 → 『教務機構』 → 『授業関連』 → 『全学科目について』 (https://kwic.kwansei.ac.jp/cabinet/area/detail?areaId=2083&directLink=1)</p>



3. 履修単位数制限

単位数制限とは、1学期間に履修できる単位数の上限であり、無理のない学習の指針を与えるものである。この制限内で、各自の学習計画に基づいた履修登録を行うこと。

なお、理工学部開講科目では、従来から定期試験欠席者に対しても平常試験や授業中の学習状況を加味することによって、0点を含めた成績評価を行っている。登録した科目にはすべて評価がつくのでよく考えて履修すること。

(単位数制限)

	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
数 理 科 学 科	23	23	23	23	24	24	24	24
物 理 学 科	25	24	25	24	25	24	25	24
先進エネルギーナノ工学科	25	24	24	25	25	24	25	24
化 学 科	25	24	24	24	24	24	25	24
環 境 ・ 応 用 化 学 科	25	24	24	24	25	24	25	24
生 命 科 学 科	25	24	24	24	25	24	25	24
生 命 医 化 学 科	25	24	24	24	25	24	25	24
情 報 科 学 科	25	23	25	23	24	25	24	25
人 間 シ ス テ ム 工 学 科	23	25	25	23	24	25	24	25

※成績優秀者（当該学期のGPAが3.0以上である者）は、次学期の履修単位数制限が緩和され、4単位増加する。

ただし、下記の科目に関しては、上記の単位数制限の対象外とする。

〔資格取得科目、理工学部開講の集中講義科目（夏期・冬期）、地球環境科学実験、キャリアセンターおよびハンズオン・ラーニングセンターが授業期間外に開講する集中講義科目、国連・外交フィールドワーク、国際教養としての時事問題〕

※教育原論、発達・学習過程論は資格取得科目だが、単位数制限に含まれる。

※スポーツ科学・健康科学科目は単位数制限に含まれる。

※理工学部開講の集中講義科目の成績が登録されるのは、履修が完了した次の学期となる。

例えば、秋学期集中で履修した場合、成績が登録されるのは春学期終了後となるため、進級・卒業の際には注意をすること。

4. 履修単位数制限緩和

成績優秀者（当該学期の GPA が3.0以上である者）は、次学期の履修単位数制限が緩和され、4 単位増加する。

5. ペア科目の履修

履修登録の注意事項

- (1) ペア科目（実験科目等 1 週間に 2 回以上授業を実施する科目）の入力には、特に注意すること。授業が行われるすべての曜日・時限（コマ）に、科目を選択すること。

☆ 2023年度 理工学部ペア科目

微分積分 I・II	線形代数 I・II
基礎解析学 I	集合と位相
解析学 I・II	幾何学 I・II
代数学 I・II	基礎物理学実験 I・II
物理学実験 I・II	ものづくり理工学実験 I・II
基礎化学実験 I・II	無機分析化学実験
物理化学実験	有機化学実験
環境・応用化学実験 I・II	生命科学入門実験
細胞・組織学実験	生命分子・生化学実験
基礎医化学実験 I・II	先端生命科学実験 I・II
先端医化学実験 I・II	プログラミング実習 I・II・III
メディア・ロボット実験	

- (2) キャンパス間の移動を伴う履修の場合、授業形態ごとに取り扱いが異なるため「Ⅲ. 8. キャンパス間の移動を伴う履修」を十分に確認すること。
- (3) 履修登録申請後、Web 上の画面をプリントアウトしたり、「学生手帳」の時間割記入頁を利用するなどして登録科目をメモしておくこと。なお、履修登録申請したつもりでも登録出来ていないことがよくあるため、最終確認をスケジュール内に必ず行うこと。

6. クラス指定科目

授業科目により、所属学科や学生番号ごとに履修するクラスが定められている場合がある。クラス分けは、毎学期「クラス分け指定一覧」にてお知らせするので、kwicを確認すること。各自、間違いのないよう、指定されたクラスを選択すること。また、2017年度以降入学生で、入門英語 I A、I B、II A、II Bを履修する場合は、別紙にてクラスを指定する。

7. 先修条件

あらかじめ条件付けられた科目の単位を取得していなければ、その科目を履修することはできないという規則を先修条件といい、理工学部では次の授業科目に先修条件を設定している。

授業科目名	左の科目を履修するために要求される先修科目又は条件
科学技術英語 A、B 特別英語セミナー	卒業に必要な英語科目12単位
ドイツ語文法Ⅱ	ドイツ語文法Ⅰ
ドイツ語読解Ⅱ	ドイツ語読解Ⅰ
フランス語文法Ⅱ	フランス語文法Ⅰ
フランス語読解Ⅱ	フランス語読解Ⅰ
入門英語ⅡA	入門英語ⅠA（1単位）を2単位分修得していること
入門英語ⅡB	入門英語ⅠB（1単位）を2単位分修得していること
地学実験A	基礎地学Ⅰ・基礎地学Ⅱのうち1科目以上、かつ基礎物理学実験Ⅰ、基礎化学実験Ⅰ、生命科学入門実験の3科目
物理学実験Ⅰ、Ⅱ	基礎物理学実験Ⅰ・Ⅱのうち1科目以上
ものづくり理工学実験Ⅰ、Ⅱ	基礎物理学実験Ⅰ・Ⅱ、基礎化学実験Ⅰのうち2科目以上
無機分析化学実験 有機化学実験 物理化学実験	基礎化学実験Ⅰ・Ⅱ、基礎物理学実験Ⅰのうち2科目以上
環境・応用化学実験Ⅰ、Ⅱ	基礎化学実験Ⅰ・Ⅱ、基礎物理学実験Ⅰのうち2科目以上
先端生命科学実験Ⅰ	細胞・組織学実験、生命分子・生化学実験のうち1科目以上を修得し、卒業に必要な単位数（合計128単位）のうち、62単位以上修得済みであること
先端医化学実験Ⅰ	基礎医化学実験Ⅰ・Ⅱのうち1科目以上を修得し、卒業に必要な単位数（合計128単位）のうち、62単位以上修得済みであること
先端生命科学実験Ⅱ	先端生命科学実験Ⅰ
先端医化学実験Ⅱ	先端医化学実験Ⅰ
情報科学実習科目	プログラミング実習Ⅰ及びコンピュータ演習A
人間システム工学実習・実験科目	プログラミング実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲのうち1科目以上
情報システム領域実習A、B ネットワークシステム領域実習A、B	プログラミング実習Ⅰを含む専門必修科目8単位以上、かつ基礎科目20単位以上
映像音響システム領域実習A、B サイバーロボティクス領域実習A、B	プログラミング実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲのうち1科目以上を修得し、かつ専門必修科目14単位以上、かつ基礎科目20単位以上
数理科学特別演習Ⅰ	専門教育科目の必修科目8単位かつ基礎科目42単位以上（ただし、早期卒業見込者が第3学年において履修する場合は、必修科目8単位かつ基礎科目32単位以上）
数理科学特別演習Ⅱ	数理科学特別演習Ⅰ
「卒研科目」 卒業実験及び演習 輪講 外国書講読	休学期間を除いて3年以上の在籍期間を有していること。 「卒研科目」の12単位以外の卒業に必要なすべての単位を修得していること。 なお、不足単位が下記範囲内の場合（学科により異なるので注意）は、仮進級が認められる。 〈物理学科〉 実験科目以外の授業科目合計10単位以内（英語必修4単位以内） 〈先進エネルギーナノ工学科〉 実験科目、先進エネルギーナノ工学概論、ものづくり理工学実験Ⅰ・Ⅱ以外の授業科目合計10単位以内（英語必修4単位以内） 〈化学科〉 実験科目以外の授業科目合計6単位以内（英語必修4単位以内） 〈環境・応用化学科〉 実験科目以外の授業科目合計6単位以内（英語必修4単位以内） 〈生命科学科〉 実験科目以外の授業科目合計6単位以内（英語必修4単位以内） 〈生命医化学科〉 実験科目以外の授業科目合計6単位以内（英語必修4単位以内） 〈情報科学科〉 領域実習A、B以外の授業科目合計10単位以内（英語必修科目4単位以内、情報科学実習科目及び人間システム工学実習・実験科目の合計2単位以内） 〈人間システム工学科〉 領域実習A、B以外の授業科目合計10単位以内（英語必修科目4単位以内、人間システム工学実習・実験科目及び情報科学実習科目の合計2単位以内）

「卒研科目」は、他の授業科目とは異なり、いずれかの研究室に配属されて、より専門的な実験や演習を行うもので、各研究室では、それぞれに必要な基礎知識が要求される。規則で定められた進級条件を満たすだけでは不十分な場合が多い。従って、早い時期から各研究室の研究内容について、毎年編纂される「卒研選択のための研究室紹介」等を参照したり、研究室を訪問するなどして情報を収集し、履修する際にも計画性を持って行うことが大切である。

また、全学開講科目および他学部開講科目の一部の科目にも先修条件が設定されているので、「履修・学習スタートガイド」や「シラバス」などにて確認すること。

先修条件に関する注意事項

- ・春学期開講科目及び通年開講科目の先修条件判定に、直近の秋学期集中講義科目の単位は、原則算入しない。同様に、秋学期開講科目の先修条件判定に、直近の春学期集中講義科目の単位は、原則算入しない。
- ・先修条件の一覧には記載がないものの、履修や単位修得にあたり条件を課される場合がある。そのため、授業内での説明、掲示、シラバス等、各自責任を持って確認をすること。

8. 他学部履修

2023年度 全学・他学部開講科目の履修制限

全学・他学部開講科目のうち以下の科目は、理工学部生は履修することはできない。

(全学開講科目)

- ・コンピュータ基礎
- ・コンピュータ実践
- ・プログラミング言語基礎
- ・プログラミング言語応用
- ・文科系学生のための情報技術入門
- ・情報技術概論

(他学部開講科目)

- ・数理の科学A・B
- ・自然現象の科学A・B
- ・物質の科学A・B
- ・生命の科学A・B
- ・哲学概論
- ・倫理学概論
- ・憲法A（基本的人権総論）
- ・Religion and Society in the Contemporary World

(総合政策学部開講科目)

- ・総合政策のための数学
- ・数理科学の基礎
- ・統計学Ⅰ
- ・統計学Ⅱ
- ・コンピュータサイエンス
- ・メディア情報入門
- ・建築数理の基礎

(建築学部開講科目)

- ・建築基礎物理

9. 同一名称科目・履修制限

9.1 2023年度 神戸三田キャンパス開講科目の履修制限（排他）

以下の科目は、どちらか一方のみ履修できるものとする。また、すでにどちらか一方の単位を修得している場合は、他方の科目を履修することはできない。

- ① 心理学（理工学部開講）と心理学概論（総合政策学部開講）
- ② 社会学（理工学部開講）と社会学概論（総合政策学部開講）
- ③ 地誌学（理工学部開講）と地誌学（総合政策学部開講）
- ④ 西洋史（理工学部開講）と西洋史概説（総合政策学部開講）

9.2 他学科履修の制限

他学科カリキュラムの実験・実習科目および演習科目（「Ⅷ. 教育課程表」参照）は、原則として履修することができない。ただし、教職課程を希望する学生、および特別な事情でこれらの科目の履修を希望する者は、履修が認められる場合があるので、Ⅷ号館1階事務室へ申し出ること。（申し出の期間は kwic で確認すること）

また、実験・実習科目および演習科目以外の科目でも、以下の科目については、学科による履修の制限がある。

数理科学科生は履修不可の科目	物理学科生は履修不可の科目
微積分学Ⅰ 微積分学Ⅱ 線形代数学Ⅰ 線形代数学Ⅱ 線形代数学Ⅲ デモンストレーション物理学Ⅰ デモンストレーション物理学Ⅱ サブゼミ 物理と確率 物理のための幾何入門 物理数学Ⅰ 物理数学Ⅱ 先進エネルギーナノ工学入門 先進エネルギーナノ工学概論 エネルギー材料熱力学 ナノ物性量子力学Ⅰ ナノ物性量子力学Ⅱ 基礎化学実験法 発展物理化学 発展有機化学 生物統計学 基礎医化学入門 メディア工学基礎 情報科学のための確率・統計 コンテンツテクノロジー	微分積分Ⅰ 微分積分Ⅱ 線形代数Ⅰ 線形代数Ⅱ 確率統計入門 幾何入門 基礎物理学A 基礎物理学B 基礎物理学C 基礎物理学D 先進エネルギーナノ工学入門 先進エネルギーナノ工学概論 エネルギー材料熱力学 ナノ物性量子力学Ⅰ ナノ物性量子力学Ⅱ 基礎化学実験法 統計熱力学 発展物理化学 発展有機化学 基礎医化学入門 コンテンツテクノロジー
	先進エネルギーナノ工学科生は履修不可の科目
	微分積分Ⅰ 微分積分Ⅱ 線形代数Ⅰ 線形代数Ⅱ 基礎物理学A 基礎物理学B サブゼミ 熱力学 量子力学Ⅰ 量子力学Ⅱ 熱統計力学Ⅰ 熱統計力学Ⅱ 基礎化学実験法 発展物理化学 発展有機化学 基礎医化学入門 コンテンツテクノロジー

化学科生は履修不可の科目

微分積分Ⅰ
微分積分Ⅱ
線形代数Ⅰ
線形代数Ⅱ
物理学序論
デモンストレーション物理学Ⅰ
デモンストレーション物理学Ⅱ
サブゼミ
先進エネルギーナノ工学入門
先進エネルギーナノ工学概論
エネルギー材料熱力学
ナノ物性量子力学Ⅰ
ナノ物性量子力学Ⅱ
基礎量子化学
発展物理化学
発展有機化学
化学概論
生命有機化学
基礎医化学入門
コンテンツテクノロジー

生命医化学科生は履修不可の科目

微分積分Ⅰ
微分積分Ⅱ
線形代数Ⅰ
線形代数Ⅱ
物理学序論
デモンストレーション物理学Ⅰ
デモンストレーション物理学Ⅱ
サブゼミ
先進エネルギーナノ工学入門
先進エネルギーナノ工学概論
エネルギー材料熱力学
ナノ物性量子力学Ⅰ
ナノ物性量子力学Ⅱ
基礎化学実験法
発展物理化学
発展有機化学
コンテンツテクノロジー

環境・応用化学科生は履修不可の科目

微分積分Ⅰ
微分積分Ⅱ
線形代数Ⅰ
線形代数Ⅱ
物理学序論
デモンストレーション物理学Ⅰ
デモンストレーション物理学Ⅱ
サブゼミ
先進エネルギーナノ工学入門
先進エネルギーナノ工学概論
エネルギー材料熱力学
ナノ物性量子力学Ⅰ
ナノ物性量子力学Ⅱ
基礎化学実験法
量子化学
基礎医化学入門
コンテンツテクノロジー

情報科学科生は履修不可の科目

微分積分Ⅰ
微分積分Ⅱ
線形代数Ⅰ
線形代数Ⅱ
物理学序論
サブゼミ
先進エネルギーナノ工学入門
先進エネルギーナノ工学概論
エネルギー材料熱力学
ナノ物性量子力学Ⅰ
ナノ物性量子力学Ⅱ
基礎化学実験法
発展物理化学
発展有機化学
基礎医化学入門

生命科学科生は履修不可の科目

微分積分Ⅰ
微分積分Ⅱ
線形代数Ⅰ
線形代数Ⅱ
物理学序論
デモンストレーション物理学Ⅰ
デモンストレーション物理学Ⅱ
先進エネルギーナノ工学入門
先進エネルギーナノ工学概論
エネルギー材料熱力学
ナノ物性量子力学Ⅰ
ナノ物性量子力学Ⅱ
基礎化学実験法
発展物理化学
発展有機化学
基礎医化学入門
コンテンツテクノロジー

人間システム工学科生は履修不可の科目

微分積分Ⅰ
微分積分Ⅱ
線形代数Ⅰ
線形代数Ⅱ
物理学序論
サブゼミ
先進エネルギーナノ工学入門
先進エネルギーナノ工学概論
エネルギー材料熱力学
ナノ物性量子力学Ⅰ
ナノ物性量子力学Ⅱ
基礎化学実験法
発展物理化学
発展有機化学
基礎医化学入門

10. 入門英語

全学開講「入門英語ⅠA・B、ⅡA・B」の履修について

本学では、2017年度より、全学開講科目として「入門英語ⅠA・B、ⅡA・B」（以降、入門英語科目と呼ぶ）を開講する。入門英語科目は、英語の不得意な学生を対象とした科目である。

入学前に受験する英語プレメントテスト（GTEC）の結果を勘案し、本科目を履修する学生を指定する。対象は、数理科学科、物理学科、化学科、生命科学科、情報科学科、人間システム工学科の2017年度以降入学生及び先進エネルギーナノ工学科、環境・応用化学科、生命医化学科の2019年度以降入学生である。

入門英語科目のクラスを履修することを指定された学生は、総合教育科目英語教育科目のうち、英語リーディングⅠA・B、ⅡA・B、英語ライティングⅠA・B、ⅡA・B（合計8単位）ではなく、入門英語ⅠA・B、ⅡA・B（1単位の科目を2単位ずつ修得し、合計8単位）を履修しなければならない。以下に履修モデルを示す。

【履修モデル】

学 年	第1学年		
春学期	入門英語ⅠA 1単位、	入門英語ⅠB 1単位	英語コミュニケーションⅠA 1単位
秋学期	入門英語ⅠA 1単位、	入門英語ⅠB 1単位	英語コミュニケーションⅠB 1単位
学 年	第2学年		
春学期	入門英語ⅡA 1単位、	入門英語ⅡB 1単位	英語コミュニケーションⅡA 1単位
秋学期	入門英語ⅡA 1単位、	入門英語ⅡB 1単位	英語コミュニケーションⅡB 1単位

（合計12単位を修得）

※入門英語ⅠA・B、ⅡA・Bは、同一名称科目であるが、2回まで修得できる。

入門英語ⅠA（1単位）を2回（合計2単位分）、入門英語ⅠB（1単位）を2回（合計2単位分）、入門英語ⅡA（1単位）を2回（合計2単位分）、入門英語ⅡB（1単位）を2回（合計2単位分）修得すること。

※入門英語ⅡA・Bには先修条件がある。「Ⅳ. 7. 先修条件」を参照のこと。

※入門英語の科目を不合格になった場合、カリキュラム上、神戸三田キャンパスで再履修できない可能性がある。本人より申請があれば、英語リーディングⅠA・B、ⅡA・B、英語ライティングⅠA・B、ⅡA・Bに変更することも可能である。詳細について、別途掲示する。

その他、不明な点がある場合は、自分で判断せず、必ず英語担当教員またはⅧ号館1階事務室に相談すること。

11. 再履修

英語の履修について〈再履修等、事前申込をするケース〉

英語リーディングⅠB、英語リーディングⅡB、英語コミュニケーションⅡBを再履修しなければならない学生は、指定された再履修クラス（クラス28）で履修すること（要事前申込）。

英語ライティングⅠ、英語コミュニケーションⅠ、英語リーディングⅡ、英語ライティングⅡ、英語コミュニケーションⅡには原則再履修クラスを設けないので、指定された期間に、確実に事前申込をすること。ただし、クラス間で履修者数の調整を行うため、必ずしも希望どおりのクラスを履修登録できるとは限らない。必ず履修者発表で自分のクラスを確認すること。

なお、英語の履修に申込上限数はないので、自身の履修状況に応じて計画的に履修すること。

〈履修例〉

2023年度春学期	2023年度秋学期	2024年度春学期
英語リーディングⅠA →【不合格】	英語リーディングⅠAを 指定のクラスで再履修	英語ライティングⅠAを 再履修
英語ライティングⅠA →【不合格】	+	+
英語コミュニケーションⅠA →【合格】	英語リーディングⅠB 英語ライティングⅠB 英語コミュニケーションⅠB	英語リーディングⅡA 英語ライティングⅡA 英語コミュニケーションⅡA

12. デジタル版授業時間割

「理学部／工学部／生命環境学部／理工学部授業時間割」には、理学部／工学部／生命環境学部／理工学部開講科目（集中講義科目含む）および理学部／工学部／生命環境学部／理工学部生に関係する全学共通科目の授業時間帯、担当教員名、教室などが春学期と秋学期に分けて掲載されている。通年科目を履修する場合は、秋学期の時間割もよく確認しておくこと。理学部／工学部／生命環境学部／理工学部以外の他学部開講の科目の履修を希望する場合は、当該学部の授業時間割などをもとに各自情報収集すること。時間割は、kwicや当該学部の事務室で閲覧することができる。

13. 「海外理工学プログラム」・「理工学特別プログラム」の履修について

海外理工学プログラム及び理工学特別プログラムについて、同一名称の科目が複数開講されることがある。その際には、副題でこれを区別し、同一名称科目であっても副題が異なる（内容が異なる）場合は、重複して履修・修得することが可能である。ただし、副題が同じ科目（内容が同じ科目）については2回以上修得できないので、注意すること。当該年度開講予定科目については随時説明会等で案内する。

V. 学部カリキュラム

I. 概要説明

I.1 授業科目の種類

理工学部における授業科目は、総合教育科目と専門教育科目に大別される。それぞれは下図のとおりさらに分類される。

[数理科学科]

総合教育科目	キリスト教科目	
	英語教育科目	
	総合選択科目	
専門教育科目	必修科目	
	基礎科目	
	コンピュータ科目	
	発展科目	
	専門選択科目	

[生命科学科]

総合教育科目	キリスト教科目	
	英語教育科目	
	総合選択科目	
専門教育科目	必修科目（含む、卒研科目）	
	基礎科目	
	発展科目	
	先端科目	
	専門選択科目	

[物理学科]

総合教育科目	キリスト教科目	
	英語教育科目	
	総合選択科目	
専門教育科目	物理系科目	卒業研究科目
		コア科目
		実験科目
		選択科目
	数学系科目	
	専門選択科目	

[生命医化学科]

総合教育科目	キリスト教科目	
	英語教育科目	
	総合選択科目	
専門教育科目	必修科目（含む、卒研科目）	
	基礎科目	
	発展科目	
	先端科目	
	生命科学科目	
	専門選択科目	

[先進エネルギーナノ工学科]

総合教育科目	キリスト教科目	
	英語教育科目	
	総合選択科目	
専門教育科目	必修科目（含む、卒研科目）	
	基礎科目	数学系
		物理系
		化学系
	実験科目	
	発展科目	
	先端科目	
	専門選択科目	

[情報科学科]

総合教育科目	キリスト教科目	
	英語教育科目	
	総合選択科目	
専門教育科目	必修科目（含む、卒研科目）	
	情報科学実習科目	
	人間システム工学実習・実験科目	
	基礎科目	
	発展科目	
	人間システム工学系科目	
	専門選択科目	

[化学科]

総合教育科目	キリスト教科目	
	英語教育科目	
	総合選択科目	
専門教育科目	必修科目（含む、卒研科目）	
	基礎科目	
	物理分析化学科目	
	有機無機化学科目	
	専門選択科目	

[人間システム工学科]

総合教育科目	キリスト教科目	
	英語教育科目	
	総合選択科目	
専門教育科目	必修科目（含む、卒研科目）	
	人間システム工学実習・実験科目	
	情報科学実習科目	
	基礎科目	
	発展科目	
	情報科学系科目	
	専門選択科目	

[環境・応用化学科]

総合教育科目	キリスト教科目	
	英語教育科目	
	総合選択科目	
専門教育科目	必修科目（含む、卒研科目）	
	数学・物理科目	
	地学・生命・情報科目	
	基礎科目	
	発展科目	
専門選択科目		

2.2 授業科目名の表記

授業科目名は、原則次のとおり表記される。

	授 業 科 目 名	クラス名
記号	①ローマ数字、及び②アルファベット	③アラビア数字
例	英語ライティング I A	英語ライティング I A (3)

①ローマ数字

科目をグレードの高さによって分類している場合はローマ数字で表示される。

②アルファベット

同じグレードでも、特定の科目を更に分類している場合（学期等によって分ける場合）はアルファベットで表示される。

③アラビア数字

複数のクラスがある科目はアラビア数字で表示される。

2.3 開講期間と授業時間

関西学院大学では「 Semester制」を導入している。春学期科目・秋学期科目は1学期で完結し、通年科目（1年を通じて行う）は2学期で完結する。定期試験はそれぞれの学期末（7月中旬・1月中旬）に行われる。

1回あたりの授業時間は100分であるが、制度上これを「2時間」とみなす。

2. 卒業に必要な単位

卒業に必要な各授業科目の単位数は次のとおりである。

[数理科学科]

総合教育科目		必 修	選 択 必 修		合 計
キリスト教科目		4			32
英語教育科目			12		
総合選択科目			16		
専門教育科目		必 修	選 択 必 修		合 計
必修科目		8			96
基礎科目			48	22	
コンピュータ科目			4		
発展科目			14		
専門選択科目					

[物理学科]

総合教育科目		必 修	選 択 必 修		合 計
キリスト教科目		4			32
英語教育科目			12		
総合選択科目			16		
専門教育科目		必 修	選 択 必 修		合 計
物理系科目	卒研科目	12			96
	コア科目		14	24	
	実験科目		8		
	選択科目				
数学系科目			14		
専門選択科目					

[先進エネルギーナノ工学科]

総合教育科目		必修	選択必修	合計	
キリスト教科目		4		32	
英語教育科目			12		
総合選択科目			16		
専門教育科目		必修	選択必修	合計	
必修科目(含む、卒研科目)		24		96	
基礎科目	数学系		12		14
	物理系		8		
	化学系		8		
実験科目		4			
発展科目			14		
先端科目			12		
専門選択科目					

[化学科]

総合教育科目		必修	選択必修	合計	
キリスト教科目		4		32	
英語教育科目			12		
総合選択科目			16		
専門教育科目		必修	選択必修	合計	
必修科目(含む、卒研科目)		28		96	
基礎科目			24		20
物理分析化学科目			10		
有機無機化学科目			14		
専門選択科目					

[環境・応用化学科]

総合教育科目		必修	選択必修	合計	
キリスト教科目		4		32	
英語教育科目			12		
総合選択科目			16		
専門教育科目		必修	選択必修	合計	
必修科目(含む、卒研科目)		44		96	
数学・物理科目			10		8
地学・生命・情報科目			4		
基礎科目			14		
発展科目			16		
専門選択科目					

[生命科学科]

総合教育科目	必修	選択必修	合計	
キリスト教科目	4		32	
英語教育科目		12		
総合選択科目		16		
専門教育科目	必修	選択必修	合計	
必修科目（含む、卒研科目）	44		96	
基礎科目		16		12
発展科目		12		
先端科目		12		
専門選択科目				

[生命医化学科]

総合教育科目	必修	選択必修	合計	
キリスト教科目	4		32	
英語教育科目		12		
総合選択科目		16		
専門教育科目	必修	選択必修	合計	
必修科目（含む、卒研科目）	42		96	
基礎科目		16		12
発展科目		14		
先端科目		8		
生命科学科目				
専門選択科目				

[情報科学科]

総合教育科目	必修	選択必修	合計		
キリスト教科目	4		32		
英語教育科目		12			
総合選択科目		16			
専門教育科目	必修	選択必修	合計		
必修科目（含む、卒研科目）	26		96		
情報科学実習科目		4		2	16
人間システム工学実習・実験科目					
基礎科目		24			
発展科目		16		8	
人間システム工学系科目					
専門選択科目					

[人間システム工学科]

総合教育科目	必修	選択必修		合計
キリスト教科目	4			32
英語教育科目		12		
総合選択科目		16		
専門教育科目	必修	選択必修		合計
必修科目(含む、卒研科目)	32			96
人間システム工学実習・実験科目		4	2	
情報科学実習科目				
基礎科目		24		
発展科目		12	8	
情報科学系科目				
専門選択科目				

2.1 総合教育科目

総合教育科目における卒業に必要な単位数は32単位で、第2学年度終了時までにはすべて修得しておくのが望ましい。

総合教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目の3つに分類される。

(1) キリスト教科目

本学はキリスト教主義に基づく人間教育を目指しており、次の科目をキリスト教科目とし、4単位をすべて修得しなければならない。

キリスト教学A・B(各2単位)

(2) 英語教育科目

次の16科目のうち、12単位を修得しなければならない。

英語リーディングⅠA・B、ⅡA・B、英語ライティングⅠA・B、ⅡA・B、
英語コミュニケーションⅠA・B、ⅡA・B、入門英語ⅠA・B、ⅡA・B(各1単位)

※ただし、入門英語ⅠA・B、ⅡA・Bについては、英語プレズメントテスト(GTEC)のスコアに基づき履修する学生を指定する。入門英語を履修する学生は、「Ⅳ. 10. 入門英語」を必ず参照すること。

※入門英語ⅠA・B、ⅡA・Bへの履修を指定されなかった学生は、英語リーディングⅠA・B、ⅡA・B、英語ライティングⅠA・B、ⅡA・B、英語コミュニケーションⅠA・B、ⅡA・Bの計12単位を修得すること。

なお、英語能力の優秀な学生に対して、単位認定措置を行うことがある(「理工学部内規 Ⅱ 授業履修内規 5 英語能力優秀者の特別履修について」を参照)。尚、単位認定措置を行った際の成績評価は100点とする。詳細は、英語担当教員またはⅧ号館1階事務室に確認すること。

また、帰国生徒入学試験および外国人留学生入学試験を受験して入学した者の必修科目については別に定める場合がある。

(3) 総合選択科目

次の①～④の科目を総合教育科目の総合選択科目といい、このうち16単位以上を修得しなければならない。

①理工学部で開講する次の科目(各2単位)

哲学 論理学 西洋史 心理学 社会学 法学 日本国憲法 経済学
自然科学史 科学倫理 環境学 サイバー社会入門 近代日本とアジア
芸術と技術 地誌学

②他学部が開講する授業科目（学則参照）、スポーツ科学・健康科学科目、基盤・学際科目、グローバルスタディーズ科目、ライフデザイン科目、AI 活用人材育成科目

③次にあげる教職に関する科目（各2単位）

教育原論 発達・学習過程論

④次にあげる外国語科目

・ドイツ語、フランス語

ドイツ語読解Ⅰ・Ⅱ、ドイツ語文法Ⅰ・Ⅱ、フランス語読解Ⅰ・Ⅱ、フランス語文法Ⅰ・Ⅱ（各1単位）。

・言語教育科目のうち、ドイツ語とフランス語のインテンシブ初級Ⅰ・Ⅱ以外の科目

なお、96単位を超えて修得した専門教育科目のうち4単位までを総合選択科目に算入することができる。

ただし、理工学部は次の科目を履修することはできない。

・他学部開講科目

数理の科学A・B	自然現象の科学A・B	物質の科学A・B
生命の科学A・B	数理科学の基礎	感性情報

・全学科目の情報科学科目

コンピュータ基礎	コンピュータ実践	コンピュータ言語
情報技術概論	文科系学生のための情報技術入門	

・西宮市大学共通単位講座

総合政策学部との合併科目である「アーカイブ・デザイン（情報科学科・人間システム工学科専門選択科目）」は、2021年度から合併解消（総合政策学部単独開講）となる。そのため、2021年度以降に単位を修得した場合、専門教育科目ではなく総合教育科目（総合選択科目）としてカウントされるので注意すること。

2.2 専門教育科目

専門教育科目における卒業に必要な単位数は96単位で、これらはすべて理工学部開講の専門教育科目でなければならない。各学科によって、必要とされる授業科目（必修科目・選択必修科目・専門選択科目）の内容や単位数が異なるので注意すること。

数理科学科

[必修科目]

①必修科目

数理科学科 教育課程表・必修科目の欄に記載の科目から、8単位を修得しなければならない。

[選択必修科目]

①基礎科目

数理科学科 教育課程表・基礎科目の欄に記載の科目から、48単位以上を修得しなければならない。

②コンピュータ科目

数理科学科 教育課程表・コンピュータ科目の欄に記載の科目から、4単位以上を修得しなければならない。

③発展科目

数理科学科 教育課程表・発展科目の欄に記載の科目から、14単位以上を修得しなければならない。

[専門選択科目]

次の①、②、③、④を専門教育科目の専門選択科目といい、このうち22単位以上を修得しなければならない。

①専門選択科目の欄に記載の科目

② ＊ベンチャー企業家講座（2単位）

※「Ⅷ. 教育課程表 1. 理工学部学則別表」には掲載されていないが、専門選択科目に算入する。

③他学科科目

理工学部開講の専門教育科目のうち、数理科学科の基礎科目、コンピュータ科目、発展科目以外のもの。

④卒業に必要な単位数を超えて修得した基礎科目、コンピュータ科目、発展科目は専門選択科目に算入できる。

物理学科

[必修科目]

①卒業研究科目

外国書講読（2単位）・輪講（2単位）・卒業実験及び演習（8単位）

の3科目12単位をまとめて「卒研科目（卒業研究科目）」と通称し、一定の進級条件を満たした者は第4学年度に履修可能。「一定の進級条件」は、休学期間を除いて3年以上の在籍期間を有し、上記「卒研科目」の12単位を除いた卒業に必要な単位をすべて修得していることである。仮進級については、「Ⅳ. 7. 先修条件」を参照すること。

[選択必修科目]

〈物理系科目〉

次にあげる①コア科目、②実験科目、③選択科目を物理系科目といい、このうち46単位以上を修得しなければならない。

①コア科目

物理学科 教育課程表・物理系科目コア科目の欄に記載の科目から、14単位以上を修得しなければならない。

②実験科目

物理学科 教育課程表・物理系科目実験科目の欄に記載の科目から、8単位以上を修得しなければならない。

③選択科目

物理学科 教育課程表・物理系科目選択科目の欄に記載の科目という。

〈数学系科目〉

物理学科 教育課程表・数学系科目の欄に記載の科目から、14単位以上を修得しなければならない。

[専門選択科目]

次の①、②、③、④を専門教育科目の専門選択科目といい、このうち24単位以上を修得しなければならない。

①専門選択科目の欄に記載の科目

② ＊ベンチャー企業家講座（2単位）

※「Ⅷ. 教育課程表 1. 理工学部学則別表」には掲載されていないが、専門選択科目に算入する。

③他学科科目

理工学部開講の専門教育科目のうち、物理学科のコア科目、実験科目、物理系選択科目、数学系科目以外のもの。

④卒業に必要な単位数を超えて修得したコア科目、実験科目、物理系選択科目、数学系科目は専門選択科目に算入できる。

先進エネルギーナノ工学科**[必修科目]**

①卒業研究科目

外国書講読（2単位）・輪講（2単位）・卒業実験及び演習（8単位）

の3科目12単位をまとめて「卒研科目（卒業研究科目）」と通称し、一定の進級条件を満たした者は第4学年度に履修可能。「一定の進級条件」は、休学期間を除いて3年以上の在籍期間を有し、上記「卒研科目」の12単位を除いた卒業に必要な単位をすべて修得していることである。仮進級については、「Ⅳ. 7. 先修条件」を参照すること。

②必修科目

先進エネルギーナノ工学科 教育課程表・必修科目の欄に記載の科目から、①卒業研究科目以外の5科目12単位が必修である。

[選択必修科目]

〈基礎科目〉

次あげる①数学系、②物理系、③化学系を基礎科目といい、このうち28単位以上を修得しなければならない。

①数学系

先進エネルギーナノ工学科 教育課程表・数学系の欄に記載の科目から、12単位以上を修得しなければならない。

②物理系

先進エネルギーナノ工学科 教育課程表・物理系の欄に記載の科目から、8単位以上を修得しなければならない。

③化学系

先進エネルギーナノ工学科 教育課程表・化学系の欄に記載の科目から、8単位以上を修得しなければならない。

〈実験科目〉

先進エネルギーナノ工学科 教育課程表・実験科目の欄に記載の科目から、4単位以上を修得しなければならない。

〈発展科目〉

先進エネルギーナノ工学科 教育課程表・発展科目の欄に記載の科目から、14単位以上を修得しなければならない。

〈先端科目〉

先進エネルギーナノ工学科 教育課程表・先端科目の欄に記載の科目から、12単位以上を修得しなければならない。

[専門選択科目]

次の①、②、③、④を専門教育科目の専門選択科目といい、このうち14単位以上を修得しなければならない。

①専門選択科目の欄に記載の科目

② ＊ベンチャー企業家講座（2単位）

※「Ⅷ. 教育課程表 1. 理工学部学則別表」には掲載されていないが、専門選択科目に算入する。

③他学科科目

理工学部開講の専門教育科目のうち、先進エネルギーナノ工学科の基礎科目、実験科目、発展科目、先端科目以外のもの。

④卒業に必要な単位数を超えて修得した基礎科目、実験科目、発展科目、先端科目は専門選択科目に算入できる。

化学科

[必修科目]

①卒業研究科目

外国書講読（2単位）・輪講（2単位）・卒業実験及び演習（8単位）

の3科目12単位をまとめて「卒研科目（卒業研究科目）」と通称し、一定の進級条件を満たした者は第4学年度に履修可能。「一定の進級条件」は、休学期間を除いて3年以上の在籍期間を有し、上記「卒研科目」の12単位を除いた卒業に必要な単位をすべて修得していることである。仮進級については、「Ⅳ. 7. 先修条件」を参照すること。

②必修科目

化学科 教育課程表・必修科目の欄に記載の科目から、①卒業研究科目以外の5科目16単位が必修である。

[選択必修科目]

①基礎科目

化学科 教育課程表・基礎科目の欄に記載の科目から、24単位以上を修得しなければならない。

②物理分析化学科目

化学科 教育課程表・物理分析化学科目の欄に記載の科目から、10単位以上を修得しなければならない。

③有機無機化学科目

化学科 教育課程表・有機無機化学科目の欄に記載の科目から、14単位以上を修得しなければならない。

[専門選択科目]

次の①、②、③、④を専門教育科目の専門選択科目といい、このうち20単位以上を修得しなければならない。

①専門選択科目の欄に記載の科目

② ＊ベンチャー企業家講座（2単位）

※「Ⅷ. 教育課程表 1. 理工学部学則別表」には掲載されていないが、専門選択科目に算入する。

③他学科科目

理工学部開講の専門教育科目のうち、化学科の基礎科目、物理分析化学科目、有機無機化学科目以外のもの。

④卒業に必要な単位数を超えて修得した基礎科目、物理分析化学科目、有機無機化学科目は専門選択科目に算入できる。

環境・応用化学科**[必修科目]**

①卒業研究科目

外国書講読（2単位）・輪講（2単位）・卒業実験及び演習（8単位）

の3科目12単位をまとめて「卒研科目（卒業研究科目）」と通称し、一定の進級条件を満たした者は第4学年度に履修可能。「一定の進級条件」は、休学期間を除いて3年以上の在籍期間を有し、上記「卒研科目」の12単位を除いた卒業に必要な単位をすべて修得していることである。仮進級については、「Ⅳ. 7. 先修条件」を参照すること。

②必修科目

環境・応用化学科 教育課程表・必修科目の欄に記載の科目から、①卒業研究科目以外の9科目32単位が必修である。

[選択必修科目]

①数学・物理科目

環境・応用化学科 教育課程表・数学・物理科目の欄に記載の科目から、10単位以上を修得しなければならない。

②地学・生命・情報科目

環境・応用化学科 教育課程表・地学・生命・情報科目の欄に記載の科目から、4単位以上を修得しなければならない。

③基礎科目

環境・応用化学科 教育課程表・基礎科目の欄に記載の科目から、14単位以上を修得しなければならない。

④発展科目

環境・応用化学科 教育課程表・発展科目の欄に記載の科目から、16単位以上を修得しなければならない。

[専門選択科目]

次の①、②、③、④を専門教育科目の専門選択科目といい、このうち8単位以上を修得しなければならない。

①専門選択科目の欄に記載の科目

② ＊ベンチャー企業家講座（2単位）

※「Ⅷ. 教育課程表 Ⅰ. 理工学部学則別表」には掲載されていないが、専門選択科目に算入する。

③他学科科目

理工学部開講の専門教育科目のうち、環境・応用化学科の数学・物理科目、地学・生命・情報科目、基礎科目、発展科目以外のもの。

④卒業に必要な単位数を超えて修得した数学・物理科目、地学・生命・情報科目、基礎科目、発展科目は専門選択科目に算入できる。

生命科学科

[必修科目]

①卒業研究科目

外国書講読（2単位）・輪講（2単位）・卒業実験及び演習（8単位）

の3科目12単位をまとめて「卒研科目（卒業研究科目）」と通称し、一定の進級条件を満たした者は第4学年度に履修可能。「一定の進級条件」は、休学期間を除いて3年以上の在籍期間を有し、上記「卒研科目」の12単位を除いた卒業に必要な単位をすべて修得していることである。仮進級については、「Ⅳ. 7. 先修条件」を参照すること。

②必修科目

生命科学科 教育課程表・必修科目の欄に記載の科目から、①卒業研究科目以外の9科目32単位が必修である。

[選択必修科目]

①基礎科目

生命科学科 教育課程表・基礎科目の欄に記載の科目から、16単位以上を修得しなければならない。

②発展科目

生命科学科 教育課程表・発展科目の欄に記載の科目から、12単位以上を修得しなければならない。

③先端科目

生命科学科 教育課程表・先端科目の欄に記載の科目から、12単位以上を修得しなければならない。

[専門選択科目]

次の①、②、③、④を専門教育科目の専門選択科目といい、このうち12単位以上を修得しなければならない。

①専門選択科目の欄に記載の科目

② ＊ベンチャー企業家講座（2単位）

※「Ⅷ. 教育課程表 Ⅰ. 理工学部学則別表」には掲載されていないが、専門選択科目に算入する。

③他学科科目

理工学部開講の専門教育科目のうち、生命科学科の基礎科目、発展科目、先端科目以外のもの。

④卒業に必要な単位数を超えて修得した基礎科目、発展科目、先端科目は専門選択科目に算入できる。

生命医化学科

[必修科目]

①卒業研究科目

外国書読誦（2単位）・輪講（2単位）・卒業実験及び演習（8単位）

の3科目12単位をまとめて「卒研科目（卒業研究科目）」と通称し、一定の進級条件を満たした者は第4学年度に履修可能。「一定の進級条件」は、休学期間を除いて3年以上の在籍期間を有し、上記「卒研科目」の12単位を除いた卒業に必要な単位をすべて修得していることである。仮進級については、「IV. 7. 先修条件」を参照すること。

②必修科目

生命医化学科 教育課程表・必修科目の欄に記載の科目から、①卒業研究科目以外の8科目30単位が必修である。

[選択必修科目]

①基礎科目

生命医化学科 教育課程表・基礎科目の欄に記載の科目から、16単位以上を修得しなければならない。

②発展科目

生命医化学科 教育課程表・発展科目の欄に記載の科目から、14単位以上を修得しなければならない。

③先端科目

生命医化学科 教育課程表・先端科目の欄に記載の科目から、8単位以上を修得しなければならない。

④生命科学科目

イ) 生命医化学科 教育課程表・生命科学科目の欄に記載の科目という。

ロ) 先端科目及び生命科学科目あわせて12単位以上を修得しなければならない。

[専門選択科目]

次の①、②、③、④を専門教育科目の専門選択科目といい、このうち12単位以上を修得しなければならない。

①専門選択科目の欄に記載の科目

② ＊ベンチャー企業家講座（2単位）

※「Ⅷ. 教育課程表 1. 理工学部学則別表」には掲載されていないが、専門選択科目に算入する。

③他学科科目

理工学部開講の専門教育科目のうち、生命医化学科の基礎科目、発展科目、先端科目、生命科学科目以外のもの。

④卒業に必要な単位数を超えて修得した基礎科目、発展科目、先端科目、生命科学科目は専門選択科目に算入できる。

情報科学科

[必修科目]

①卒業研究科目

外国書講読（2単位）・輪講（2単位）

卒業実験及び演習（情報システムコース/ネットワークシステムコース）（8単位）

*ただし（ ）内のコースの別については、配属された研究室によって決定される。

の3科目12単位をまとめて「卒研科目（卒業研究科目）」と通称し、一定の進級条件を満たした者は第4学年度に履修可能。「一定の進級条件」は、休学期間を除いて3年以上の在籍期間を有し、上記「卒研科目」の12単位を除いた卒業に必要な単位をすべて修得していることである。仮進級については、「IV. 7. 先修条件」を参照すること。

②必修科目

情報科学科 教育課程表・必修科目の欄に記載の科目から、14単位を修得しなければならない。

ただし、以下の科目については、それぞれいずれか一方の科目を履修すること。

情報システム領域実習A（1）またはネットワークシステム領域実習A（1）

情報システム領域実習B（1）またはネットワークシステム領域実習B（1）

[選択必修科目]

①情報科学実習科目

情報科学科 教育課程表・情報科学実習科目の欄に記載の科目から、4単位以上を修得しなければならない。

②人間システム工学実習・実験科目

情報科学科 教育課程表・人間システム工学実習・実験科目の欄に記載の科目という。情報科学実習科目と人間システム工学実習・実験科目を合わせて6単位以上を修得しなければならない。

③基礎科目

情報科学科 教育課程表・基礎科目の欄に記載の科目から、24単位以上を修得しなければならない。

なお2009年度以降実施の情報処理推進機構「基本情報技術者試験」または「応用情報技術者試験」の合格者には、「情報処理技術演習」の2単位を認定する。

④発展科目

情報科学科 教育課程表・発展科目の欄に記載の科目から、16単位以上を修得しなければならない。

⑤人間システム工学系科目

情報科学科 教育課程表・人間システム工学系科目の欄に記載の科目という。発展科目と人間システム工学系科目を合わせて24単位以上を修得しなければならない。

[専門選択科目]

次の①、②、③、④を専門教育科目の専門選択科目といい、このうち16単位以上を修得しなければならない。

①専門選択科目の欄に記載の科目

②*ベンチャー企業家講座（2単位）

※「ⅩⅢ. 教育課程表 1. 理工学部学則別表」には掲載されていないが、専門選択科目に算入する。

③他学科学科目

理工学部開講の専門教育科目のうち、情報科学科の情報科学実習科目、人間システム工学実習・実験科目、基礎科目、発展科目、人間システム工学系科目以外のもの。

④卒業に必要な単位数を超えて修得した情報科学実習科目、人間システム工学実習・実験科目、基礎科目、発展科目、人間システム工学系科目は専門選択科目に算入できる。

人間システム工学科

[必修科目]

①卒業研究科目

外国書講読（2単位）・輪講（2単位）

卒業実験及び演習（映像音響システムコース/サイバーロボティクスコース）（8単位）

*ただし（ ）内のコースの別については、配属された研究室によって決定される。

の3科目12単位をまとめて「卒研科目（卒業研究科目）」と通称し、一定の進級条件を満たした者は第4学年度に履修可能。「一定の進級条件」は、休学期間を除いて3年以上の在籍期間を有し、上記「卒研科目」の12単位を除いた卒業に必要な単位をすべて修得していることである。仮進級については、「IV. 7. 先修条件」を参照すること。

②必修科目

人間システム工学科 教育課程表・必修科目の欄に記載の科目から、20単位すべてを修得しなければならない。

ただし、以下の科目についてはそれぞれ、いずれか一方を履修すること。

映像音響システム領域実習A（1）またはサイバーロボティクス領域実習A（1）

映像音響システム領域実習B（1）またはサイバーロボティクス領域実習B（1）

[選択必修科目]

①人間システム工学実習・実験科目

人間システム工学科 教育課程表・人間システム工学実習・実験科目の欄に記載の科目から、4単位以上を修得しなければならない。

②情報科学実習科目

人間システム工学科 教育課程表・情報科学実習科目の欄に記載の科目という。人間システム工学実習・実験科目と情報科学実習科目を合わせて6単位以上を修得しなければならない。

③基礎科目

人間システム工学科 教育課程表・基礎科目の欄に記載の科目から、24単位以上を修得しなければならない。

なお2009年度以降実施の情報処理推進機構「基本情報技術者試験」または「応用情報技術者試験」の合格者には、「情報処理技術演習」の2単位を認定する。

④発展科目

人間システム工学科 教育課程表・発展科目の欄に記載の科目から、12単位以上を修得しなければならない。

⑤情報科学系科目

人間システム工学科 教育課程表・情報科学系科目の欄に記載の科目という。発展科目と情報科学系科目を合わせて20単位以上を修得しなければならない。

[専門選択科目]

次の①、②、③、④を専門教育科目の専門選択科目といい、このうち14単位以上を修得しなければならない。

①専門選択科目の欄に記載の科目

② ※ベンチャー企業家講座（2単位）

※「ⅩⅢ. 教育課程表 Ⅰ. 理工学部学則別表」には掲載されていないが、専門選択科目に算入する。

③他学科科目

理工学部開講の専門教育科目のうち、人間システム工学科の人間システム工学実習・実験科目、情報科学実習科目、基礎科目、発展科目、情報科学系科目以外のもの。

④卒業に必要な単位数を超えて修得した人間システム工学実習・実験科目、情報科学実習科目、基礎科目、発展科目、情報科学系科目は専門選択科目に算入できる。

VI. 卒業

I. 早期卒業制度

理工学部 数理科学科における早期卒業については、「理工学部内規 VI. その他 6 数理科学科早期卒業について」で定めている。

Ⅶ. 試験・成績・論文

Ⅰ. 成績評価・試験

履修した授業科目は、その学修の成果について試験（定期試験、中間試験および追試験）や平常評価（レポート、授業参加度等）など、授業担当者の教育方針および評価方針に基づいて成績評価が行われ、最終評価において合格することにより、単位が修得できます（各授業科目の成績評価方法は、シラバスの「成績評価」欄に明記）。

なお、本学における授業科目及び卒業論文の成績評価に関しては、大学学則第8条に以下のとおり定められています。

〈2018年度以前入学生〉

本大学における授業科目及び卒業論文の成績評価は、秀又はS（90点以上）・優又はA（80点以上）・良又はB（70点以上）・可又はC（60点以上）、及び、不可又はF（60点未満）とし、秀又はS・優又はA・良又はB、及び、可又はCを合格とする。

〈2019年度以降入学生〉

本大学における授業科目及び卒業論文の成績評価は、S（90点以上）・A+（85点以上）・A（80点以上）・B+（75点以上）・B（70点以上）・C+（65点以上）・C（60点以上）・F（60点未満）とし、S・A+・A・B+・B・C+、及びCを合格とする。

この定めに従い、各キャンパスに設置されている証明書発行機で出力できる成績証明書（有料）には、単位を修得した授業科目の成績評価（S～C）が記載されます（成績評価がF（60点未満）の科目は成績証明書には記載されません）。

また、これとは異なり、各学期の成績発表後に kwic で閲覧できる成績通知書（無料）においては、履修済の各授業科目の評価を素点（0点～100点）※で記載しています。

※ 評点での評価を行っていない一部の授業科目については、成績通知書においても評価（S・A+・A・B+・B・C+・C・F）が記載されます。

成績評価・試験については、以下に記載の成績評価・試験規程（抜粋）を参照してください。なお、定期試験はすべて、授業を開講しているキャンパスにて受験してください。また、追試験における受験要件および成績評価については、同じく以下に記載の追試験受験要件および成績評価の取り扱いを参照してください。

2. 成績評価・試験規程（抜粋）

- 第1条 この規程は、本大学学生の成績評価及び試験等について必要な事項を定めることを目的とする。
- 第2条 授業科目及び卒業論文の成績は、試験等の方法により学修の成果について、これを評価する。
- 第3条 試験は定期試験、中間試験及び追試験に分ける。
- 第4条 定期試験は春学期末及び秋学期末の所定の期間に一定の時間割により行う。
- 第5条 中間試験は通年の授業科目について、春学期末の所定の期間に一定の時間割により行うことができる。
- 第6条 追試験は定期試験にさいして病気その他やむを得ない事由により受験できなかった者に対し、当該授業科目について行うことができる。
- 第7条 定期試験、中間試験及び追試験は筆記又は口答とし、報告又は論文をもって代えることができる。本学主催の留学プログラムに参加するために定期試験、中間試験及び追試験を受験できない者には、個別に成績評価を行う。
- 第8条 定期試験、中間試験及び追試験はすべて当該学部教授会が担当する。
- 第9条 定期試験、中間試験又は追試験を受験する者は試験場において、原則として本大学所定の学生証を机の上に置いて受験しなければならない。
- 第10条 追試験を受けるためには、受験することができなかった事由の証明書又は報告書（病気による場合は医師の診断書）を添えて追試験願を学部長宛に提出し、教授会の承認を得なければならない。
- 2 追試験を受ける者は、所定の受験料を学院財務課に納入しなければならない。ただし、次の者については受験料を免除する。
- 1 学校保健安全法施行規則に定める「学校において予防すべき感染症」のため登校停止となった者
 - 2 裁判員制度により、候補者として裁判員等選任手続に参加する者又は裁判員・補充裁判員として職務に従事する者
 - 3 公共交通機関の遅延又は運行停止等の事由により、定期試験を受験することができなかった者
- 第11条 定期試験、中間試験又は追試験にさいして自然災害、公共交通機関の遅延若しくは運行停止等の事由により受験できない者が多数発生すると判断される場合には、全学的な対応として、当該授業科目について代替試験を行うことができる。
- 2 代替試験は教務機構長の判断により行う。
 - 3 代替試験の実施は当該学部教授会が担当する。
 - 4 本規程第7条及び第9条はこれを代替試験に準用する。
 - 5 追試験の代替試験については、論文に代えることができる。
- 第12条 代替試験を受けるためには、受験することができなかった事由を証明又は説明する書面を添えて代替試験願を学部長宛に提出しなければならない。
- 2 代替試験については受験料を徴収しない。
- 第13条 定期試験、中間試験、追試験及び代替試験によらず、平常評価による成績評価を行うことができる。
- 第14条 成績評価及び成績評価に対して与えるグレードポイントは次のとおりとする。
- 〈2018年度以前入学生〉
- 1 成績評価は、秀又はS（90点以上）・優又はA（80点以上）・良又はB（70点以上）・可又はC（60点以上）、及び、不可又はF（60点未満）とし、秀又はS・優又はA・良又はB、及び、可又はCを合格とする。
 - 2 グレードポイントは、秀又はS（90点以上）は4、優又はA（80点以上）は3、良又はB（70点以上）は2、可又はC（60点以上）は1、及び、不可又はF（60点未満）は0とする。
- 〈2019年度以降入学生〉
- 1 成績評価は、S（90点以上）・A+（85点以上）・A（80点以上）・B+（75点以上）・B（70点以上）・C+（65点以上）・C（60点以上）・F（60点未満）とし、S・A+・A・B+・B・C+、及びCを合格とする。
 - 2 グレードポイントは、S（90点以上）は4.0、A+（85点以上）は3.5、A（80点以上）は3.0、

B+ (75点以上) は2.5、B (70点以上) は2.0、C+ (65点以上) は1.5、C (60点以上) は1.0、及びF (60点未満) は0とする。

第15条 追試験の成績は原則として減点する。

第16条 代替試験の成績は減点しない。ただし、追試験の代替試験の成績は、追試験に準じて取り扱う。

第17条 成績評価の結果は一定の期間内に授業科目担当教員によって、教授会に報告されなければならない。

第18条 次の者は試験等を受け、成績評価を得ることができない。

- 1 履修の届出をしていない者
- 2 学費未納者
- 3 教授会において受験することを不適当と認めた者

第19条 この規程に基づいて、各学部は運用のための内規を定めることができる。

備考

- 1 第10条第2項の受験料は、1科目について1,000円とする。
- 2 第14条に定める他に、認定する科目についてはグレードポイントを与えず、Pと表記する。

追試験受験要件および成績評価の取り扱い（各学部の内規を併せて参照すること）

追試験受験要件	成績評価	受験料
(1) 二親等以内の親族の死亡	100%	1,000円
(2) 本人の病気	80%	1,000円
(3) 試験当日の事故	80%	1,000円
(4) 学校において予防すべき感染症による登校停止	100%	免除
(5) 裁判員制度により、候補者として裁判員等選任手続に参加又は裁判員・補充裁判員として職務に従事する場合	100%	免除
(6) 公共交通機関の遅延又は運行停止等	100%	免除
(7) 学生連盟加盟団体に所属する学生が、各競技等の国内統括団体主催競技会等に参加資格を有し、春学期・秋学期定期試験期間と競技会等の日程が重複する場合	100%	1,000円
(8) その他、追試験を受けるに相当する理由と教授会が認めるもの	80%	1,000円
上記(1)、(4)、(5)、(6)、(7)の場合を除き追試験の評点は20%を減じる。(1)～(6)及び(8)については、証明書、診断書又はその事由を説明する書面等を提出し、(7)については、事前に学生活動支援機構が定めた手続きを行うこと。		

3. GPA 制度

(1) 制度と設定基準

本学では Grade Point Average (以下、GPA という) 制度を実施しています。本制度は、各自が履修した科目の成績評価に対して、一定の Grade Point (以下、GP という) を与え、その合計の加重平均を GPA として提示する成績評価方法です。この制度を通じて、学生自身が自分にとって必要とする科目が何かを考えること、自己の履修を管理し、学習成果がどのレベルに位置するかを把握し、さらなる勉学意欲を高めるための指標とすることが重要です。GPA は、各自の成績表・成績証明書に掲載します。本学での GP の設定基準と、GPA 算出式は以下のとおりです。

なお、GPA の算定対象には、卒業に必要な単位であるかどうかなどにかかわらず、本学で開設している全ての科目が含まれます。ただし、認定する科目については、GP を与えず、GPA の算定対象科目としない場合もあります。

【GP の設定基準】

〈2019年度以降入学生〉

100～90点又は S 評価の場合の GP は 4.0
89～85点又は A+ 評価の場合の GP は 3.5
84～80点又は A 評価の場合の GP は 3.0
79～75点又は B+ 評価の場合の GP は 2.5
74～70点又は B 評価の場合の GP は 2.0
69～65点又は C+ 評価の場合の GP は 1.5
64～60点又は C 評価の場合の GP は 1.0
59～ 0点又は F 評価の場合の GP は 0

〈2018年度以前入学生〉

100～90点又は S 評価の場合の GP は 4
89～80点又は A 評価の場合の GP は 3
79～70点又は B 評価の場合の GP は 2
69～60点又は C 評価の場合の GP は 1
59～ 0点又は F 評価の場合の GP は 0

【GPA 算出式】

$$\text{GPA} = \frac{[(\text{科目の単位数}) \times (\text{その科目の評価の GP})] \text{ の総和}}{(\text{履修登録した単位数}) \text{ の総和}}$$

(2) 履修の中止

本制度の主旨に則り、授業開始約 2 カ月後の時点において、各学部等が定めた科目において、所定の手続き (kwic で申請) をすることにより履修の中止をすることができる制度も併せて設けています。

(3) 成績優秀者の顕彰

成績優秀者を学期毎に掲示にて顕彰しています (顕彰する基準等については各学部にて異なる)。また、学期ごとの顕彰とあわせて、GPA 上位 5% の者に対し、第 2・3・4 学年度末に顕彰しています。第 2・3 学年度末には 1 年間、第 4 学年度末には 4 年間の GPA について顕彰しています。特に、4 年間の GPA 上位 5% の卒業生には、卒業式に学長名の GPA 表彰状を授与します。その他、学部によっては、成績優秀者に対して履修単位数制限の緩和措置を行っている場合があるので、履修単位数制限、履修登録のページなどで確認してください。

4. 成績評価基準

- 1 成績評価は、S (90点以上)・A+ (85点以上)・A (80点以上)・B+ (75点以上)・B (70点以上)・C+ (65点以上)・C (60点以上)・F (60点未満)とし、S・A+・A・B+・B・C+、及びCを合格とする。
- 2 グレードポイントは、S (90点以上)は4.0、A+ (85点以上)は3.5、A (80点以上)は3.0、B+ (75点以上)は2.5、B (70点以上)は2.0、C+ (65点以上)は1.5、C (60点以上)は1.0、及びF (60点未満)は0とする。

5. 成績発表

春学期の成績発表は8月、秋学期の成績発表(通年科目を含む)は2月に kwic で行う。

6. 成績調査

成績評価に関する質問(疑義)がある場合は、定められた期間内に所定の手続きをすることにより調査を願い出ることができる。期間等詳細については kwic を確認すること。

7. 単位認定

外国大学科目、単位互換科目、国内協定大学科目

他の大学等の機関で科目を履修し修得した単位を、本大学において修得したものと認められる科目がある。

- (1) 本大学と学生交換に関する協定のある外国の大学に交換留学生として許可された者が、留学した大学で修得した単位。
- (2) 本人の申請により、協定大学と同等と認定し認定留学生として許可された者が、留学した大学で修得した単位。
- (3) 単位互換に関する協定のある他の大学で修得した単位。
- (4) 国内の協定大学において修得した単位。

〈成績評価〉

上智大学：A=95、B=85、C=75、D=65、F=認定しない、P=認定

8. 試験

「成績評価・試験規程」および「理工学部内規」をよく確認しておくこと。

- ・試験は中間試験、定期試験と追試験に分けられる。これら以外にも、授業担当者が随時テストを行ったり、レポートの提出を求めたりする場合がある。
- ・定期試験は春・秋学期末に一定の時間割により行われる。また、中間試験は、通年開講の科目について春学期末に行われる。
- ・追試験は、定期試験に際して、(1) 二親等以内の親族の死亡、(2) 本人の病気、(3) 試験当日の事故、(4) 学校において予防すべき感染症による登校停止、(5) 裁判員制度により、候補者として裁判員等選任手続に参加又は裁判員・補充裁判員として職務に従事する場合、(6) 公共交通機関の遅延又は運行停止等、(7) 学生連盟加盟団体に所属する学生が、各競技等の国内統括団体主催競技会等に参加資格を有し、春学期・秋学期定期試験期間と競技会等の日程が重複する場合、(8) その他、追試験を受けるに相当する理由と教授会が認めるもの。上記(1)、(4)、(5)、(6)、(7)の場合を除き追試験の評点は20%を減じる。(1)～(6)及び(8)については、証明書、診断書又はその事由を説明する書面等を提出し、(7)については、事前に学生活動支援機構が定めた手続きを行うこと。
- ・全学開講科目の試験に関しては、科目を開講しているセンター等に確認をすること。
- ・他学部開講の科目を履修したときは、開講学部の試験内規に従って受験することになる。
- ・講義を実施しているキャンパスと試験を実施するキャンパスが異なる場合があるので、注意すること。
- ・定期試験は、開始の10分前を目途に注意事項を伝達する。余裕をもって、着席しておくこと。

9. レポート

(1) レポート種別

「平常レポート」

「定期試験に代わるレポート」

(2) 提出方法

すべてWEBによる提出 ※2022年度より事務室窓口でのレポート受付を廃止

ただし、授業担当者により提出方法が指定される場合（例：紙のレポートによる提出等）があるので、授業担当者の指示に従うこと。

(3) その他

表紙の有無、サイズ等については、適宜授業担当者の指示に従うこと。

10. 剽窃について

レポートや論文を作成する際、他人が書いた文章を「剽窃（ひょうせつ）」することは、絶対にしてはならない行為です。

学生として許されるべき行為でなく、違法行為ともなりえます。剽窃は「不正行為」として当該科目の成績、または特に悪質な場合は全科目の成績が無効となる場合がありますので、レポート等作成および提出の際は十分注意してください。

「剽窃」とはなにか

他の人によって書かれた論文、概念、文章などの著作（特に、他の人によって書かれた著作）の一部または全部を、あたかも自分自身が書いたものとして使用すること。あるいは、自分が書いたものと読んだ人に誤解を与えるように表記して「使用」すること。

文章全体を写すのではなく、表現を変えたりするなどして他人の文章のように書いたとしても「剽窃」とみなされます。

インターネット上のテキストの一部をコピー＆ペーストし、表現を変えるなどして自分の意見のように書くことも「剽窃」とみなされます。

正しい「引用」をしましょう

レポートや論文の作成のために、他人の文章を用いる場合は必ずそれが引用であることを明記しなければなりません。どこまでが「他者が記述した内容」の紹介で、どこからが「自分の考え」かをはっきりさせることが必要です。

故意ではなく、不注意で行った場合も「剽窃」に変わりはありません。

決して「剽窃」をおこなわないように十分に気を付けてください。

VIII. 資格取得

I. 資格取得科目

専門教育科目のうち、教育職員の免許状（教職免許状）をはじめ、博物館学芸員、学校図書館司書教諭などの資格の取得のために開講されている授業科目。

原則として、卒業に必要な単位数に算入できない。

I.1 教職課程（「教職課程等履修要項」参照）

(1) 理工学部で取得できる教育職員免許状の教科（種類）は次のとおりである。

数 理 科 学 科	数学（中学Ⅰ種、高校Ⅰ種）
物 理 学 科	理科（中学Ⅰ種、高校Ⅰ種）・数学（中学Ⅰ種、高校Ⅰ種）
先進エネルギーナノ工学科	理科（中学Ⅰ種、高校Ⅰ種）
化 学 科	理科（中学Ⅰ種、高校Ⅰ種）
環 境 ・ 応 用 化 学 科	理科（中学Ⅰ種、高校Ⅰ種）
生 命 科 学 科	理科（中学Ⅰ種、高校Ⅰ種）
生 命 医 化 学 科	理科（中学Ⅰ種、高校Ⅰ種）
情 報 科 学 科	情報（高校Ⅰ種）・数学（中学Ⅰ種、高校Ⅰ種）
人 間 シ ス テ ム 工 学 科	情報（高校Ⅰ種）・数学（中学Ⅰ種、高校Ⅰ種）

また、大学院へ進学すれば中学専修免許状や高校専修免許状も取得可能である。

なお、取得できる教科は同じであっても、学科及び専攻によって、修得すべき科目が異なるので注意すること。自学科で取得できない教科の免許状を取得することも可能である。その場合、特に改めて手続きを行う必要はないので、各自にて計画的な履修を行い、必要な単位を修得すること。ただし、時間割配置の上での配慮はなく、入念な履修計画を必要とする。

また、他学部履修することで上記以外の教科の教職免許を取得することができる。ただし、所定の手続きを行うことが必要である。（kwic 参照）

いずれの場合も、教職を志望する場合は、早い時期から計画を立て必要な単位を修得すること。教職課程履修要項を参照したり、教職教育研究センター（アカデミックcommons 2F 事務室）またはⅧ号館1階事務室でよく指導を受けること。

(2) 教職に関する科目（教職専門科目）は次のとおりである。

教職概論、教育原論、発達・学習過程論、特別支援教育概論、学校教育論、教育課程論、理科教育法A、理科教育法B、理科教育法C、理科教育法D、数学科教育法A、数学科教育法B、数学科教育法C、数学科教育法D、情報科教育法A、情報科教育法B、道徳教育論、特別活動・総合的な学習の時間の指導法、教育方法基礎論（情報通信技術の活用含む）、生徒指導・進路指導論、教育相談基礎論、教職実践演習（中・高）、教育実習A、教育実習B、人権教育論、環境教育論

これらの科目のうち、教育原論、発達・学習過程論は、総合教育科目の総合選択科目として、卒業に必要な単位数に算入できる。

(3) 体育は、教職課程上の必修科目である。「体育方法学講義C」2単位および「体育方法学演習C」2単位を履修すること。

(4) これら教職に関する科目やスポーツ科学・健康科学科目については、授業が実施されるキャンパスに注意すること。

I.2 学校図書館司書教諭、博物館学芸員の資格の取得

標記資格の取得についても入学時に配付される『教職課程等履修要項』を参照するとともに教職教育研究センター学生相談室でよく指導を受けること。理工学部生の場合、これらの資格を取得するためには計画的な履修が必要である。

IX. 教職課程等

1. 教職課程等について

—教職課程、学校図書館司書教諭、博物館学芸員課程、国際バカロレア教員養成プログラム—

■ 中学校、高等学校の教育職員免許状

入学時に開催される教職課程等説明会（教育学部の学生は除く）または教職教育研究センター、各学部事務室窓口にて配付する『教職課程等履修要項(※)』を参照してください。ただし、教育学部の学生は教育学部の履修心得を参照してください。

■ 幼稚園、小学校、特別支援学校の教育職員免許状及び保育士資格

教育学部の履修心得を参照してください。これらの教育職員免許状および資格取得のための履修は、教育学部の学生に限られます。

■ 学校図書館司書教諭、博物館学芸員課程、国際バカロレア教員養成プログラム（IBEC）

入学時に開催される教職課程等説明会または教職教育研究センター、各学部事務室窓口にて配付する『教職課程等履修要項(※)』を参照してください。なお、国際バカロレア教員養成プログラム（IBEC）の科目は、2019年度以降入学生が履修可能です。

(※)『教職課程等履修要項』は、在学期間にわたって使用します。入学年度によって内容が異なりますので、必ず自身の入学年度の要項を確認してください。



【教職課程等履修に関する各種データ掲載先】

kwic → 『キャビネット』 → 『教職教育研究センター』

URL : <https://kwic.kwansei.ac.jp/cabinet/reference?typeCd=0&cabinetId=45&directLink=1>

【教職教育研究センターから配信しているお知らせの確認方法】

kwic → 『教職・資格取得』アイコンをクリック → 配信部署が『教職教育研究センター』のお知らせ

kwic → 『サイドメニュー』 → 『お知らせ』 → 『・配信部署別にみる』 → 『教職教育研究センター』を選択

2. 教職課程における「教科に関する専門的事項」の科目について

所属学部で取得しようとする教育職員免許状教科の「教科に関する専門的事項(※)」の科目は、すべて所属学部で開講されています。他学部で同じ名称の科目が開講されている場合もありますが、他学部が開講している科目を修得しても教育職員免許状取得のための「教科に関する専門的事項(※)」の科目としては認められませんので、十分確認のうえ、所属学部が開講している科目を修得してください。

(※) 2018年度以前入学生は「教科に関する科目」を指します。

X. 大学諸制度（授業関連基本ルール）②

1. オフィス・アワー

大学の出会いのなかで最も大きなものの一つが、教員との出会いです。ゼミナールや講義の担当者である教員とは日常の大学生活のなかで知り合うことはできますが、受け身でいたのではその出会いを深めることはできません。講義での疑問点や関心のある問題への取り組み方などの勉学に関する事、そのほか学生生活に関する事など相談事があれば、本学の専任教員と直接話し合い、指導を受けることができます。このような場として設けられているのが、オフィス・アワーです。オフィス・アワーとして設けられた時間帯には、専任教員は特別の所用がない限り個人研究室など所定の場所にいるので出会いの場として進んで活用してください。

なお、役職についている専任教員のオフィス・アワーは予約制となるので、役職者に面会を希望する場合には、関係事務室に前もって問い合わせてください。

【教員のオフィス・アワー時間帯確認先】下記 URL または QR コードより確認できます。

kwic → 『キャビネット』 → 『教務機構』 → 『授業関連』 → 『オフィス・アワー』

(<https://kwic.kwansei.ac.jp/cabinet/area/detail?areaId=1008&directLink=1>)



2. 本学主催の留学プログラムと試験が重複した際の取り扱い

本学主催の留学プログラム^{※1}と試験^{※2}が重なった^{※3}際には、代替的な評価を行うことで全学的に対応します。留学プログラムに参加するために試験が受けられない場合は、kwic 等で大学から案内される申請方法を確認のうえ、所定の手続きを行ってください。なお、申請のない場合は対象となりませんので注意してください。

※1 対象は本学主催の留学プログラムのみ（オンラインプログラム含む）です。学外のプログラムは対象となりません。

※2 ここでの試験とは、定期試験、中間試験、追試験、および補講・試験日に平常評価として実施する試験（授業中試験等）を指します。

※3 留学期間と試験実施日が重複し、対面での試験が受けられない場合に限り対象となります。留学のための準備等と試験実施日との重複は対象となりません。

3. 暴風警報・暴風雪警報・特別警報発令、交通機関運行遅延など不測の場合の措置

取り扱いについては、大学学部の授業・試験実施に関する警報発令及び交通機関の運行停止等の場合の取扱要領（抜粋） (<https://www.kwansei.ac.jp/about/rules/emergency>) を参照してください。

オンライン授業は警報等が発令された場合であっても休講とはなりません、以下のような場合は休講となります。

- ・対面で受講するグループとオンラインで受講するグループに分けて、授業を実施している場合
- ・一部を対面で実施するオンライン授業で、その回を対面で実施している場合

ただし、自宅等の地域に避難準備・避難勧告・避難指示が発令される等、身の危険を感じる場合は、避難するなど適切な行動をとってください。欠席の取り扱いについては、大学として授業担当者に配慮をお願いしています。

(1) 暴風警報・暴風雪警報・特別警報発令の場合

- 1 下表のいずれかの地域・市町村に暴風警報、暴風雪警報、特別警報（大雨、暴風、高潮、波浪、暴風雪、大雪）が発令されている間は授業・試験を行いません。なお、取り扱いの詳細は下記2以降に定めます。また、中止となった定期試験・中間試験については原則として試験予備日に振り替えて実施します。

	地 域	市町村
兵 庫 県	阪神	神戸市、尼崎市、西宮市、芦屋市、伊丹市、宝塚市、川西市、三田市、猪名川町
	北播丹波	西脇市、丹波篠山市、丹波市、多可町
	播磨南東部	明石市、加古川市、三木市、高砂市、小野市、加西市、加東市、稲美町、播磨町
大 阪 府	大阪市	大阪市
	北大阪	豊中市、池田市、吹田市、高槻市、茨木市、箕面市、摂津市、島本町、豊能町、能勢町
	東部大阪	守口市、枚方市、八尾市、寝屋川市、大東市、柏原市、門真市、東大阪市、四條畷市、交野市
	南河内	富田林市、河内長野市、松原市、羽曳野市、藤井寺市、大阪狭山市、太子町、河南町、千早赤阪村
	泉州	堺市、岸和田市、泉大津市、貝塚市、泉佐野市、和泉市、高石市、泉南市、阪南市、忠岡町、熊取町、田尻町、岬町

- 2 暴風警報、暴風雪警報、特別警報が発令された場合の授業・試験実施については下表のとおりとします。

〈西宮上ヶ原・西宮聖和キャンパス〉

6:00までに別表の地域全ての暴風警報、暴風雪警報、特別警報が解除されたとき	平常通り授業・試験を行う。
8:00までに解除されたとき	第2時限から授業・試験を行う。
10:30までに解除されたとき	第3時限から授業・試験を行う。
12:00までに解除されたとき	第4時限から授業・試験を行う。
12:00を過ぎても解除されないとき	全日休講・全日試験中止とする。

〈神戸三田キャンパス〉

6:00の時点で解除されないとき	全日休講・全日試験中止とする。
------------------	-----------------

- 3 翌日の6:00以降の暴風警報、暴風雪警報、特別警報の発令が見込まれる場合は、学長の判断により、上記2に準じて休講・試験中止とする時限を決定することがあります。
- 4 特別警報に位置付ける警報（津波、火山、地震（地震動））が発令された場合は学長の判断によります。

(2) 交通機関運行遅延・停止の場合

交通機関の運行遅延・停止が発生し、多数の学生に影響を及ぼすと判断される場合（通常どおり授業を実施できない場合）、次のとおり「全学的な」措置を取ることがあります。この場合、kwicの緊急のお知らせ (<https://kwic.kwansei.ac.jp/login>) に掲載しますので、注意してください。

- ・1時限目の場合：授業開始時刻を遅らせる、もしくは休講する。
- ・2時限目以降の場合：原則として、授業開始時刻を遅らせる「全学的な」措置は取らない（授業の実施が困難と判断される場合は休講となる場合がある）。

4. 授業の録音・撮影、授業の資料等の使用

授業担当者が作成した資料や教材、データ、授業内容は授業担当者の著作物です。受講生が授業の録音・撮影を希望する場合、あるいは授業の資料等の使用を希望する場合は、事前に授業担当者の許可を得てください。

担当教員の許可を得て録音・録画する場合は自習用に限り認められますが、第三者に利用させる行為（インターネット上に掲載・拡散等）は著作権法違反となります。また、担当教員からの配布物（LUNAを通して配布されたものを含む）や録音・録画された授業のURLをインターネット上で転載・転送することは法律で禁じられています。

5. 授業に関する調査

「学修行動と授業に関する調査」は、①学生の学修行動・成果の振り返り、②授業の改善、③教育内容・環境の整備、の3点を目的として、Webを利用し実施しています。なお、学生は責任ある態度で回答することが求められます。

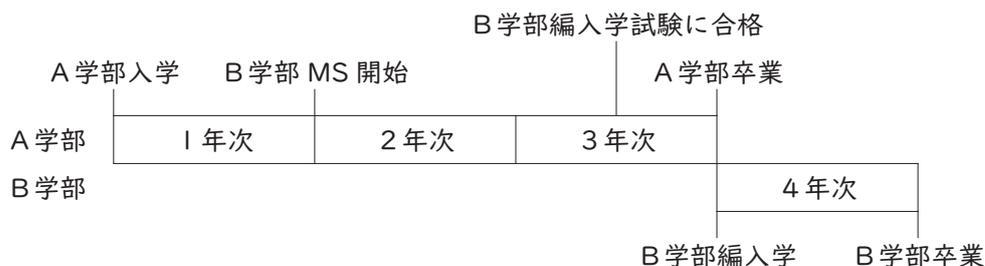
6. 複数分野専攻制〔Multidisciplinary Studies（略称：MS）〕

この制度は、他学部や学部以外のセンター等から提供されたプログラムのもと、学部の枠を越えた学問領域を学ぶことによって、幅広い知見と深い専門性を備えた学生を輩出するために設けられています。単なる他学部履修とは異なり一定の体系づけられたプログラムを履修することにより、自学部の学習に軸足を置きながらも、他学部のカリキュラムをまとまった形で学ぶことができます。プログラムの内容、募集要領等詳細については、入学時に配付している『複数分野専攻制への扉』を参照してください。

7. マルチプル・ディグリー制度（略称：MD）

この制度は、上記のMSを利用して、2つの学部を卒業（2つの学位を取得）することができる制度です。制度の概要は、「A学部在学中にB学部提供のMSプログラムを履修し、1つ目のA学部を卒業、その後B学部に編入学制度で入学し、A学部在学中に修得した単位の一部とB学部提供のMSプログラムで修得した単位についてB学部で認定を受け、B学部卒業要件の残りの単位を修得して2つ目のB学部を卒業する」というものです。B学部に編入学制度で入学するには、早期卒業制度を利用する場合は3年次の秋学期に、通常卒業の場合は4年次の秋学期に編入学試験を受験し、合格することが必要です。成績優秀者で早期卒業制度を利用できる場合は、A学部を3年で卒業し、最短の4年間で2つの学位を取得することができます。2つの学位を取得するケースとしては以下のとおりです。なお、「早期卒業制度」が適用される学部、「4年次編入」制度が設置されている学部は限られており、該当する学部を各ケースに示しています。詳細は教務機構事務部または学部事務室へ問い合わせてください。ただし、総合政策学部・理学部・工学部・生命環境学部・建築学部の学生は、本制度を利用できません。

■ 4年で2学位を取得するケース（最短：「早期卒業制度」と「4年次編入」の併用）



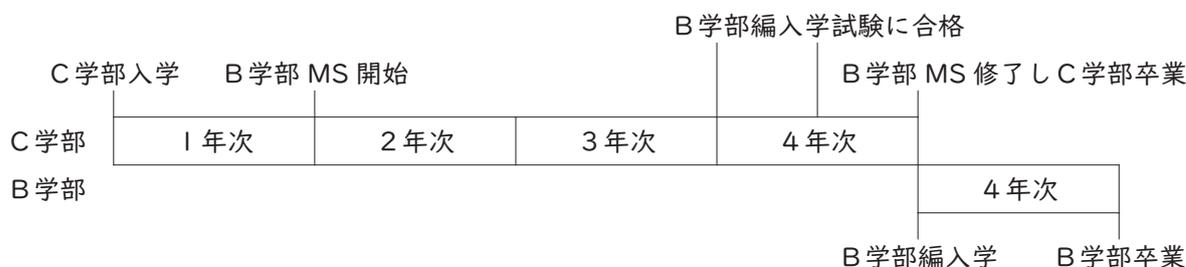
A学部：社会・法・経済・商・人間福祉・国際学部が該当。

1年次に入学後、A学部所定のカリキュラムを履修しながら、2・3年次開始のB学部MSプログラムを履修し、「早期卒業制度」により3年間で卒業。

B学部：神・文・社会・法・経済・商・国際学部が該当。

A学部を3年間で卒業後、B学部4年次に編入学し、B学部の卒業要件のうちの残りの単位を1年間で修得して卒業。

■ 5年で2学位を取得するケース（その1：「通常卒業」と「4年次編入」の併用）



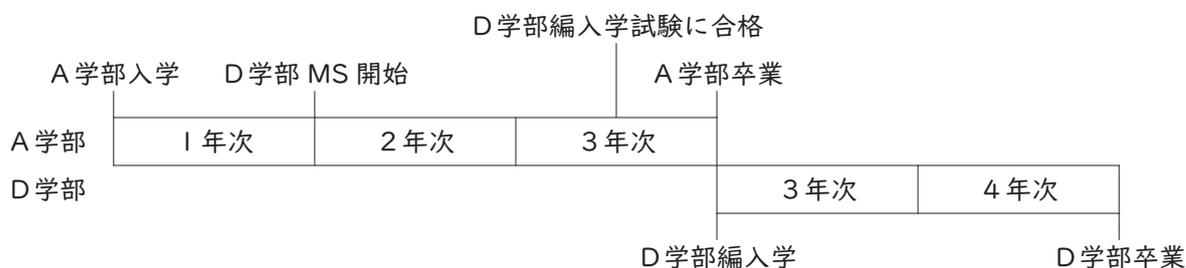
C学部：神・文・社会・法・経済・商・人間福祉・教育・国際学部が該当。

1年次に入学後、C学部所定のカリキュラムを履修しながら、2・3年次開始のB学部MSプログラムもあわせて修了し、4年間で卒業。

B学部：神・文・社会・法・経済・商・国際学部が該当。

C学部を4年間で卒業後、B学部4年次に編入学し、B学部の卒業要件のうちの残りの単位を1年間で修得して卒業。

■ 5年で2学位を取得するケース（その2：「早期卒業制度」と「通常（3年次）編入」の併用）



A学部：社会・法・経済・商・人間福祉・国際学部が該当。

1年次に入学後、A学部所定のカリキュラムを履修しながら、2・3年次開始のD学部MSプログラムを履修し、「早期卒業制度」により3年間で卒業。

D学部：文・社会・経済・国際学部が該当。

A学部を3年間で卒業後、D学部3年次に編入学し、D学部の卒業要件のうちの残りの単位を2年間で修得して卒業。

XI. 一般注意事項

1. 学生証

学生証は常に携帯してください。試験や手続きの際は、必ず学生証の呈示が求められますので、紛失・汚損等の場合は早急に取扱窓口にて再発行手続きをとってください（再発行手数料が必要）。

キャンパス	西宮上ケ原	神戸三田	西宮聖和
取扱窓口	学生課	キャンパス事務室	教育学部

2. 学部事務室開室時間

キャンパス	学 部	事務室開室時間
西宮上ケ原	神・文・社会・法・経済・商・ 人間福祉・国際	月～金曜日 8:50～11:30、12:30～16:50
西宮聖和	教育	
神戸三田	理工・総合政策・理・工・ 生命環境・建築	月～金曜日 9:00～11:30、12:30～17:00

※土曜日は事務室を開室しません。

なお、夏季休業中、冬季休業中の事務室開室日、時間については、kwicで配信します。

※事務室への電話による問い合わせには一切応じません。

3. 各種変更手続き

保証人、氏名等に変更が生じた場合、速やかに所属学部事務室に届け出てください。

現住所の変更については、kwic → 『証明書発行・各種手続き』 → 『学生情報登録申請』より修正してください。

4. パソコンの利用

本学ではBYOD（個人所有のパソコンを学内で持ち込んで利用すること）を推奨していますが、学内のパソコン教室や図書館には共用のパソコンを設置しています。なお、パソコン教室は授業で使用することがあるため、授業利用時以外（オープン利用時）のみ使用できます。

個人所有のパソコン・スマートフォン等を学内のネットワークに接続するための設定方法や、パソコン教室の空き状況は、<https://ict.kwansei.ac.jp/> から確認してください。

5. 証明書等

■ 証明書発行機の設置場所

設置場所		台数	利用時間帯
西宮上ヶ原	学生サービスセンター 1階	2台	月～金曜日 8:50～16:50
	大学図書館 1階	1台	
	G号館 1階	1台	
神戸三田	VⅢ号館 1階	2台	月～金曜日 9:00～17:00
大阪梅田	アプロースタワー14階（ラウンジ）	2台	月～金曜日 10:30～21:00
			土曜日 10:30～20:00
			日曜日 10:30～17:00
西宮聖和	I号館 1階（教育学部・短期大学事務室前）	2台	月～金曜日 8:50～16:50

※メンテナンス等により利用時間帯であっても使用できない場合がありますので注意してください。

利用に際しては、本人確認のため「学生証」およびパスワードが必要です。パスワードは入学時に仮パスワードとして各人の誕生日（1月7日生まれの場合は「0107」）があらかじめ発行機に登録されています。仮パスワードは、できるだけ早く任意のパスワードに変更（証明書発行機で変更可能）してください。

※証明書発行機は、2023年夏に新サービスへの移行を予定しております。発行機の設置場所、台数等、詳細は2023年夏までに kwic でお知らせします。

■ 証明書発行機で発行可能な証明書

○：発行可 ×：証明書発行機による発行不可

種類	和文	英文
在学証明書	○	○
成績証明書	○	○
卒業見込・成績証明書（発行開始日は掲示で告知）	○	○
健康診断証明書（保健館のホームページに発行方法を掲載）	○	×
教育職員免許状取得見込証明書（発行開始日は掲示で告知）	○	×
学割証	○	×
卒業・学士学位証明書（発行期間は掲示で告知）	○	○

■ 上記以外の各種申込書

証明書発行機で関係する各種「申込書」を購入のうえ、所属学部等事務室に申し込んでください。発行は、原則として申し込みの翌日、証明書の種類によっては作成に2日以上かかる場合もあるため、余裕を持って申し込んでください。

■ 証明書コンビニ発行

必要な証明書の発行をオンラインで申請、クレジット決済またはコンビニで現金決済し、全国のコンビニエンスストア（セブン-イレブン、ファミリーマート、ローソン [50音順]）の各店舗内に設置されているマルチコピー機を利用して発行することも可能です。詳細については、kwic → 『証明書発行・各種手続き』 → 『各種証明書発行』より確認してください。

6. 授業の欠席

本学には「公欠」制度はありません。病気や身内の死亡等をやむを得ず授業を欠席する場合も、その扱いは授業担当者の判断となります。やむを得ず授業を欠席する場合は、事前（不可能であれば事後）に直接授業担当者に相談してください。

■「学校保健安全法施行規則」に定める「学校において予防すべき感染症」のための登校停止の場合
罹患または罹患した疑いがある場合は、学内感染を予防するため登校停止としていますので、ただちに下記 URL または QR コードから申請をしてください。教務上の配慮を行います。

※ログインを求められますので、関学の ID・パスワードを入力してログインしてください。

URL : <https://forms.office.com/r/qqwjjjrA0h>



なお、主治医から登校許可が出たら、「学校感染症・登校許可証明書」を記載してもらい、必ず登校時に学部事務室へ提出してください。ただし、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）関連の対応については社会状況に応じて変更の可能性があります、登校停止解除等の詳細は、申請の都度、kwic のキャビネットを参照してください。届出がない場合は、登校停止期間が確定できないため、教務上の配慮はできません。

【感染症・新型コロナウイルス関連詳細 掲載場所】

kwic → 『キャビネット』 → 『教務機構』 → 『感染症・新型コロナウイルス関連』
→ 『学校感染症・新型コロナウイルス感染症ワクチン接種への対応について』

URL : <https://kwic.kwansei.ac.jp/cabinet/area/detail?areaId=941&directLink=1>



■裁判員制度による候補者として裁判員等選任手続きへの参加や裁判員・補充裁判員として職務に従事する場合

呼出状を持参のうえ、所属学部事務室に申し出てください。教務上の配慮を行います。

7. 授業の長期欠席

病気等によって1ヵ月以上授業を欠席する場合は、所属学部事務室に連絡の上、必要な手続きを行ってください。

8. 休学、復学、退学、除籍

休学、復学、退学、除籍については次のとおり定められています。休学、復学、退学を希望する場合は、必ず所属学部事務室に相談してください。

■休学

- 病気・家庭の事情及びその他の理由により休学しようとする者は、所定の休学願を春学期または秋学期の各授業開始後1ヶ月以内に所属学部長に提出して許可を得なければならない。
- 休学開始の時期は、春学期または秋学期の各開始日とする。
- 休学許可期間は1年間または1学期間とする。許可された休学期間の経過後も継続して休学しようとする者は、原則としてその休学期間満了前に、あらためて休学願を提出しなければならない。
- 休学し得る期間は通算2カ年以内とする。ただし、母国の兵役による休学は、2年を上限としてこの期間に算入しない。
- 休学期間は在学年数に算入しない。
- 休学を許可された者は、休学在籍料を、春・秋学期それぞれの学費納期に納入しなければならない。

■復学

- 休学した者が、復学しようとする場合は、原則として休学期間満了前に所定の復学願を所属学部長に提出し、許可を得なければならない。
- 復学の時期は、春学期または秋学期の各開始日とする。

■退学・除籍

- 退学しようとする者は、所定の退学願を所属学部長に提出して許可を得なければならない。
- (2020年度以前入学生)
関西学院大学学則第54条に該当する者は除籍する。
- (2021年度以降入学生)
関西学院大学学則第61条に該当する者は除籍する。
- 退学者または除籍者が再入学を願ったときは、教授会の議を経て許可することがある。ただし、再入学は退学または除籍の日より5カ年以内に手続きを完了することを要件とする。

9. 卒業延期制度

学部に4年以上在学し、卒業に必要な単位を修得した学生でも、卒業延期願を所属学部に申請し許可されれば、1回に限り卒業を延期することができます(最長1年)。

ただし、卒業延期期間中も含め、8年を越えて在学することはできません(参考:休学期間は、在学年数に算入しません)。また、卒業延期願を提出しても、卒業判定の結果、卒業要件を満たさない場合、申請は無効となります。

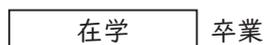
申請期限は、春学期(9月)卒業者は8月末日、秋学期(3月)卒業者は2月末日となります(申請期限が事務室閉室日の場合は、翌開室日までとします)。

卒業延期の条件

- ・卒業延期の申請は Semester 単位で最大 2 Semester（1 年間）まで。
- ・2 Semester 延期の場合は、初めの 1 Semester を休学することもできる（別途休学の手続きが必要）。
- ・適用された卒業延期の取り消しは認めない（適用期間の変更も認めない）。

ケース①：1 Semester を延期する場合

卒業延期開始……→ 半年後



ケース②：2 Semester を延期する場合

卒業延期開始……→ 1 年後



ケース③：2 Semester を延期し、かつ初めの 1 Semester を休学する場合

卒業延期開始……→ 1 年後



※別途、休学手続きが必要です。

10. 学 費

春学期と秋学期の 2 回に分けて学費を納入するシステムをとっています。

保証人の方に学費納入用紙を郵送しますので、各学期の納入期限までに納入してください。納入期限は曜日により前後することがありますので、詳しくは学費納入用紙を参照してください。

〈学費納入期限〉 春学期：5 月 19 日

秋学期：11 月 9 日

なお、学則で別途定める期限までに学費を納入できない場合には除籍となります。詳細については学費納付規程を確認してください。

〈延納手続き〉

期限までに納入することができない場合は納入期限を延長することができます。

申請方法は各学期の納入用紙発送日（納入期限の 1 ヶ月前を目途）以降、学生本人が kwic の「重要なお知らせ」にて確認してください。

11. 各種相談

相談がある場合は、所属学部事務室、所属する演習の担当教員、各教員のオフィス・アワーを利用してください。その他、学生生活の各種相談は学生生活支援機構、留学の相談は国際教育・協力センター、就職の相談はキャリアセンターで受け付けています。

また、総合支援センター学生支援相談室ではカウンセラーによる相談も行っています。健康上の問題については保健館を利用してください。

12. 海外渡航する場合には大学に届け出が必要です

世界各地で発生するテロや自然災害等様々な問題への対応のために、関西学院大学では次の2点について把握することとし、有事発生時の対応に備えています。

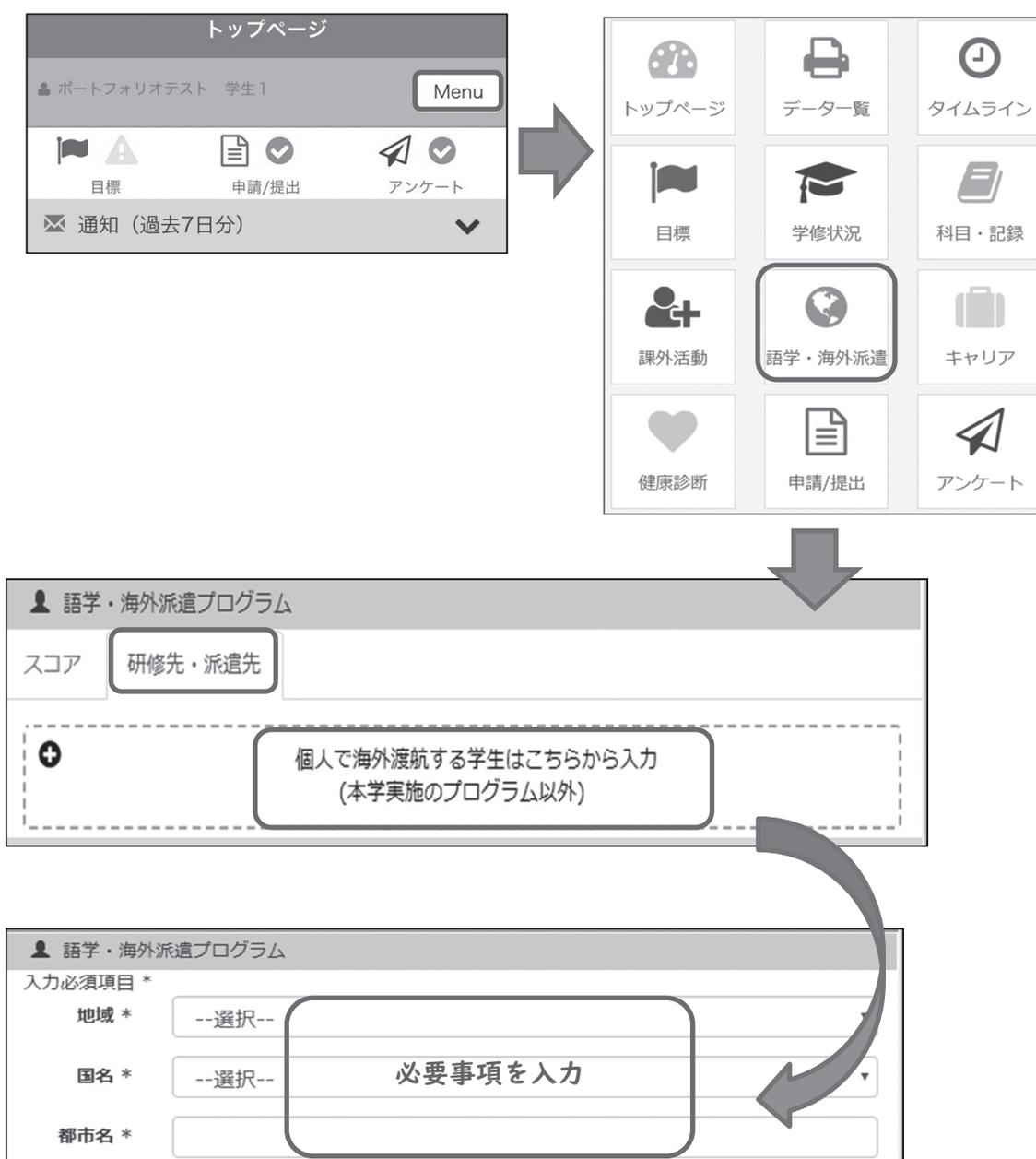
- ① 大学主催以外のプログラム等で海外へ渡航する学生のみなさんの渡航状況（大学主催プログラムは国際連携機構、プログラム実施学部等で把握）
- ② 大学主催プログラムの留学等での休暇中の学生のみなさんの旅行状況

上記に該当する場合、ポートフォリオで海外渡航情報の登録をお願いします。（ポートフォリオアプリのダウンロードは「LUNA（教授者-学習者支援システム）^{※1}」から確認ください。）

なお、本件は文部科学省「大学における海外留学に関する危機管理ガイドライン」に基づく対応であり、登録された個人情報は本目的の範囲外で利用することはありません。

※1 「LUNA（教授者-学習者支援システム）」は、2023年8月中旬に新システムへ移行を予定しております。アクセス方法等、詳細は2023年夏までに kwic でお知らせします。

〈ポートフォリオからの入力方法〉



13. 関西学院大学研究倫理について

関西学院大学 研究倫理について

▶ 貴方も責任ある研究者です。

「研究者」とは教員に限らず、本学において研究活動に従事する者すべてを含みます。
学部学生も、研究活動（各種調査におけるアンケートの実施やゼミ研究、研究リポート作成、卒業論文執筆など）に関わる際は、「研究者」に準ずる者とみなされます。
「関西学院大学 研究倫理規程 第2条」より

関西学院大学はキリスト教主義によってたつ教育研究機関であり、スクールモットーの Mastery for Service の精神に基づき、社会の信頼に支えられた高い倫理性をもって教育研究を推進し、その成果を積極的に社会に還元することに、その本旨がある。

- 研究者は、研究成果の発表における捏造、改ざん、盗用、重複発表、その他の研究活動における不正行為を行ってはならない。特許出願において虚偽を行ってはならない。また、研究活動における利益相反の発生に十分な注意を払い、相反が発生する場合には情報を開示し、適切な管理を行わなければならない。
- 研究者は、研究活動にあたって、関係する個人の尊厳および人権を尊重しなければならない。また、研究活動に伴う守秘義務を厳守し、活動の過程において知り得た個人情報の保護に努めなければならない。
- 研究者は、研究活動において装置、機器、薬品、材料などを用いるときは、関係する法令、本学の諸規則、学会等の指針を遵守し、環境、安全へ配慮しなければならない。
- 研究者は、研究活動において、学生や共同で研究を行う者に対して正当な理由なくして不利益を与えてはならない。

「関西学院大学 研究活動に関する指針」より抜粋

▶ 研究活動上の不正行為

以下3つの行為は、文部科学省「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」の中で、「特定不正行為」と位置付けられています。

- 試資料等の捏造
- 試資料等の改ざん
- 試資料等の盗用

その他、本学では以下の行為も不正行為として位置付けています。

- 恣意的に取得した試資料等の利用
- 不適切な著作者表示
- 不適切な重複発表
- 訂正の不作為

研究活動の倫理とは？

- 研究者は、研究活動における責任を自覚し、研究成果の客観性を歪めることがないよう、良心と信念に従って研究を遂行しなければならない。
- 研究者は、個人の尊厳及び人権の尊重、並びに個人情報の保護に留意し、科学的かつ社会的に妥当な方法、研究を遂行する義務を負います。
- 研究者は、研究の遂行上、関連する法令等に従うとともに、本学諸規程、所属する学会・団体等の倫理規程等を遵守しなければならない。

「関西学院大学 研究倫理規程」より抜粋

【参考文献】1. 「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」文科省 平成 26 年 2. 「研究活動の不正行為への対応のガイドラインについて～研究活動の不正行為に関する特別委員会報告書」文科省 平成 18 年

研究活動上の不正行為とは？

ガイドライン「研究活動における不正行為への対応等に関する」	捏造	<p>【事例】 デイオバン臨床研究不正事件 K医科大学の教授が行った高血圧治療薬（降圧剤）の臨床研究において、その薬に有利になるようにデータが人為的に操作されていた。本件においては、薬の販売元であるN製薬会社の日本法人社員が、K医科大学を含む複数の大学で行われた臨床研究で、N製薬会社所属という身分を隠して参加し、論文作成にも関与していた。</p> <p>【処分】 退職、退職金の自主返納</p>
	改ざん	<p>【事例】 画像の流用等のデータ改ざん 学外の告発者からの指摘により、研究者の研究論文に捏造（方法論が同じ代表的な実験データの流用）、改ざん（見栄えを良くするための画像代用）、二重投稿（3つの論文において、画像及び大部分の文章が他の論文と同一（注）。また、一つのデータを二つの論文に掲載。）が発覚した。</p> <p><small>（注） 研究者は、投稿した一方の学術誌を、研究会の抄録であると誤認して投稿したものであり、故意によるものではなかった。</small></p> <p>【処分】 当該教授は論旨退職、共著者等も処分対象</p> <p>【参考文献】 「研究者の不正行為についてのお詫びとご報告」 D医科大学 HP 平成 24 年 2 月 3 日</p> <p>※ 「捏造」と「改ざん」は、定義上、区別されているが、実際には、上記の様な、これらが混在した複合的な事案等も存在するため、厳密な分類が難しい場合がある。</p>
	盗用	<p>【事例】 W大学論文不正問題 平成 23 年 3 月に学位取得した博士論文について、著作権侵害行為（インターネットからの文章のコピー・アンド・ペースト、バイオ関連企業サイトの画像との酷似）、意味不明な記載（画像に対応する記載の不備）、整合性がない箇所（根拠論文の記載内容との矛盾）等が指摘された。</p> <p>【処分】 概ね一年間程度の猶予期間において、博士論文指導と研究倫理の再教育を受け、論文を訂正した場合は、学位が維持できるものとされた。これが適切に履行できないときは、当然に学位は取り消される。</p> <p>【参考文献】 1. 調査報告書 W大学 大学院先進理工学研究所における博士学位論文に関する調査委員会 平成 26 年 7 月 17 日 2. 会見発表 W大学 HP 平成 26 年 10 月 7 日</p>

その他、本学では以下の行為も不正行為として位置付けています。

- ▶ **恣意的に取得した試資料等の利用**
 計測・実験機器の操作や調査方法の決定等を恣意的に行うことによって、正当な方法では得られない試資料等を取得し、利用すること。
- ▶ **不適切な著作者表示**
 当該の研究活動に無関係の他者を著作者に加えたり、共同研究者を適正な形で著作者に含めなかったりすること。
- ▶ **不適切な重複発表**
 既発表の成果を新規なものであると偽って再び発表すること。
- ▶ **訂正の不作為**
 発表した研究成果に重要な間違いを発見しながら、当該成果の取り下げや訂正発表等の適切な処置を行わないこと。

【参考文献】1. 「わが国における研究不正～公開情報に基づくマクロ分析 (1)」独立行政法人科学技術振興機構 2013 vol.56 no.3 2. 「研究活動の不正行為への対応のガイドラインについて～研究活動の不正行為に関する特別委員会報告書」文科省 平成 18 年

本学の研究活動における不正行為防止等の体制、関係規則、及び事例を URL にて紹介しています。
 URL: https://www.kwansei.ac.jp/kenkyu/kenkyu_010053.html 「研究活動上の不正行為防止への取り組み」

研究活動上の不正行為に関する相談・告発等の窓口

研究推進社会連携機構事務部
 E-mail: fuseisoudan@kwansei.ac.jp
 (西宮上ヶ原キャンパス) TEL 0798-54-6104 / FAX 0798-54-6905 (神戸三田キャンパス) TEL 079-565-9052 / FAX 079-565-7910
 ※ 告発者は「関西学院大学における研究活動上の不正行為の防止等に関する規程」に基づき、不利益な取扱いを受けることがないよう保護されます。

14. 臨時バスの案内

補講日や祝日の授業実施日には、臨時バスを手配することがあります。臨時バスのダイヤについては、kwic や掲示にてお知らせしますので、各自で確認をしてください。

15. 自動車通学【許可制】

関西学院大学では、自動車通学を全面禁止しています。しかし、神戸三田キャンパスへの交通アクセス面を考慮し、自動車通学が必要な場合は、学生本人がWeb (Microsoft Forms) で申請し許可を受けた場合のみ、自動車通学を認めています。詳細は kwic 「キャビネット>神戸三田キャンパス事務室 (キャンパス担当)>交通アクセス⇒自動車通学申請」で確認してください。

16. 大学学部の授業・試験実施に関する警報発令時の下校方法 (バス)

大学学部の授業・試験実施に関する警報発令時には、休講・試験中止の措置をとることがあります。この場合、みなさんが速やかに下校できるよう、状況に応じ、神姫バスやシャトルバスの臨時バスを手配します。必要なバス台数の把握とバス乗り場での混乱を避けるため、以下のとおり対応してください。

- 路線別に指定場所に集合してください。直接バス停に行っても乗車できません。
- 集合後、バスの到着にあわせて順次、乗車誘導を行います。
- 集合場所
 - ・新三田線：VI(6)号館1階 101号教室
 - ・三田線：VI(6)号館2階 201号教室
 - ・三宮線：第二厚生棟2階 食堂
 - ・新大阪・梅田線：第二厚生棟1階 学生ホール
 - ・シャトルバス：アカデミックコモンズ1階 シアター

XII. その他

I. 理工学部内規

2020年度 理工学部内規

I 学則及び内規の適用について

- 1 学則の適用は、原則として入学年度の学則が適用される。ただし、学則が全学年度に適用される場合はこの限りではない。
- 2 内規の適用は、原則として入学年度の内規が適用される。ただし、内規が全学年度に適用される場合はこの限りではない。
- 3 学則及び内規の変更に伴う移行措置が講じられた場合は別に配布される理工学部『授業科目履修心得』（以下『履修心得』）による。

II 授業履修内規

[全学科共通]

1 授業科目の履修について

- (1) 履修しようとする授業科目については、すべて所定の期日内に履修届を提出しなければならない。
- (2) 履修登録されていない授業科目の単位を修得することはできない。
- (3) 履修届の変更は原則として認めない。
- (4) 時間割上、同一時間に組まれた2つ以上の授業科目を履修することはできない。
- (5) すでに単位を修得した授業科目は原則として再度履修することはできない。
- (6) クラス指定のある授業科目は、定められたクラスで履修しなければならない。
- (7) 同一学期に複数クラス開講している授業科目について、2つ以上のクラスを原則として同時に履修することはできない。
- (8) 授業科目の履修は原則として履修基準年度に従わなければならない。

2 専門教育科目について

- (1) 卒業に必要な単位数のうち、専門教育科目の96単位はすべて理工学部開講の専門教育科目で満たさなければならない。
- (2) 卒業に必要な単位数を越えて修得した専門教育科目の単位を4単位まで総合教育科目として算入できる。

3 卒業単位に算入されない科目について

- (1) 学則第33条第3項に定められた資格取得科目は、卒業に必要な単位には算入できない。ただし、下記の科目は、卒業に必要な総合教育科目の選択科目の単位として算入できる。

教育原論、発達・学習過程論

- (2) 下記の科目（資格取得科目）は卒業に必要な単位には算入できない。

博物館教育論	博物館概論
博物館経営論	博物館資料論
生涯学習概論	博物館資料保存論

博物館教育メディア論	博物館展示論
博物館実習	社会教育概論
社会教育計画	社会教育実習
社会教育特講Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	社会体育
社会教育行政	職業指導
社会教育課題研究	

- 4 全学開講・他学部開講科目の履修制限について
全学開講・他学部開講科目のうち下記の科目は履修できない。

数理の科学A・B	自然現象の科学A・B
物質の科学A・B	生命の科学A・B
コンピュータ基礎	情報技術概論
文科系学生のための情報技術入門	
コンピュータ言語	コンピュータ実践
数理科学の基礎	感性情報

- 5 英語能力優秀者の特別履修について

下記〔資格一覧〕にある資格試験のいずれかにおいて一定以上のスコアを修得した英語能力の優秀な者については、語学力を勘案した上で、英語リーディング・ライティング・コミュニケーションⅠA/ⅠB/ⅡA/ⅡBの中から未修得のものを最大12単位認定する。

なお、この措置を希望する者は指定された期間に所定の手続きを行い履修指導を受ける。

[資格一覧]

試験名	スコア・級
TOEIC	750点
TOEFL ITP	550点
TOEFL iBT	79点
IELTS	5.5点
実用英語技能検定	準1級
TEAP	334点

- 6 成績優秀者の履修単位数制限緩和について

当該学期のGPAが3.0以上である者に対して、次学期の履修単位数制限を緩和し、4単位増加する。

- 7 その他履修に関する事項は、『履修心得』による。

[数理科学科]

1 単位数制限について

- (1) 各学年度において履修できる単位数は、次のとおりとする。

第1学年度	46単位以内 (春学期 23単位、秋学期 23単位)
第2学年度	46単位以内 (春学期 23単位、秋学期 23単位)
第3学年度	48単位以内 (春学期 24単位、秋学期 24単位)
第4学年度	48単位以内

(春学期 24単位、秋学期 24単位)

(2) 単位数制限の対象外の科目は「理工学部授業科目履修心得」でこれを定める。

2 先修条件について

(1) 科学技術英語A・B、特別英語セミナーを履修するためには、卒業に必要な英語科目12単位を修得していなければならない。

(2) 地学実験Aを履修するためには、基礎地学I・IIのうち1科目以上を修得し、かつ基礎物理学実験I、基礎化学実験I、生命科学入門実験の3科目を修得していなければならない。

(3) ドイツ語文法II、ドイツ語読解IIを履修するためには、それぞれドイツ語文法I、ドイツ語読解Iを修得していなければならない。

(4) フランス語文法II、フランス語読解IIを履修するためには、それぞれフランス語文法I、フランス語読解Iを修得していなければならない。

(5) 全学開講 入門英語II A、入門英語II Bを履修するためには、それぞれ入門英語I A、入門英語I Bを2単位ずつ修得していなければならない。

(6) 数理科学特別演習Iを履修するためには、必修科目8単位かつ基礎科目42単位以上を修得していなければならない。ただし、早期卒業見込者が第3学年において履修する場合は、必修科目8単位かつ基礎科目32単位以上を修得していなければならないものとする。

(7) 数理科学特別演習IIを履修するためには、数理科学特別演習Iを修得していなければならない。

[物理学科]

1 単位数制限について

(1) 各学年度において履修できる単位数は、次のとおりとする。

第1学年度 49単位以内
(春学期 25単位、秋学期 24単位)

第2学年度 49単位以内
(春学期 25単位、秋学期 24単位)

第3学年度 49単位以内
(春学期 25単位、秋学期 24単位)

第4学年度 49単位以内
(春学期 25単位、秋学期 24単位)

(2) 単位数制限の対象外の科目は「理工学部授業科目履修心得」でこれを定める。

2 先修条件について

(1) 言語教育科目、地学実験Aについては、[数理科学科]の先修条件(1)~(5)を参照すること。

(2) 物理学実験I・IIを履修するためには、基礎物理学実験I・IIのうち1科目以上を修得していなければならない。

(3) 卒業実験及び演習・輪講・外国書講読(卒業研究)を履修するためには、卒業研究の12単位と実験科目以外の授業科目合計10単位以内(そのうち英語必修科目4単位以内)を除き、卒業に必要な条件をすべて満たしていなければならない。ただし、休学期間を除いて3年間以上在籍していなければならないものとし、編入学試験を受けて入学した者については、教授会において在籍期間を認

定する。

[先進エネルギーナノ工学科]

1 単位数制限について

(1) 各学年度において履修できる単位数は、次のとおりとする。

第1学年度 49単位以内
(春学期 25単位、秋学期 24単位)

第2学年度 49単位以内
(春学期 24単位、秋学期 25単位)

第3学年度 49単位以内
(春学期 25単位、秋学期 24単位)

第4学年度 49単位以内
(春学期 25単位、秋学期 24単位)

(2) 単位数制限の対象外の科目は「理工学部授業科目履修心得」でこれを定める。

2 先修条件について

(1) 言語教育科目、地学実験Aについては、[数理科学科]の先修条件(1)~(5)を参照すること。

(2) ものづくり理工学実験I・IIを履修するためには、基礎物理学実験I・II、基礎化学実験Iのうち2科目以上を修得していなければならない。

(3) 卒業実験及び演習・輪講・外国書講読(卒業研究)を履修するためには、卒業研究の12単位と実験科目、先進エネルギーナノ工学概論、ものづくり理工学実験I・II以外の授業科目合計10単位以内(そのうち英語必修科目4単位以内)を除き、卒業に必要な条件をすべて満たしていなければならない。ただし、休学期間を除いて3年間以上在籍していなければならないものとし、編入学試験を受けて入学した者については、教授会において在籍期間を認定する。

[化学科]

1 単位数制限について

(1) 各学年度において履修できる単位数は、次のとおりとする。

第1学年度 49単位以内
(春学期 25単位、秋学期 24単位)

第2学年度 48単位以内
(春学期 24単位、秋学期 24単位)

第3学年度 48単位以内
(春学期 24単位、秋学期 24単位)

第4学年度 49単位以内
(春学期 25単位、秋学期 24単位)

(2) 単位数制限の対象外の科目は「理工学部授業科目履修心得」でこれを定める。

2 先修条件について

(1) 言語教育科目、地学実験Aについては、[数理科学科]の先修条件(1)~(5)を参照すること。

(2) 無機分析化学実験、物理化学実験、有機化学実験を履修するためには、基礎化学実験I・II、基礎物理学実験Iのうち2科目以上を修得していなければならない。

(3) 卒業実験及び演習・輪講・外国書講読(卒業研究)を履修するためには、卒業研究の12単位と実験科目以外の授業科目合計6単位以内(そのうち

英語必修科目4単位以内)を除き、卒業に必要な条件をすべて満たしていなければならない。ただし、休学期間を除いて3年間以上在籍していなければならないものとし、編入学試験を受けて入学した者については、教授会において在籍期間を認定する。

[環境・応用化学科]

1 単位数制限について

(1) 各学年度において履修できる単位数は、次のとおりとする。

第1学年度 49単位以内
(春学期 25単位、秋学期 24単位)

第2学年度 48単位以内
(春学期 24単位、秋学期 24単位)

第3学年度 49単位以内
(春学期 25単位、秋学期 24単位)

第4学年度 49単位以内
(春学期 25単位、秋学期 24単位)

(2) 単位数制限の対象外の科目は「理工学部授業科目履修心得」でこれを定める。

2 先修条件について

(1) 言語教育科目については、[数理科学科]の先修条件(1)~(5)を参照すること。

(2) 環境・応用化学実験Ⅰ・Ⅱを履修するためには、基礎化学実験Ⅰ・Ⅱ、基礎物理学実験Ⅰのうち2科目以上を修得していなければならない。

(3) 卒業実験及び演習・輪講・外国書講読(卒業研究)を履修するためには、卒業研究の12単位と実験科目以外の授業科目合計6単位以内(そのうち英語必修科目4単位以内)を除き、卒業に必要な条件をすべて満たしていなければならない。ただし、休学期間を除いて3年間以上在籍していなければならないものとし、編入学試験を受けて入学した者については、教授会において在籍期間を認定する。

[生命科学科]

1 単位数制限について

(1) 各学年度において履修できる単位数を、次のとおりとする。

第1学年度 49単位以内
(春学期 25単位、秋学期 24単位)

第2学年度 48単位以内
(春学期 24単位、秋学期 24単位)

第3学年度 49単位以内
(春学期 25単位、秋学期 24単位)

第4学年度 49単位以内
(春学期 25単位、秋学期 24単位)

(2) 単位数制限の対象外の科目は「理工学部授業科目履修心得」でこれを定める。

2 先修条件について

(1) 言語教育科目、地学実験Aについては、[数理科学科]の先修条件(1)~(5)を参照すること。

(2) 先端生命科学実験Ⅰを履修するためには、細胞・組織学実験、生命分子・生化学実験のうち1科目以上を修得し、卒業に必要な単位数合計62単

位以上を修得していなければならない。

(3) 先端生命科学実験Ⅱを履修するためには、先端生命科学実験Ⅰを修得していなければならない。

(4) 卒業実験及び演習・輪講・外国書講読(卒業研究)を履修するためには、卒業研究の12単位と実験科目以外の授業科目合計6単位以内(そのうち英語必修科目4単位以内)を除き、卒業に必要な条件をすべて満たしていなければならない。ただし、休学期間を除いて3年間以上在籍していなければならないものとし、編入学試験を受けて入学したものについては、教授会において在籍期間を認定する。

[生命医化学科]

1 単位数制限について

(1) 各学年度において履修できる単位数を、次のとおりとする。

第1学年度 49単位以内
(春学期 25単位、秋学期 24単位)

第2学年度 48単位以内
(春学期 24単位、秋学期 24単位)

第3学年度 49単位以内
(春学期 25単位、秋学期 24単位)

第4学年度 49単位以内
(春学期 25単位、秋学期 24単位)

(2) 単位数制限の対象外の科目は「理工学部授業科目履修心得」でこれを定める。

2 先修条件について

(1) 言語教育科目、地学実験Aについては、[数理科学科]の先修条件(1)~(5)を参照すること。

(2) 先端医化学実験Ⅰを履修するためには、基礎医化学実験Ⅰ・Ⅱのうち1科目以上を修得し、卒業に必要な単位数合計62単位以上を修得していなければならない。

(3) 先端医化学実験Ⅱを履修するためには、先端医化学実験Ⅰを修得していなければならない。

(4) 卒業実験及び演習・輪講・外国書講読(卒業研究)を履修するためには、卒業研究の12単位と実験科目以外の授業科目合計6単位以内(そのうち英語必修科目4単位以内)を除き、卒業に必要な条件をすべて満たしていなければならない。ただし、休学期間を除いて3年間以上在籍していなければならないものとし、編入学試験を受けて入学したものについては、教授会において在籍期間を認定する。

[情報科学科]

1 単位数制限について

(1) 各学年度において履修できる単位数は、次のとおりとする。

第1学年度 48単位以内
(春学期 25単位、秋学期 23単位)

第2学年度 48単位以内
(春学期 25単位、秋学期 23単位)

第3学年度 49単位以内
(春学期 24単位、秋学期 25単位)

第4学年度 49単位以内

(春学期 24単位、秋学期 25単位)

(2) 単位数制限の対象外の科目は「理工学部授業科目履修心得」でこれを定める。

2 先修条件について

(1) 言語教育科目、地学実験Aについては、[数理科学科]の先修条件(1)~(5)を参照すること。

(2) 情報科学実習科目を履修するためには、プログラミング実習I及びコンピュータ演習Aを修得していなければならない。

(3) 人間システム工学実習・実験科目を履修するためには、プログラミング実習I・II・IIIのいずれか1科目を修得していなければならない。

(4) 情報システム領域実習A・B及びネットワークシステム領域実習A・Bを履修するためには、プログラミング実習Iを含む専門必修科目8単位以上、専門基礎科目20単位以上を修得していなければならない。

(5) 卒業実験及び演習・輪講・外国書講読(卒業研究)を履修するためには、卒業研究の12単位と情報システム領域実習A・Bまたはネットワークシステム領域実習A・B以外の授業科目合計10単位以内(そのうち英語必修科目4単位、情報科学実習科目及び人間システム工学実習・実験科目の合計2単位以内)を除き、卒業に必要な条件をすべて満たしていなければならない。ただし、休学期間を除いて3年間以上在籍していなければならないものとし、編入学試験を受けて入学したもののについては教授会において在籍期間を認定する。

3 情報処理技術演習の履修について

(1) 情報処理技術演習は、情報処理推進機構「基本情報技術者試験」または「応用情報技術者試験」に合格した場合、単位を認定することができる。

(2) 対象試験は2009年度以降に実施されたものとする。

(3) この措置を希望する者は、指定された期間に所定の書類を提出すること。

[人間システム工学科]

1 単位数制限について

(1) 各学年度において履修できる単位数は、次のとおりとする。

第1学年度 48単位以内
(春学期 23単位、秋学期 25単位)

第2学年度 48単位以内
(春学期 25単位、秋学期 23単位)

第3学年度 49単位以内
(春学期 24単位、秋学期 25単位)

第4学年度 49単位以内
(春学期 24単位、秋学期 25単位)

(2) 単位数制限の対象外の科目は「理工学部授業科目履修心得」でこれを定める。

2 先修条件について

(1) 言語教育科目、地学実験Aについては、[数理科学科]の先修条件(1)~(5)を参照すること。

(2) 情報科学実習科目については、[情報科学科] 2. 先修条件(2)を参照すること。

(3) 人間システム工学実習・実験科目については、

[情報科学科] 2. 先修条件(3)を参照すること。

(4) 映像音響システム領域実習A・B及びサイバーロボティクス領域実習A・Bを履修するためには、専門必修科目14単位以上、かつ基礎科目20単位以上を修得していなければならない。ただし、プログラミング実習I・II・IIIのいずれか1科目を修得していなければならない。

(5) 卒業実験及び演習・輪講・外国書講読(卒業研究)を履修するためには、卒業研究の12単位と映像音響システム領域実習A・Bまたはサイバーロボティクス領域実習A・B以外の授業科目合計10単位以内(そのうち英語必修科目4単位、人間システム工学実習・実験科目及び情報科学実習科目の合計2単位以内)を除き、卒業に必要な条件をすべて満たしていなければならない。ただし、休学期間を除いて3年間以上在籍していなければならないものとし、編入学試験を受けて入学したもののについては教授会において在籍期間を認定する

3 情報処理技術演習の履修について

(1) 情報処理技術演習は、情報処理推進機構「基本情報技術者試験」または「応用情報技術者試験」に合格した場合、単位を認定することができる。

(2) 対象試験は2009年度以降に実施されたものとする。

(3) この措置を希望する者は、指定された期間に所定の書類を提出すること。

III 成績評価・試験内規

1 成績評価は、成績評価・試験規程に基づき、行なう。

2 追試験は次の事由により定期試験が受けられなかった場合に施行される。

(1) 二親等以内の親族の死亡

(2) 本人の病気

(3) 試験当日の事故

(4) 学校において予防すべき感染症による登校停止

(5) 裁判員制度により、候補者として裁判員等選任手続に参加又は裁判員・補充裁判員として職務に従事する場合

(6) 公共交通機関の遅延又は運行停止等

(7) 学生連盟加盟団体に所属する学生が、各競技等の国内統括団体主催競技会等に参加資格を有し、春学期・秋学期定期試験期間と競技会等の日程が重複する場合

(8) その他、追試験を受けるに相当する理由と教授会が認めるもの

3 上記(1)、(4)、(5)、(6)、(7)の場合を除き追試験の評点は20%を減じる。(1)~(6)及び(8)については、証明書、診断書又はその事由を説明する書面等を提出し、(7)については、事前に学生生活動支援機構が定めた手続きを行うこと。

4 代替試験は、自然災害又は公共交通機関の運行停止等の事由により定期試験又は追試験を受けられなかった場合に施行される。なお、代替試験の成績は、100%評価とする。ただし、追試験の代替試験の成績は追試験に準ずる。

5 試験において不正行為があった場合には、当該試

験期間中の全試験科目を0点とする。

- 6 成績評価に関して疑義がある場合は、成績発表後一定の期間内に所定の手続により、調査を願い出ることができる。

IV 転科・転専攻内規

転科または転専攻を希望する者があれば選考のうえ転科・転専攻を許可することがある。転科または転専攻を希望する者は、毎年1月の指定された期間に所定の書類を学部長に提出する。ただし、各学科の入学年度別学生数が、結果として各学科・専攻の入学定員を越えない範囲とする。

V 卒業研究配属内規

- 1 卒研（卒業研究）は原則として所属学科の研究室で行わなければならない。
- 2 所属学科でない学科の研究室で卒研を行うには、教授会の承認を受けなければならない。

VI その他

- 1 編入学生等の学則の適用について
 - (1) 編入学生については、入学を許可された学年の学生に適用される学則を適用する。
 - (2) 再入学生については、原則として再入学を許可された学年の学生に適用される学則を適用する。
- 2 単位認定について
 - (1) 編入学生が前に在学した学校において修得した単位は、一定の基準によって本学部授業科目の履修により修得したものと認定される。
 - (2) (1) 以外のものについては、編入生に準じて単位認定を行なう。
- 3 聴講生について
 - (1) 本学部の特定の授業科目について聴講を希望するものがある場合、教授会の議を経て聴講生として許可することができる。
 - (2) 聴講生の出願及び選考に関する事項は募集要項に定めるものとする。
- 4 科目等履修生について
 - (1) 本学部の特定の授業科目を履修し、単位の修得を希望するものがある場合、教授会の議を経て科目等履修生として許可することができる。
 - (2) 科目等履修生の出願及び選考に関する事項は募集要項に定めるものとする。
- 5 迷惑行為について

「学外における迷惑駐車・迷惑駐輪を行った学生への指導に関するガイドライン（西宮上ヶ原キャンパス、神戸三田キャンパス）」に規定がある場合はそれを優先する。それ以外の場合で、神戸三田キャンパス自動車通学取扱要項を遵守しない場合、近隣住民に迷惑をかける行為を繰り返し行なった場合及び火災や事故につながる迷惑行為を行った場合は、その学期の定期試験の受験資格を停止する。
- 6 数理科学科早期卒業について

学則第7条第2項の規程に基づき、理工学部数理科学科における早期卒業に関し必要な事項を定めるものとする。

(1) 対象学生

早期卒業は、本学に3年在籍し、卒業の要件として定める単位を優秀な成績をもって修得したと認められる者を対象とする。

(2) 早期卒業の申請資格

次の各号に挙げる要件を全て満たした者が早期卒業を希望するとき、指定の期間中に、所定の申請書を提出する。

- ①第2学年終了時に、卒業要件単位を86単位以上修得し、1科目当たりの合格点の平均が85点以上である。
- ②第2学年終了時に、必修科目の単位を8単位かつ基礎科目の単位を28単位修得し、1科目当たりの合格点の平均が85点以上である。
- ③第2学年終了時に、コンピュータ科目の単位を4単位以上修得し、1科目当たりの合格点の平均が85点以上である。

(3) 早期卒業見込者の認定

申請書を提出後、面接において適格の認定を受けた者が早期卒業見込者となる。

(4) 早期卒業見込者の履修特別措置

早期卒業見込者は第3学年において、履修基準年度4年の配当科目を履修することができる。

(5) 早期卒業の辞退

早期卒業見込者が早期卒業を希望しなくなったとき、指定の辞退届を提出しなければならない。ただし、辞退届の提出期限は第3学年秋学期の授業が終了するまでとする。

(6) 卒業要件

早期卒業するためには、次の各号に挙げる要件を全て満たしていなければならない。

- ①第3学年春学期成績発表の時点で、第3学年春学期に修得した専門教育科目の1科目当たりの平均点が85点以上である。
- ②第3学年春学期成績発表後に面接を受け、引き続き秋学期も早期卒業見込者として適格の認定を受ける。

(7) 卒業認定

上記の卒業要件を満たしている早期卒業見込者は、教授会の議を経て早期卒業が認められる。

(8) 合格点の平均を算出する際の注意

合格点の平均を算出する際には認定科目および資格取得科目の成績は算入しない。ただし、卒業要件に含むことができる以下の資格取得科目の成績は算入する。

教育原論、発達・学習過程論

2. その他

2.1 大学院・理工学研究科について

本学大学院理工学研究科には、2023年4月現在、博士課程前期課程（標準修業年限2年）および博士課程後期課程（同3年）に9専攻（数理科学専攻・物理学専攻・先進エネルギーナノ工学専攻・化学専攻・環境・応用化学専攻・生命科学専攻・生命医化学専攻・情報科学専攻・人間システム工学専攻）が設置されている。博士課程前期課程は、専攻分野における研究能力や高度で専門的な職業に就くための能力を養成することを目的としており、博士課程前期課程において、修了者には「修士（理学）」または「修士（工学）」の学位が授与される。また、博士課程後期課程は、自立した研究者を養成することが目的であり、修了者には「博士（理学）」または「博士（工学）」の学位が授与される。

博士課程前期課程の入学試験は、1次入試が8月に行われる（2024年度入試）。また、2次募集として2月にも入試を行っている（この時にあわせて博士課程後期課程の入試も実施する）。さらに、理工学研究科では、優秀な学生が本学大学院（博士課程前期課程）への進学を希望する際、「推薦入試」制度を設けている。これは学部での成績が優秀で、大学院へ進学後も勉学・研究において優秀な成績を修めるであろうと期待される学生を指導教授が推薦し、面接によって可否を判定するという制度である。詳細については、担任教員に確認すること。

科学技術の進歩、専門性の深度化により、企業も研究職としてより高度な専門知識を修得した人材を求める傾向にある。入学後、早い段階から将来計画を立て、大いに勉学に励み、より多くの者が大学院への進学を考えるよう期待している。その際、上記の制度があることを覚えて、大いに活用してもらいたいと願っている。

2.2 学生実験用ロッカーについて

IV号館・VII号館には、実験中の手回り品の収納のためのロッカーがある。
学生実験用ロッカーの使用について、以下のとおり定める。

1. 利用対象者

- a) 物理学科、先進エネルギーナノ工学科、化学科、環境・応用化学科、生命科学科、生命医化学科の学生
 - b) その他、副学部長（学生担当）が必要と認める者
- ※卒業研究配属者および休学者は、原則的にロッカーの利用はできない。

2. ロッカー利用申請

- a) 学生実験用ロッカー利用申請書を提出して、許可を得た者がロッカーを使用できる。
- b) 先進エネルギーナノ工学科、化学科、環境・応用化学科、生命科学科、生命医化学科については1年次より、物理学科については2年次より申請可能とする。
- c) 実験科目を履修していることが分かる履修登録確認表のコピーを添付して、申請する。
- d) その他、ロッカーを必要とする者は、学生実験用ロッカー利用申請書を提出の上、判断する。

3. ロッカー利用期間

- a) 学期授業開始日より学生実験履修終了の日（最長で卒業研究配属決定日）までとする。
- b) 利用期限までに、ロッカーを空にしておくこと。
- c) 学生実験の受講期間中、原則1年間（4月から翌年3月）とするが、学生実験を継続して履修している場合は、履修期間中は同一ロッカーを継続することとする。
- d) その他、副学部長（学生担当）が必要と認めた者は、最大1年の借用期間とする（更新可）。

4. 保管してはいけない物

- a) 貴重品（現金等）
- b) 可燃性や揮発性の物または危険な薬品等

- c) 不潔な物、異臭を発する物
- d) 生き物

5. 使用上の注意

- a) 利用者は、他人にロッカーを転貸（又貸）してはいけない。
- b) ロッカーの暗証番号は他人に知られないようにすること。安全管理のため、適宜変更すること。
- c) 利用者は、ロッカーの利用期限後は、ロッカー内を空にしなければならない。利用期限を過ぎても、ロッカー内に残っている物品については、理工学部にて適宜廃棄等の処分を行う。
- d) ロッカーの上および周辺に放置した物品については、理工学部にて適宜廃棄等の処分を行う。
- e) 利用者は、自己責任を持ってロッカーを常に清潔丁寧に扱うこと。
- f) ロッカー周辺でたむろして騒いだり周りに迷惑を掛ける行為をしないこと。
- g) 適正な使用中において、問題が発生した場合は、直ちにⅧ号館1階事務室に申し出ること。
- h) ロッカーに荷物を詰め込みすぎないこと。特にロッカー扉の開閉ノブに荷物が接触しないように注意すること。
- i) ロッカーの場所、暗証番号を失念した場合は、Ⅳ号館警備室まで申し出ること。その他の理由で開閉できない場合は、「学生実験用ロッカー開錠依頼書」をⅧ号館1階事務室へ提出のこと。

6. 損害賠償

- a) 利用者が上記使用上の注意を違反した場合は、ロッカーの使用許可を取り消す。
- b) ロッカーを破損または汚損した場合は、実費分を弁償することとする。

XIII. 教育課程表

理工学部のカリキュラムは、学科ごとに独自の構成となっており、学科別に特色のある履修体系となっている。学生諸君が自覚と意欲を持って、各学科の卒業生にふさわしい能力を身につけることができるように計画的な履修を進めていくことが大切である。

低学年の間は、専門への基礎固めが中心であるため、時間割の自由度はどうしても少なくなるが、高学年へ進むにつれて多様な学習が可能となっていく。

各自で、教員の研究内容を大学案内などで参照し、自分のやりたい研究テーマを見据えて、計画的な履修を行うこと。

以下の資料は履修計画を立てる上で参考にして欲しい。

1. 理工学部学則別表（教育課程表）

理工学部の総合教育科目カリキュラムと各学科カリキュラムを、履修基準年度別、必修科目・選択必修科目・選択科目別に掲載したもの。「V. 2. 卒業に必要な単位数」も合わせて確認すること。

2. 卒業可否の確認方法について

卒業可否は学生自身が責任を持って確認する必要があるため、教職員に確認してもらうことはできない。そのため、勘違いや計算ミスがないよう、自身で正確に判断する必要がある。そこで、「XIII. 教育課程表」を活用した、比較的シンプルな確認方法の例を紹介するので、参考にする。

〈卒業可否確認方法の例〉

- ①単位を修得した科目を**見え消し**で消し込んでいく。
- ②各カテゴリの修得単位数（見え消しとなった単位数）を、「**修得単位数／必要単位数**」という形で表す。
例：10/14、26/20 等
- ③卒業に必要な単位のルールに基づき確認する。特定のカテゴリの余剰単位を別のカテゴリに充当する場合、その動きを矢印で表す。

化学科 教育課程表 (2020年度入学生用)

履修基準年度	総合教育科目				専門教育科目				履修制限						
	キリスト教科目	英語教育科目		総合選択科目		必修科目		選択必修科目		専門選択科目					
		単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数		科目名	単位数	科目名	単位数		
1年	100 キリスト教A	2	110 英語リーディングI A	1	120 ドイツ語読解I	2	112 基礎化学A	2	101 基礎化学実験I	2	112 基礎化学A	2	125 海外理工学プログラムA	1	
	100 キリスト教B	2	110 英語リーディングI B	1	120 ドイツ語読解II	2	101 基礎化学実験II	2	112 基礎化学B	2	101 基礎化学実験II	2	125 海外理工学プログラムB	2	
2年	1	110 英語ライティングI A	1	120 フランス語読解I	1	112 基礎化学C	2	112 基礎物理学A	2	112 基礎物理学A	2	125 海外理工学プログラムC	3		
		110 英語ライティングI B	1	120 フランス語読解II	1	112 基礎物理学B	2	112 基礎物理学B	2	112 基礎物理学B	2	125 理工学特別プログラム001	1		
3年	1	110 英語コミュニケーションI A	1	120 ドイツ語文法I	1	112 微積分学I	2	112 微積分学I	2	112 微積分学I	2	125 理工学特別プログラム002	2		
		110 英語コミュニケーションI B	1	120 ドイツ語文法II	1	112 微積分学II	2	112 微積分学II	2	112 微積分学II	2	125 理工学特別プログラム004	4		
4年	3	110 英語コミュニケーションII A	1	120 フランス語文法I	1	112 線形代数学I	2	112 線形代数学I	2	112 線形代数学I	2	125 国内協定水学科目	1~8		
		110 英語コミュニケーションII B	1	120 フランス語文法II	1	112 線形代数学II	2	112 線形代数学II	2	112 線形代数学II	2		49 春：25 秋：24		
4年	4	210 英語リーディングII A	1	120 哲学	2	112 コンピュータ演習A	2	112 コンピュータ演習A	2	112 コンピュータ演習A	2				
		210 英語リーディングII B	1	120 論理学	2	112 生命科学I	2	112 生命科学I	2	112 生命科学I	2				
4年	4	210 英語ライティングII A	1	120 西洋史	2	112 生命科学II	2	112 生命科学II	2	112 生命科学II	2				
		210 英語ライティングII B	1	120 社会学	2	112 情報科学概論	2	112 情報科学概論	2	112 情報科学概論	2				
4年	4	210 英語コミュニケーションII A	1	120 法学	2	112 基礎化学実験法	2	112 基礎化学実験法	2	112 基礎化学実験法	2				
		210 英語コミュニケーションII B	1	120 日本憲法	2	201 無機分析化学実験	4	212 基礎物理学C	2	213 分析化学I	2	214 無機化学I	2	225 基礎地学I	2
4年	4	210 英語コミュニケーションII A	1	120 経済学	2	212 基礎物理学D	2	213 物理化学I	2	213 物理化学I	2	214 無機化学II	2	225 基礎地学II	2
		210 英語コミュニケーションII B	1	120 自然科学史	2	212 線形代数学D	2	213 物理化学II	2	213 物理化学II	2	214 有機化学I	2	225 基礎地学III	2
4年	4	210 英語ライティングIII A	1	120 科学倫理	2	212 線形代数学I	2	214 有機化学I	2	214 有機化学I	2	214 有機化学II	2	225 化学演習I	2
		210 英語ライティングIII B	1	120 環境学	2	101 生命科学入門実験	2	214 有機化学II	2	214 有機化学II	2	214 有機化学III	2	225 化学演習II	2
4年	4	210 英語コミュニケーションIII A	1	120 サイバー社会入門	2	212 基礎物理学実験I	2	313 分析化学II	2	313 分析化学II	2	314 無機化学III	2	225 高分子化学	2
		210 英語コミュニケーションIII B	1	120 芸術と技術	2	301 物理化学実験	4	312 化学数学	2	313 物理化学IV	2	314 無機化学IV	2	325 化学演習III	2
4年	4	210 英語ライティングIII A	1	120 近代日本とアジア	2	301 有機化学実験	4	313 物理化学V	2	313 物理化学V	2	314 有機化学IV	2	325 化学演習IV	2
		210 英語ライティングIII B	1	120 地誌学	2	401 外国書読解	2	313 物理化学VI	2	313 物理化学VI	2	314 有機化学V	2	325 量子化学	2
卒業必要単位数	4	32	12	16	28	24	10	14	20	49	春：25 秋：24	※卒業必要単位数を超えて修得した基礎科目、物理分析化学科目、有機無機化学科目及び理工学部開講専門教育科目の単位数は専門選択科目に算入することができる。			
												96			

※1 他学部開講科目を算入することができる。

※2 卒業に必要な単位数を超えて修得した専門教育科目の単位数を4単位迄算入することができる。

※3 教職に関する科目のうち「教育原論」「発達・学習過程論」を算入することができる。

※4 スポーツ科学・健康科学科目、AI活用人材育成科目、グローバルスタディーズ科目、ライフデザイン科目、基礎・実験科目を算入することができる。

環境・応用化学科 教育課程表 (2020年度入学生用)

履修基準年度	総合教育科目				専門教育科目				履修制限						
	キリスト教科目	英語教育科目	総合選択科目	必修科目	選択必修科目		発展科目			専門選択科目					
					数学・物理科目	地学・生命・情報科目	基礎科目	発展科目							
科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	単位数	単位数	単位数	単位数	単位数	単位数
1年	100 キリスト教A	110 英語リーディングIA	120 ドイツ語読解I	101 基礎化学A	112 線形代数学I	126 環境倫理	215 発展物理化学	326 科学技術英語A	49 春; 25 秋; 24	2	2	2	2	2	2
	100 キリスト教B	110 英語リーディングIB	120 ドイツ語読解II	101 基礎化学B	112 線形代数学II	126 自然環境論	215 発展有機化学	326 科学技術英語B		2	2	2	2	2	2
2年		110 英語ライティングIA	120 フランス語読解I	101 基礎化学C	113 生命科学II	126 海外理工学プログラムA	214 基礎量子化学	315 応用物理化学	48 春; 24 秋; 24	1	2	2	2	2	2
		110 英語ライティングIB	120 フランス語読解II	101 環境化学	113 生命科学入門実験	126 海外理工学プログラムB	214 化学熱力学	315 応用有機化学		1	2	2	2	2	2
3年		110 英語コミュニケーションIA	120 ドイツ語文法I	101 環境化学実験I	113 コンピュータ演習A	126 海外理工学プログラムC	214 有機反応論	315 環境有機材料化学	49 春; 25 秋; 24	3	2	2	2	2	2
		110 英語コミュニケーションIB	120 ドイツ語文法II	101 基礎化学実験II	112 基礎物理学A	126 海外理工学特別プログラム001	214 有機構造論	315 応用物性化学		1	2	2	2	2	2
4年		110 英語IA(*1)	120 フランス語文法I	101 基礎化学実験III	112 基礎物理学B	126 理工学特別プログラム002	214 反応速度論	315 応用地球化学	49 春; 25 秋; 24	2	2	2	2	2	2
		110 英語IB(*2)	120 フランス語文法II	212 基礎物理学C	112 基礎物理学D	126 理工学特別プログラム004	214 高分子化学	315 環境分析化学		2	2	2	2	2	2
5年		210 英語リーディングIIA	120 物理学	201 基礎物理学実験I	213 基礎地学I	126 国内協定大学科目 1~8	214 分析化学	315 有機工業化学	49 春; 25 秋; 24	2	2	2	2	2	2
		210 英語リーディングIIB	120 西洋史	212 基礎物理学実験II	213 基礎地学II	226 地球環境科学実験	214 有機反応論	315 有機工業化学		2	2	2	2	2	2
6年		210 英語ライティングIIA	120 心理学	301 環境・応用化学実験I	214 基礎地学III		214 有機反応論	315 合成有機化学	49 春; 25 秋; 24	2	2	2	2	2	2
		210 英語ライティングIIB	120 社会学	301 環境・応用化学実験II	212 基礎物理学D		214 有機構造論	315 環境有機材料化学		2	2	2	2	2	2
7年		210 英語コミュニケーションIA	120 日本国憲法				214 高分子化学	315 応用物性化学	49 春; 25 秋; 24	2	2	2	2	2	2
		210 英語コミュニケーションIB	120 経済学				214 地球環境化学	315 応用量子化学		2	2	2	2	2	2
8年		210 英語IIA(*3)	120 自然科学史				214 地球環境化学	315 環境分析化学	49 春; 25 秋; 24	2	2	2	2	2	2
		210 英語IIB(*4)	120 科学倫理				214 分析化学	315 有機工業化学		2	2	2	2	2	2
卒業必要単位数	4	12	16	44	10	4	14	16	8	※卒業必要単位数を超えて修得した地学・物理科目、地学・生命・情報科目、基礎科目、発展科目及び理工学部開講専門教育科目の単位数は専門選択科目に算入することができる。					
		(*1)、(*2)、(*3)、(*4)は、全学科目である。それぞれ、2回修得すること。								96	128				

※1 他学部開講科目を算入することができる。
 ※2 卒業に必要な単位数を超えて修得した専門教育科目の単位数を4単位迄算入することができる。
 ※3 教職に関する科目のうち「教育原論」「発達・学習過程論」を算入することができる。
 ※4 スポーツ科学・健康科学科目、AI活用人材育成科目、グローバルスタディーズ科目、ライフデザイン科目、基礎・学際科目を算入することができる。

生命科学科 教育課程表 (2020年度入学生用)

履修基準年度	総合教育科目				専門教育科目				履修制限	
	キリスト教科目	英語教育科目		総合選択科目		必修科目		選択必修科目		
		科目名 単位数	科目名 単位数	科目名 単位数	科目名 単位数	科目名 単位数	科目名 単位数	科目名 単位数		科目名 単位数
1年	100 キリスト教A 2	110 英語リーディングI A 1	120 ドイツ語読解I 1	101 生命科学I 2	112 生命有機化学 2	213 生命工学 2	125 情報科学概論 2	49 春：25 秋：24		
	100 キリスト教B 2	110 英語リーディングI B 1	120 ドイツ語読解II 1	101 生命科学II 2	112 生命科学倫理 2	213 生化学 2	125 人間システム工学概論 2			
2年		110 英語ライティングI A 1	120 フランス語読解I 1	201 細胞・組織学実験 3	112 化学概論 2	213 薬理学 2	125 自然環境論 2	48 春：24 秋：24		
		110 英語ライティングI B 1	120 フランス語読解II 1	201 生命分子・生化学実験 3	112 微積分学I 2	213 分子遺伝学 2	125 海外理工学プログラムA 1			
3年		110 英語コミュニケーションI A 1	120 ドイツ語文法I 1	301 先端生命科学実験I 8	112 基礎物理学A 2	313 バイオインフォマティクス 2	125 海外理工学プログラムB 1	49 春：25 秋：24		
		110 英語コミュニケーションI B 1	120 フランス語文法II 1	301 先端生命科学実験II 8	112 基礎物理学B 2	314 植物分子生物学 2	125 海外理工学プログラムC 3			
4年		110 英語コミュニケーションII A 1	120 哲学 2	401 外国書講読 2	112 基礎化学A 2	314 遺伝子工学 2	125 理工学特別プログラム001 2	49 春：25 秋：24		
		110 英語コミュニケーションII B 1	120 倫理学 2	401 輪講 2	112 基礎化学B 2	314 染色体機能学 2	125 理工学特別プログラム002 2			
卒業必要単位数	4	12 (*1)、(*2)、(*3)、(*4) は、全学科目である。それぞ れ、2回取得すること。	16	44	16	12	12	425 先進エネルギーナノ工学詳論 2		
	32									

※1 他学部開講科目を算入することができる。
 ※2 卒業に必要な単位数を超えて修得した専門教育科目の単位を4単位迄算入することができる。
 ※3 教職に関する科目のうち「教育原論」「発達・学習過程論」を算入することができる。
 ※4 スポーツ科学・健康科学科目、AI活用人材育成科目、グローバルスタディーズ科目、ライフデザイン科目、基礎・学際科目を算入することができる。

情報科学科 教育課程表 (2020年度入学生用)

履修年度	専門教育科目										履修制限							
	キリスト教科目		総合教育科目		必修科目		情報科学実習科目		選択必修科目			発展科目		人間システム工学系科目		専門選択科目		
	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名
1年	100 初級英学A	2	120 トピック語読解I	1	101 情報科学概論	2	114 微積分学I	2	115 基礎物理学A	2	116 人間システム工学概論	2	127 生命科学I	2	227 基礎物理学実験I	2	48 春:25 秋:23	
	100 初級英学B	2	120 トピック語読解II	1	101 キャリアデザイン論	2	114 線形代数学I	2	214 情報科学のための確率統計	2	216 制御工学	2	127 生命科学II	2	227 基礎物理学実験II	2		48 春:25 秋:23
2年	110 英語リーディングIA	1	120 フランス語読解I	1	101 コンピュータ演習A	2	114 論理回路学	2	215 数理論理学	2	216 メディア信号処理	2	127 情報化社会と人間	2	227 基礎物理学実験III	2	48 春:25 秋:23	
	110 英語リーディングIB	1	120 フランス語読解II	1	101 プログラミング実習I	2	114 微積分学II	2	215 デジタル信号処理	2	216 メディア・ロボット実験	2	127 メディア社会学	2	227 基礎物理学実験IV	2		48 春:25 秋:23
3年	110 英語リーディングIIA	1	120 トピック語読解III	1	101 プログラミング実習II	2	114 線形代数学II	2	214 情報理論	2	216 コンピュータネットワーク	2	127 海外理工学プログラムA	1	227 基礎物理学実験V	2	48 春:25 秋:23	
	110 英語リーディングIIB	1	120 フランス語読解III	1	201 プログラミング実習III	2	114 離散数学	2	214 ネットワーク	2	216 ネットワーク設計論	2	127 海外理工学プログラムB	1	227 基礎物理学実験VI	2		48 春:25 秋:23
4年	110 英語リーディングIIIA	1	120 哲学	2	201 プログラミング実習IV	2	114 コンピュータアーキテクチャ	2	214 データ構造とアルゴリズム	2	312 数理計画法実習	1	127 海外理工学プログラムC	1	327 科学技術英語A	2	49 春:24 秋:25	
	110 英語リーディングIIIB	1	120 論理学	2	301 情報システム領域実習A(*5)	1	114 離散数学	2	214 データベース	2	312 知識情報処理実習	1	127 海外理工学プログラムD	1	327 科学技術英語B	2		49 春:24 秋:25
卒業必要単位数	4	12	16	26	26	4	2	24	16	8	16	8	16	16	49 春:24 秋:25	32	96	

※1 他学部開講科目を算入することができる。
 ※2 卒業に必要な単位数を超えて修得した専門教育科目の単位を4単位迄算入することができる。
 ※3 教職に関する科目のうち「教育原論」「発達・学習過程論」を算入することができる。
 ※4 スポーツ科学・健康科学科目、AI活用人材育成科目、グローバルスタディーズ科目、ライフデザイン科目、基礎・学際科目を算入することができる。
 ※5 総合政策学部開講科目は専門選択科目ではなく、総合選択科目に算入される。

※卒業必要単位数を超えて修得した情報科学実習科目、人間システム工学実習・実験科目、基礎科目、発展科目、人間システム工学系科目及び工学部開講専門教育科目の単位数は専門選択科目に算入することができる。

2. 卒業可否の確認方法について 〈教育課程表を用いた例〉

卒業可否の確認方法について 〈教育課程表を用いた例〉

履修基準年度	総合教育科目		専門教育科目		履修制限				
	キリスト教科目	英語教育科目	総合選択科目	必修科目					
	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	
1年	100 キリスト教学A—2 100 キリスト教学B—2	110 英語リーディングI—A 110 英語リーディングI—B 110 英語ライティングI—A 110 英語ライティングI—B 110 英語コミュニケーションI—A 110 英語コミュニケーションI—B 110 英語I A(*1) 110 英語I B(*2)	120 ドイツ語読解I 120 ドイツ語読解II 120 フランス語読解I 120 フランス語読解II 120 ドイツ語文法I 120 ドイツ語文法II 120 フランス語文法I 120 フランス語文法II 120 哲学 120 論理学 120 西洋史 120 心理学 120 社会学 120 法学 120 日本国憲法 120 経済学 120 自然科学史 120 科学倫理 120 環境学 120 サイバー社会入門 120 芸術と技術 120 近代日本とアジア 120 地誌学 体育方法学演習C—2 体育方法学講義C—2	101 微分積分I—4 101 線形代数I—4	112 微分積分II—4 112 線形代数II—4 112 数学入門演習—2 112 基礎物理学A—2 112 基礎物理学B—2	113 ヨンピュータ演習A—2	126 情報科学概論 126 人間工学と工学概論—2 126 海外理工学プログラムA 126 海外理工学プログラムB 126 海外理工学プログラムC 126 理工学特別プログラム001 126 理工学特別プログラム002 126 理工学特別プログラム004	46 春; 23 秋; 23	
	2年	210 英語リーディングII—A 210 英語リーディングII—B 210 英語ライティングII—A 210 英語ライティングII—B 210 英語コミュニケーションII—A 210 英語コミュニケーションII—B 210 英語II A(*3) 210 英語II B(*4)	212 基礎解析学I—4 212 基礎解析学II—2 212 関数論入門—2 212 集合と位相 212 確率統計入門—2 212 応用数理入門—2 212 代数入門—2 212 幾何入門—2 312 解析学I—4 312 解析学II—4 312 常微分方程式—2 312 偏微分方程式—2 312 線形解析—2 312 確率統計I—2 312 確率統計II—2 312 応用数理I—2 312 応用数理II—4 312 幾何学I—4 312 代数学I—4 312 代数学II—4	213 数式処理演習I—2 213 数式処理演習II—2	313 統計コンピュータ演習—2 313 シミュレーション演習—2	326 科学技術英語A—2 326 科学技術英語B—2 326 科学技術英語セミナー—2	46 春; 23 秋; 23		
3年									
4年									
卒業必要単位数	4 / 4	12 / 12 (*1)、(*2)、(*3)、(*4) は、全科目である。それぞ れ、2回修得すること。	16 / 16 ※1、※2、※3、※4	8 / 8	56 / 48	8 / 4	16 / 14	22 / 22 10 / 22	48 春; 24 秋; 24
		32	96		④単位		②単位		⑥単位
				128					

※卒業必要単位数を超えて修得した基礎科目、コンピュータ科目、発展科目及び理工学部開設専門教育科目の単位数は、専門選択科目に算入することができる。

※1 他学部開講科目を算入することができる。
 ※2 卒業に必要な単位数を超えて修得した専門教育科目の単位数を4単位迄算入することができる。
 ※3 教職に関する科目のうち「教育原論」「発達・学習過程論」を算入することができる。
 ※4 スポーツ科学・健康科学科目、AI活用人材育成科目、グローバルスタディーズ科目、ライフデザイン科目、基礎・学際科目を算入することができる。